福島市民憲章作文コンクール（中学生の部）
作品集の発刊に寄せて

「福島市民憲章作文コンクール」は、市民憲章の普及、啓発のため市内の中学一年生を対象に行っており、十五回目の開催となる今回は、私立中学校を含む市内十八校から百二十四点の応募をいただきました。

応募いただいた生徒のみなさんに御礼を申し上げますとともに、本コンクールを通して、市民憲章の精神がさらに多くの皆様に浸透される機会となるよう願っております。

さて、応募のありました作品を読ませていただきましたところ、自然の大切さ、地域の人々とのつながり、交通事故の防止などのテーマが多く見受けられました。

このことから、植物や水など福島市の豊かな自然を守り後世につなげていきたいという思いや、ゲームやスマートフォンなどが普及し顔を合わせて交流することが少なくなってきた社会だからこそ地域の人々とのふれあい、つながりをつくっていかなければならないという思いなど、身近な課題について真摯に向き合う姿勢が強く感じられました。

各々の立場から自分に出来る事は何かを真剣に考える姿勢は、市民がすすんでまちづくりに参加し、それぞれがイメージする理想のまちへ近づけていきたいという市民憲章の趣旨に合致しており、同世代の中学生の皆さんをはじめ、ぜひ大人の方々にも読んでいただきたい内容となっております。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限りない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。これからも、市民憲章の意義を一人でも多くの市民の皆様にお伝えし、「住んで良かったと、心から思える福島市」になりますよう普及啓発に努めてまいりますので、皆様もぜひ市民憲章を日常生活に活かしていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたってくださいました先生方をはじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げ、あいさつといたします。

令和二年一月

福島市民憲章推進協議会会長
山本和宏

ふるさとを創る喜び
できることと感じること

「福島市民憲章作文コンクール」は、中学一年生が、純粋で真剣な目で、家族を、地域を、福島市を、そして、未来を見つめた心の叫びです。中学一年生は、大人でもあり子どもでもある多感なときです。だからこそ、私たち大人はドキッとさせられます。新鮮な驚きを感じます。

きっと、この子らは忘れないでしょう。自分の書いた文章を、自分が考えた意見を、自分が感じた感情を。だから、未来につながるはずです。新しい時代を作ってくれるはずです。私たちの福島市を守り、育てるはずです。

コンクール開催の企画をしてくださった方々、ご指導いただいた先生方、応募した中学生諸君。支援して下さった方々、多くの皆様に感謝申し上げます。

僕にできることは何だろう
　自然を大切にすること
　ポイ捨てをしないこと
　果物をおいしくいただくこと
　元気なあいさつができること
　地域のために活動すること
　ありがとうと言えること
　お年寄りと話すこと
　知らなかったことがわかるようになること

私が感じることは何だろう
　自然の良さを感じること
　ポイ捨てはいけないと思うこと
　果物を自慢できること
　元気なあいさつは気持ちいいこと
　地域の人に感謝すること
　お年寄りを大切にすること
　ありがとうと言われてうれしくなること
　わからないことが知りたくなること

できることがある　できることから始めよう
感じることもある　感じることから伝えよう

そうすれば
　できることが増えていく
　感じることが増えていく

そうなれば
　できないことが減っていく
　感じないことが減っていく

そういう人が集まれば
　僕の望む福島に
　私の望む福島に

僕と私の未来ができる

令和二年一月

福島市民憲章推進協議会委員
福島市中学校長会　福島市立蓬莱中学校長
古川　豊

目　次

◇金　賞

今までありがとう、今度は私が　福島市立信陵中学校　佐藤公香……1

◇銀　賞

親切で愛情あふれる町づくり　福島市立信陵中学校　吉田彩心歌……2
緑あふれる自然に触れて　福島市立立子山中学校　三浦瑞紀……3

◇銅　賞

今からできること　福島市立蓬莱中学校　大原双葉……4
助け合えるまち　福島市立信陵中学校　氏家悠花……5
僕の育ったまち　福島市立信陵中学校　七宮孝徳……6
みどりあふれる福島市　福島市立松陵中学校　野地優里……7

◇佳　作

全員で作る福島市　福島市立福島第二中学校　安齋志保……8
すりかみ浄水場　福島市立福島第二中学校　松本優……9
ちょっとした『心がけ』　福島市立渡利中学校　菅原優冴……10
お年寄りとのかかわり　福島市立渡利中学校　木村旭翔……11
あいさつで作る安心な町　福島市立蓬莱中学校　古山渉夢……12
親切で愛情あふれる街　福島市立蓬莱中学校　丹治宏文……13
あいさつは福島をつくる　福島市立清水中学校　小林優里野……14
自然と共に　福島市立信陵中学校　髙林由依……15

美しいまちにするために　福島市立西信中学校　阿部瑚花……16
水と緑に恵まれたふるさとと福島　福島市立西信中学校　手塚七海……17
心が入っている荷物を　福島市立松陵中学校　塩谷縁……18
笑顔あふれる福島市に　福島市立信夫中学校　太田愛結里……19
福島市民憲章を活かし輝く福島市へ　福島市立野田中学校　佐藤由唯……20

わらじ祭り　福島市立福島第二中学校　佐藤璃子……21
地元の自然の美しさ　福島市立福島第二中学校　石川晴香……22
じょーもぴあ宮畑遺跡　福島市立福島第二中学校　渡辺広大……23
年に一度の例大祭　福島市立福島第二中学校　青田乃愛……24
隠された信夫山の魅力　福島市立福島第二中学校　五十嵐冬羽……25
果物がおいしいフルーツライン　福島市立福島第二中学校　新野羽菜……26
一万年以上前の福島　福島市立福島第二中学校　森﨑野乃子……27
高湯温泉　福島市立福島第二中学校　伊藤瞬……28
生まれ育った福島市　福島市立岳陽中学校　鈴木佑真……29
芯から愛情あふれる町へ　福島市立岳陽中学校　ホーレス千花……30
わたしたちの町づくり　福島市立渡利中学校　佐藤亜沙美……31
福島市の水道水　福島市立渡利中学校　丹治歩……32
きれいなみどりのまちをつくるために　福島市立渡利中学校　石和穂香……33
自然豊かな福島　福島市立渡利中学校　遠藤日向子……34
みどりのまちを目指して　福島市立渡利中学校　岡崎煌士……35
みどり豊かな福島をつくるために　福島市立渡利中学校　阿久津優菜……36
福島市民憲章を知ってもらうために　福島市立渡利中学校　阿部心美……37

小さな事から大きな未来	福島市立渡利中学校	田仲　陽香	38
栄えた福島駅前をつくりましょう。	福島市立蓬莱中学校	菅野　芽吹	39
身近なことから	福島市立蓬莱中学校	佐藤　諒和	40
みんなのきれいな町作り	福島市立蓬莱中学校	合屋　昇竜	41
空も水もきれいなみどりのまち	福島市立蓬莱中学校	二階堂　柚葵	42
安全なまち作りについて	福島市立蓬莱中学校	菅野　里汐	43
福島市民憲章について	福島市立蓬莱中学校	齋藤　妃那	44
みんなでつくる安心の街	福島市立蓬莱中学校	伊達　由華	45
福島市をよりよくするためには	福島市立清水中学校	宮本　愛梨	46
親切あふれる福島市に	福島市立清水中学校	宮本　友里愛	47
愛情あふれる福島市をつくるために	福島市立清水中学校	安齋　実桜	48
私の大好きな安心安全な福島	福島市立清水中学校	大和田　陽菜	49
福島を世界一綺麗にするために	福島市立清水中学校	出口　佳汰	50
親切な心を持って	福島市立清水中学校	武藤　花音	51
福島市をより良くするために	福島市立清水中学校	村山　陽奈子	52
親切で愛情あふれるまちへ	福島市立清水中学校	庄司　結	53
絆をつくる町	福島市立清水中学校	菅野　萌依	54
思いやりのある福島市をつくるために	福島市立信陵中学校	菅藤　宏重	55
安全で健康なまち	福島市立信陵中学校	宍戸　杏花里	56
地域のために私ができること	福島市立信陵中学校	平野　七星	57
親切で愛情あふれるまちをつくる	福島市立信陵中学校	菊地　優杏	58
僕を見守る地域の目	福島市立信陵中学校	渡邊　誠也	59
世界の手本となる行動を	福島市立北信中学校	阿部　小倖	60

まちづくりのためにできること	福島市立北信中学校	西牧　桜	61
一人一人ができること	福島市立北信中学校	齋藤　舞依	62
私たちができること	福島市立北信中学校	小野　千咲	63
安全で健康なまちづくり	福島市立北信中学校	久間木　香里	64
私 達 の 環 境	福島市立北信中学校	酒井　奈緒子	65
自然がきれいな福島市に	福島市立北信中学校	高橋　莉桜	66
福島をより良くするために	福島市立北信中学校	本多　海音	67
僕の好きな福島市	福島市立北信中学校	山北　遥斗	68
空も水もきれいなまちにするため	福島市立北信中学校	渡辺　悠里	69
自然豊かな福島にするために	福島市立西信中学校	遠藤　来夢	70
緑の町を守ろう	福島市立西信中学校	秋山　花愛	71
美しい福島市のために	福島市立西信中学校	木幡　菜々子	72
親切で愛情あふれるまちをつくる	福島市立西信中学校	田中　夕捺	73
みんなが親切で愛情あふれる町をつくろう	福島市立立子山中学校	斎藤　愛姫	74
みんなが安全で健康な町をつくろう	福島市立立子山中学校	大内　那夏	75
自然豊かなまちづくり	福島市立立子山中学校	三浦　ゆい	76
よりよい福島市を目指して	福島市立大鳥中学校	後藤　陽菜	77
自然を守り美しい町を作りましょう	福島市立西根中学校	小松　漣	78
まちをきれいにするために	福島市立松陵中学校	服部　敬吏	79
つい最近まで私は……	福島市立松陵中学校	阿部　寧々	80
住みよい福島市にするために	福島市立松陵中学校	阿部　友季菜	81
福島市の一歩	福島市立松陵中学校	菅原　惟可	82
すてきな福島市に	福島市立松陵中学校	菅野　菜美	83

『思いやり』のある町へ　福島市立松陵中学校　齊藤由真……84
安全なまちに　福島市立松陵中学校　明石侑子……85
地域と交流してつくる町　福島市立松陵中学校　二階堂和希……86
私の大好きな町　福島市立信夫中学校　野地志保……87
親切・愛情・助け合い　福島市立信夫中学校　山田敏生……88
笑顔にする親切　福島市立信夫中学校　阿部蒼空乃……89
自然を大切に　福島市立信夫中学校　鈴木優菜……90
福島の自然とごみ問題　福島市立信夫中学校　八巻航大……91
『福』が訪れるような街へ　福島市立信夫中学校　斎藤彩乃……92
地域の人の温かさ　福島市立信夫中学校　内田遥南……93
みんなで作ろう福島の未来　福島市立信夫中学校　渡辺優香……94
親切と愛情　福島市立野田中学校　加納芽依……95
福島の明るい未来のために　福島市立野田中学校　江尻翔瑛……96
私が気づいた大切なこと　福島市立野田中学校　玉根雛菜……97
福島市民の笑顔に向かって　福島市立野田中学校　森口実歩……98
福島市のいいところ　福島市立吾妻中学校　加藤陽菜……99
きれいな町づくり　福島市立吾妻中学校　伊藤美輝……100
市民憲章と今の福島市　福島市立吾妻中学校　紺野功晴……101
よりよいまちを作るために　福島市立吾妻中学校　佐々木颯大……102
だれにでも親切で愛情あふれるまち　福島市立吾妻中学校　三浦心菜……103
美しい環境で事故のない健康なまち　福島市立吾妻中学校　吉田大翔……104
福島の環境をより良くするために　福島市立吾妻中学校　尾形知哉……105
思いやり　福島市立吾妻中学校　小川舞瞳……106

協力し安全なまちをつくりましょう	福島市立吾妻中学校	佐々木　葵	107
人と自然が関わるきれいな町	福島市立吾妻中学校	小関　遙音	108
親切で愛情あふれる町にするには	福島市立飯野中学校	高野　愛琶	109
大切な自然を残すために	福島市立飯野中学校	金谷　真緒	110
福島の自然を守っていくために	福島市立飯野中学校	高荒　大和	111
私の好きなまちをつくるために	福島市立飯野中学校	髙橋　那奈	112
きまりを守る町をつくるため	福島市立飯野中学校	根本　靖珠	113
明るい未来へ	福島市立飯野中学校	渡邉　陽南乃	114
福島に輝く希望を	福島市立飯野中学校	寺岡　佳音	115
新しい未来をつくるために	福島市立飯野中学校	三浦　凜奈	116
これからの福島の未来	福島市立飯野中学校	鴫原　大翔	117
福島市の未来	福島市立飯野中学校	三浦　伶	118
未来へつなげる福島市	桜の聖母学院中学校	清水　桜花	119
少しの勇気と思いやり	福島成蹊中学校	藤原　寧々	120
一人一人ができること	福島成蹊中学校	熊田　空	121
福島市民憲章について	福島成蹊中学校	菅野　はるか	122
福島にしかない自然	福島成蹊中学校	加藤　ひな乃	123
福島の沢山の自然	福島成蹊中学校	遠藤　綺女	124

金賞

「今までありがとう、今度は私が」

福島市立信陵中学校
佐藤　公香

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」

私が一番最初に目にとまったのは、この文章だった。私の住んでいる地域には、まだ幼稚園に上がってもいない幼児や、もうすでに介護が必要な老人がたくさんいる。もちろん私達のような学生もいて、端から見れば一見騒がしいと思うかもしれない。

でも、この町で暮らしてきて、そんな風に感じた事は一度も無い。なぜなら、町の住民一人一人の仲が良く、今この場所に住んでいて楽しいと思えるからだ。

私の親戚には、もう八十才にもなるお年寄りのおばあさんがいる。高齢者だというのに、毎日のように自転車に乗って買い物に行き、帰宅すると、庭の手入れを始める。私が、

「こんにちは。今日も暑いですね。」

など声を掛けると、そのおばあさんは少し表情を曇らせて、

「誰…だっけな。忘れちゃった。」

と言って苦笑いする。

でも、名前を言えば、すぐ思い出してくれて、いつも通りの笑みを浮かべる。

「おお。こんなに大きくなったんだ。おばあちゃん、身長抜かされちゃったよ。昔はこんなに小っちゃかったのになぁ。」

このセリフは、いつ、何度会っても変わらないのだ。私は、このおばあさんに会うたびに、すごく寂しい気持ちになり、心配で仕方なくなる。夜中に救急車のサイレンが聞こえるたびに、あのおばあさんが頭に浮かび、胸が締めつけられ、眠れない夜を迎える。

なぜ、このおばあさんにこんな気持ちになってしまうのか。それは、自分が幼い頃、よく気を利かせて話しかけてくれたからだった。

「学校は、楽しい？」

「今どんなお勉強してるの？」

「走るの、上手だね。」

など、おばあさんの方から話題をあげてくれて、時には、私の話し相手になってくれた。

また、私が転んでケガをした時には、優しく手当てに当たってくれたこともあった。

思い出してみれば、今、自分が年配の方や小さな子どもと接していて楽しいと思えるのは全て、このおばあさんを含め、近所の人達の温かさのおかげなんだろうと、今になってやっと分かった気がする。

今まで私の事をここまで育て、支え続けてくれた近所の方々には、感謝の気持ちでいっぱいだ。この気持ちをしっかりと伝え、今度は自分が恩返しできるようになりたい。

今回、福島市民憲章について考えてみると、やっぱり福島には「福」があふれていると、改めて実感した。これから私達が大人になっていくにつれて、自分達の力で、今よりもっと「福」であふれるようなまちを作っていきたい。

私はやっぱり、福島が大好きだ。

銀賞

「親切で愛情あふれる町づくり」

福島市立信陵中学校
吉田　彩心歌

私は、小学生の頃、登下校の際に「見守り隊」の方々が、寒い日も、暑い日も、私たち子供が事故にあわないよう、横断歩道のところで見守ってくださり、本当にありがたく感じました。

また、登校の際には「おはよう。いってらっしゃい。」と声をかけていただいたら、「おはようございます。いってきます。」などと返事をして登校し、下校の際には、「おかえりなさい。」と声をかけていただき、挨拶をかわすだけでなく、ほっとするような気持ちになりました。このような日常のなにげないことが、心の安心につながると思います。

ある時は、

「今日はリュックを背負っているけど、どこに行くんだい？」

と声をかけていただき、私は、

「今日は工場見学に行きます。」

と言うと

「気を付けて行って来てね。」

とやさしく声をかけていただきました。

他にも、私と友達の図画工作の作品をほめてくださったり、宿泊学習の帰りには、

「宿泊学習楽しかった？」

と声をかけてくださったので、私もうれしくなりました。

それから、雨の日には「見守り隊」の方々は、カッパを着ていつもと同じように、私たちを見守ってくださいます。また、雪が積もった日には、いつもより早く来て、私たちが、すべって転ばないように歩道の雪かきをしてくださいます。

最近の交通事故は、朝の通学の際に横断歩道をわたっている時、よそ見運転で車が歩道を乗り出して来ての事故や、高齢者のブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故が増えているようです。特に私たちの住んでいるところの横断歩道は、信号機がないところが多いので「見守り隊」の方が、「横断しても良い」と合図しても、よく左右を見て横断することが大切だと思います。

大切な命を守るボランティア活動の「見守り隊」の方々に心から「ありがとうございます」の感謝の言葉を伝えたいです。そして、自分達もできる事をしていきたいと思います。

よりよい町づくりのために私ができることは何かを考えました。

一つ目は、危ないことをしている子が居たら注意することです。私には、幼稚園と小学生の妹がいますが、兄弟でなくても私の周囲の子が危険なことをしていたら、自ら勇気を出して注意をしていきたいと思います。

二つ目は、お年よりに進んであいさつをすることです。お年よりとすれちがったりしたときには明るく、やさしい態度であいさつをすることが、「親切で愛情あふれるまちをつくる」ことにつながると思いました。

銀賞

「緑あふれる自然に触れて」

福島市立立子山中学校
三浦　瑞紀

私の家の周りを見わたすと、緑豊かな自然がたくさんある。春には桜や梅の花が咲き、家の竹林で立派に育ったタケノコを採る。夏には弟がカブトムシやクワガタを捕まえに父と二人で行く。秋には、夕方の空を見上げるとたくさんのトンボが飛び回っている。青々としていた山が、紅葉で赤・黄・オレンジの色へと姿を変える。冬になると、雪が積もった庭で愛犬や弟と一緒に遊ぶ。真っ白な雪が太陽の光に照らされて、きらきらと光っているところがとてもきれいだ。普段の生活から自然に触れ、季節の移り変わりを身近に感じることができる。

さらに、私が住んでいる立子山にはチャレンジガーデンに認定された中田山公園や花の里清水、個人のお宅の庭などがあり、ツツジや一面に咲く芝桜を見ることができる。これは私や立子山の自まんだ。

福島市の花の名所といえば、やはり花見山だろう。サクラやハナモモなど数種類の花々がいっせいに咲く姿はとても美しい。花見山は個人所有の山で、花木生産農家の阿部伊勢次郎さんと、その息子の一郎さんが雑木林を開墾し、花を植えたのが始まりらしい。戦争の間もこつこつと花を植え、長い年月をかけて作り上げた美しさが評判になったのだ。そして、「自然の花の美しさを一人で見るのはもったいない。この喜びを万人のものとしたい」との願いで、昭和三十四年に一般公開された。福島市内だけでなく、全国から約二十万人の観光客が訪れ、親しまれている。たったの二人で花見山を作ったということを知った時は驚いた。あの美しい花見山を作り上げるために、相当な苦労と努力があったはずだ。伊勢次郎さんと一郎さんの努力が、今では福島の宝になっているのだと感じた。調べていくうちに花見山への関心を持ち、私も実際に行ってみたいと思った。また、花見山のことをたくさんの人に知ってもらい、これからも大切にしていきたいと思う。

福島市は山々に囲まれ、自然があふれている。私は福島市民憲章を読み「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」に最も当てはまるのではないかと思う。しかし、道路にごみが捨てられているところを何度か見たことがある。そのため、一人一人がきれいな町を作るという意識をすれば、よりよい福島市になると思う。この自然を大切にしていきたい。

銅賞

「今からできること」

福島市立蓬萊中学校
大原双葉

私は、福島市を親切で愛情あふれる町にするために必要だと考えている事があります。それは、今まで以上におじいちゃんやおばあちゃんとの交流をたくさんすることです。

その理由は今の子供はゲームばっかりで人とのコミュニケーションが少ないと思ったからです。私自身、姉弟とゲームやスマホをいじることに夢中になりすぎて、祖父母の話に耳を傾けず、寂しい思いをさせていると実感する時があります。

こう感じるのは私の家族だけではないと思います。先日、近所のスーパーで盆踊りが開かれ、家族で参加しました。そこには、若者はもちろん、派手な衣装を着たお年寄りの方もいて、小さい子からおじいちゃん・おばあちゃんまで、大勢で盆踊りをしました。大変盛り上がって、町全体が一つになったような気がしてとても楽しかったのを覚えています。このように、皆で一つになれるイベントがもっとたくさん増えて、地域みんなでの交流が盛んになれば、人と人のつながりが感じられて、この福島に今以上に親切や愛情も増えると思います。

親切といえば、私は去年の夏に「大原綜合病院」で職場体験に参加しました。そこで患者さんと看護師さんの会話を聞き、とても心が温まりました。リハビリ中の患者さんが一回一回、足を動かす時に、看護師さんは患者さんの目線までしゃがんで、「痛いところはありませんか。」と聞いていて、患者さんも笑顔でした。病院では当たり前のことかもしれないけれど、辛いリハビリを応援してくれている、見守ってくれているという思いが伝わる、大事な心の交流だと思いました。ふと周りを見ると、病院のあちらこちらで、お年寄りやケガをしている人などに、当たり前のようにやさしく声をかけたり手を貸したりする姿がたくさん目に入りました。数えきれないほどの親切に出会い、病院はたくさんの親切からできているんだと思いました。私も将来看護師になってたくさんの親切を患者さんにしてあげたいです。

このような経験から、親切が増えれば増えるほど、愛情も同じように増えていくことが分かりました。

こうした人と人との交流をたくさん経験することで、福島市はたくさんの親切や愛情があふれる街になると思います。

私の学校では、毎年地域のお年寄りのために行っている「絵手紙ボランティア」というものがあります。毎年恒例の行事なので、生徒は変わっても、お年寄りはとても楽しみに待っていてくれるそうです。もしかしたら絵手紙のプレゼントより、私たち地域の子供とおしゃべりをすることを楽しみにしているかもしれません。それでも、待っていてくれるお年寄りの笑顔を浮かべながら作りたいです。

銅賞

「助け合えるまち」

福島市立信陵中学校
氏家　悠花

私の家の近所には、親切でとても頼もしいおじいさんがいます。登校時には私たちが安全に学校に通えるように見守り隊の仕事をして、下校時に合わせるように犬の散歩に出かけ、いつも私達を見守ってくださいます。

私の家は、共働きなので、家のカギを持って学校に通っています。いつも一番に家に帰るのは私でした。それなのに私はよく、家にカギを忘れたまま学校に行きました。そんな時は、そのおじいさんの家で母や兄が帰るまで待たせてもらったりしています。そこの家には私より年下のお孫さんがいて一緒に宿題をしたり、時々おやつを食べたりしながら過ごしました。

母はよくこう言います。

「お母さんが子供の頃には、近所の人みんな知り合いで、自分が遊ぶ範囲に知らない人はいなかったんだよ。」

福島市民憲章のテーマを読んだ時、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」の中の一つ、「隣近所仲良く、たがいに助けあいましょう」に目がとまりました。最近は、近くに住んでいても、よく顔を知らなかったり、近所の人なのかどうかもわからなかったりすることがあります。それでも、大雪の時に雪で車が駐車場から出れなくなっていた人を、スコップを持って手伝ったり、お湯を持って来て雪を溶かしたり、いつのまにか、近所の人が集まって手伝っているのを見ました。よく知らなくても、近所だからできる助け合いだと思いました。

私の父や母が子供の時には、こんな出来事もあたりまえすぎて、印象に残らなかったのかもしれません。

私は、祖父や祖母と離れて暮らしています。

「こうして声をかけてくれたり、見守っていたりする人たちがいてくれるおかげで、安心して仕事に行くことができるんだよ。」

とよく母が話しています。私もそう思います。父や母が子供の頃のようにとまではいかないかもしれないけれど、地域の助け合いや、地域のみんなで子供を育てているという感じは、何となく分かります。これからは、助けてもらうばかりではなく、子供の自分にもできることを、この大好きな地域のためにしていきたいと思います。例えば、地域で行われている公園の草むしりやゴミ拾い、ラジオ体操などへ積極的に参加したりすることで、近所の人たちとの交流が広がることで、あいさつもしやすくなり、さらに地域が明るく元気になるのではないかと思います。そうすることで、福島市全体が力を合わせていけるような町にしていきたいです。

銅賞

「僕の育ったまち」

福島市立信陵中学校
七宮　孝徳

　僕は、三歳の時に福島市に引っ越して来て、今年で九年目になりますが、初めて「福島市民憲章」というものをこの作文を書く事で知る機会を得ました。「福島市民憲章」は、五つのテーマから成り立っていました。その中でも僕は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というテーマに目が留まりました。

　僕が小学校六年間、安全に登下校できたのは、地域の人々の温かい見守りのまなざしがあったからだと思っています。登校時は、僕達の祖父母や父母達が交代で旗を持ち、明るく笑顔で「おはようございます。気をつけていってらっしゃい。」と声をかけ送り出してくれました。小学校の近くの横断歩道には、雨の日も、風の日も、夏の暑い日も、逆に冬の寒い日も、交通指導員の方は、僕達のはるか先輩達の世代から、十五年以上に残る長い年月を、毎日かかさず、僕達が安全に登校できるように見守り続けてくださいました。僕が卒業した今も変わることなく、僕の後輩達の登校を見守り続けてくださっています。僕は、心の底から感謝すると共に、とても尊敬しています。また、下校時は、仕事をしている僕ら父母達に代わり、地域の高齢者の方々がボランティアで、僕達の下校の様子を見守ってくださいました。中には、小学生一人になってしまわれないように共に歩き家の近くまで見届けてくださるボランティアの方もいました。あの頃は、恥ずかしさもあり、「ありがとうございます。」と言う一言を、言えませんでした。今では、その一言を言えなかった自分の方が恥ずかしく思えます。

　僕達の登下校を見守ってくださった方々が年を重ね、あの頃のように見守る側でなく、見守られる側へと変っているかもしれません。僕達の生きていく時代は、寿命も百歳を超える時が目前になってきています。その中で、「福島市民憲章」テーマの一つである「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」を作る為にも今度は、僕達が見守る側へと成長していかなければなりません。

　その為には、まず僕自身が学校や社会のルールを守り、安全で健康な心身を作る努力をしなければならない事に気が付きました。

　次に、僕は身近な高齢者の方々と日常的に挨拶をかわす事から始めていきたいと思いました。なぜなら僕の母は、僕が幼い頃からすれ違う人達に、挨拶をする人で、その母から「挨拶の声の大きさや表情からその人達の様々な心身の状態を知る事ができ、会話のきっかけになったりするのよ。挨拶は、コミュニケーションでとても大切な事なのよ。」と教えて貰った事を改めて思い出したからです。将来、僕が大人になってからもその行動の輪が広がり、笑顔で挨拶の声があふれる福島市になるように努力し続けたいと思います。

銅賞

「みどりあふれる福島市」

福島市立松陵中学校
野　地　優　里

私は「みどりあふれる福島市」が大好きだ。澄んだ空、豊かな自然、美しい花々。心安らぐふるさとの光景である。

だが、一つ心配なことがある。そのみどりをこれからも維持することができるのか、という点だ。

周りの環境は変化してきている。前までみどりがあふれていた場所は、見渡すと家ばかりだ。何に使われているのかすらわからない建物もよく見かける。私の住んでいる地域はみどりが多い方なため、多少みどりが減ってもまだ大丈夫、というところがあった。しかし、これからも環境が変化し、どんどんみどりが減っていくとなると、やはり心配になってくる。

もちろん、福島市が発展し、生活しやすくなるのが嫌というわけではない。発展するためには土地が必要。土地が必要ということはみどりが奪われてしまうかもしれない。みどりがあふれた福島市はそのままに、人々が暮らしやすくなるのが一番だとは思うが、そううまくはいかないだろう。みどりと暮らしやすさ、どちらをとるかと言えば、私はみどりをとりたい。

これからの福島市を、さらに住みよく希望に満ちたまちに作り上げていくのは、私たち中学生をはじめとした若者たちだ。福島市民憲章のように、すべてが良いまちへ作り上げていくのはとても難しいことだとは思うが、まずは挑戦していきたい。若者の発想力、創造力、そしてエネルギーを結集していけば、豊かなまち作りにつながっていくのではないかと思う。

みどりと暮らしやすさを大切にしていくために、私たちにできることは一体何なのだろうか。

みどりを維持するために、今、中学生たちが大きなことを起こすことは難しい。そこで私は、今の状態を理解することが大事だと感じた。福島市の自然の現状はどうなっているか、問題点と原因は何か、正しく把握しなくてはならない。学ぶことはたくさんある。他にも緑化運動、まちの清掃活動など、今できることはいくらでもある。

今私が抱いているふるさとへの思いを大切にし、いつかこの思いを伝えられるようにしたい。そして、問題意識をたくさんの人に持ってもらい、理想の実現に向けて、力を尽くしていきたいと思う。

みどりにあふれた暮らしやすい福島市にするために。

佳作

「全員で作る福島市」

福島市立福島第二中学校
安　齋　志　保

「福島市民憲章」この言葉を初めて聞いたときの感想は、「難しそう」「大変そう」そして、「自分には関係ないだろう」ということでした。と、いうか福島市民憲章はもう達成できていることだと思っていたのです。

福島市民憲章にもある「空も水もきれいなみどりのまち」私の身近にある信夫山は、春は桜、秋は紅葉など美しい景色を見ることができ、小学校のときは何度も遊びに行っていました。整備がされていて歩きやすく、たくさんの自然にふれることのできる信夫山は、思い出の場所でもあります。また、近くに流れている祓川には、ごみ一つなくすきとおった水が流れています。人がよく通る駅にも、花だんがたくさん並べられていてとてもきれいです。そんなきれいな福島市。ある日、私が祓川を歩いていると、祓川の中に入ってごみを拾ったりコケをとったりするなどのそうじをしている人がいました。祓川がきれいだったのは、そうじをしていた人がいたからだったのです。それを見て私はびっくりしました。ずっと祓川の近くに住んでいた私は、そのときに初めてその人の存在を知りました。私も気づかないくらい、影で地道に美しい川を支えていた人がいたのです。

このことをふまえて考えたとき、私は小学校のときの体験を思い出しました。私が小学六年生のときに、ボランティアとして「花のおもてなし事業」という市のイベントに参加しました。これは、「駅に並べてある花だんを、市民のみんなで植えてきれいな町をつくろう。」というイベントでした。このときは気がつきませんでしたが、私はこのイベントに参加することで、福島をかげで支える一員になっていました。

このように、福島をみていると、山も川もきれいな福島市はかげでたくさんの人に支えられてできているものなんだということが分かりました。今は、かげで支えている人がいるからこその福島市ですが、これからはかげで数人が福島を支えるのではなく、福島市民の全員できれいな福島市がつくれたらいいと思います。そして、全員の福島市のきれいな自然や町をつくることができれば、市民全員が自信を持って「福島は空も水もきれいなみどりの町である。」ということができるのではないかと考えました。

佳作

「すりかみ浄水場」

福島市立福島第二中学校　松本　優

私たちは普段、大量の「水」を使って生活しています。飲むことはもちろん、料理に使ったり、お風呂をわかしたり、プールに入れたり、そうめんを流したり…。とにかく水は、私たちの生活の様々な場面で活躍し、欠かせない存在となっています。

しかし、そんな毎日大活躍している水も、一番最初はあまりきれいではありませんでした。では、その水は、一体どこできれいな飲み水へと姿を変えているのでしょうか。

飲み水は、昔、あぶくま川の水を浄水場できれいにし、使っていましたが、今は、おいしいきれいな水を安心して使えるように、「すりかみ浄水場」が作られて使用されています。

すりかみ浄水場は、福島県内の飯坂町にある、県内で一番大きな浄水場です。平成十五年四月に営業を開始し、今現在も安心して飲めるきれいな水を、福島市、二本松市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町の、合計六の市や町に届けています。

すりかみ浄水場の水は、茂庭にある摺上川ダムから取ってきています。そこから、導水トンネルという、水を運ぶためのトンネルを通り、すりかみ浄水場できれいになります。

ごみや細菌を取り除き、何回にもわたって水を消毒し、きれいな飲み水を生み出しているのです。そこから送水管というパイプのような所を通り、受水池にためられ、配水管で多くの人の家々へと送られていきます。機械などの設備も、定期的に点検されているので、とても安心です。水をきれいにする工程や、水を送るための仕組みなどについては、ユーチューブで簡単に見ることができます。「ケロロン」という、とても可愛い蛙のキャラクターが、すりかみ浄水場の全てを、図を使って分かりやすく説明してくれます。

すりかみ浄水場には、きれいな水を届けてくれるだけでなく、「付近の風景がきれい」というもう一つの魅力があります。すがすがしい青空によく映える、明るい赤茶色の建物で、そのまわりには、春夏秋冬を通して、様々な四季が見られます。春には桜、スミレ、チューリップやヤマボウシなど可愛らしい花。

夏にはヒマワリやマツバギクなどの明るく咲きほこる花。秋には紅く紅葉した桜の葉や、雲海に覆われる神秘的な福島市内。冬には、白梅やサザンカなどの美しい花に加えて、純白の雪とすき通る空のコンビネーションをたん能する事ができます。

このように、すりかみ浄水場は様々な魅力であふれ返っています。美味な水を作り、日本の四季も楽しめる。建物も美しく、「ケロロン」というキュートなキャラクターまでいる。とても素晴らしい施設です。福島に欠かせない所、すりかみ浄水場。きれいな水を作り出す、なくてはならない、福島の宝です。

佳作

「ちょっとした『心がけ』」

福島市立渡利中学校
菅　原　優　牙

私の家の近くには、「花見山公園」がある。春になると、たくさんの花が咲きほこる。花見山公園は、山の所有者である阿部さんが花の管理をし、「花見山」として、無料開放している。シーズン中は、なんと海外からもたくさんの観光客が訪れている。福島市観光ランキングの第一位にもランクインしている。

しかし、ここ最近、花見山公園とその周辺で、福島市の「自然」を乱しているともいえる行動がいくつかみられる。

まず、花見山公園の敷地内でのことだ。花見山公園の敷地内（花見山）には、立ち入り禁止の場所がある。そこにわざわざ入っていき、写真をとる、さらには花の枝を折って捨てたり、持ち去ってしまう人がいるという。せっかく大きくなった桜やレンギョウなどの木が弱ってしまい、将来、花のつき方が悪くなる事もあり得る。これは、花見山を開放して下さっている阿部さんにとって、悲しい事であるのは間違いない。

次に、花見山公園周辺の道路でのこと。友達と花見山公園に訪れた時、道端や歩道に、割りばしやティッシュなどがポイ捨てされていて、不快に思った。近くにゴミ箱はあるはずなのに、なぜ捨てないのだろう。これでは、観光客が減ってしまうかもしれない。

では、本当に福島市はこれで良いのだろうか。胸を張って「福島市は良い市です」と言えるだろうか。私は解決策を一生懸命考えた。それは、福島市民として、手本になること。「心がけ」をもつことである。勇気を出して周りの人に声をかけたりすることも非常に効果的だと思う。ポイ捨てに関しては、拾ってゴミ箱に捨てるのが良いが、ゴミが無いことが一番望ましい。マナー違反が無くなれば、良い市になるし、市民も観光客も笑顔の、すてきなまちになる。

このように、福島市の「自然」は、とてもすばらしいが、ある一人の、「軽い気持ち」による行動によって、汚されてしまう。だが市民一人ひとりのちょっとした「心がけ」によって、福島市は、「快適で明るく住みよいまち」になるであろう。また、福島市に限らず、他の場所でも、マナーを守り、「心がけ」の気持ちを持って、生活してほしいと思う。

私も、「心がけ」を意識して花見山公園、「自然」を守るために、できることから、がんばっていきたい。

佳作

「お年寄りとのかかわり」

福島市立渡利中学校　木村　旭翔

僕は、市民憲章のうちの一つである、「親切で愛情あふれるまち」について、自分の体験に基づきながら、考えていきたいと思う。

先日、日差しが照りに照る中、家族全員で玄関まわりの草むしりに汗水を滴らせながら取り組んでいた。すると、そこを通りかかった近所のおばあさんから、

「いいわねえ。私なんかは一人暮らしで、広いお庭の草むしりはできやしなくて、草が生え放題、伸び放題なのよ。」

と声をかけられた。その言葉から始まり、おばあさんの一方的な会話が数分間続いた。僕は知らない人と会話を続けることは得意ではないので、ただただうなずいていることしかできなかった。

その後、涼しい家に戻って、近所の人について考えてみたところ、近所の人々の大半が高齢者で、更に一人暮らしであるということが分かった。この経験と考えを関連づけて調べてみたところ、全国の高齢者の住居百パーセントのうち、一人暮らしの高齢者が、約七十パーセントで、大半であるということが分かった（内閣府、高齢者の生活環境より）。

このことから、僕が少しでもお年寄りの力になれることはないのかということを考えた。

僕の家には、ペットの犬がいる。時々、犬の散歩に河原へ出かけると、必ずと言っていいほど愛犬を連れたお年寄りに出会う。

「こんにちは。」

の挨拶では終わらず、お年寄りの愛犬自慢が始まる。その話を切る方法が僕には分からず、いつもいつも、つい最後まで聞いてしまう。しかし、それもまた、僕がお年寄りの方々の力になってあげられることなのではないだろうかと、今、気付くことができた。

僕から、お年寄りのためになって、力になってあげられることは挨拶しかできないが、話をしたいと思っている一人暮らしのお年寄りの話を聞いてあげることは、僕にでもできる。

河原で長々とお話をしたお年寄りのその後の顔は、明るい笑顔でいっぱいになっていた。

人を笑顔にする、ということは、とっても素晴らしいことであると思った。

引き続き、こういった一人暮らしのお年寄りの力になってあげられる様々なことを見つけて、すぐに行動に移していき、周りのお年寄りの笑顔をふやしていきたいと思う。

佳作

「あいさつで作る安心な町」

福島市立蓬萊中学校
古山　渉夢

　僕が蓬萊町に引っ越して来たのは、幼稚園の時でした。その時に一番記憶に残っている事は、中学生が道を歩いて横断歩道を渡る時、運転をしていた家族が止まってあげた時の事でした。中学生が後ろをふり返って、丁寧に頭を下げてあいさつをしている姿が、とても記憶に残っています。

　僕は、中学生になり、指導を受けたりした訳でもありませんでしたが、ふり返って頭を下げてお礼のあいさつをするのがあたりまえになっています。しかし他の町内に行くとそんな事をしている人達を見る機会はあまりありません。それは「どうしてなのかなぁ。」と、思う時があります。蓬萊町では、毎日登下校の時間に指導の方々が事故がない様に見守りをしてくださっています。あいさつや声かけなど、ちょっとした一言のおかげで、小さな時から守られている安心感がありました。そして横断歩道で僕たち歩行者のために車が止まってくれると、深々と頭を下げてくれるのです。こういう地域の方々の姿を、毎日小さい時から見てきたので、僕たちも自然とそれが「マナー」であると考え、自然にできるようになりました。「車は止まるのが当たり前」という考えではなく、「止まってくれてありがとう」という感謝の気持ちが伝わる行動だと思います。こうした思いで、雨の日や大雪の日も見守ってくださる方々を見る度にとてもありがたい気持ちになります。先日地域のお祭りで、信号の無い横断歩道を渡っていた時、スピードを出した車に轢かれそうになった事がありました。気をつけて渡らないと大変危険です。僕の地域には、信号の無い横断歩道が数多くあります。お年寄りの方が横断歩道で立ち止まっているのに渡れずにいる姿を見かけたり、車道を横切って行く方など見かけたりすると、これでは、一生懸命地域のために交通安全に力を入れても、事故にあわないか心配になります。こういった場面でも、蓬萊中の先輩方がしてきた様な、立ち止まってあいさつするような、心に余裕をもったコミュニケーションを、世の中の人たちにも、すすめたいです。この良い伝統は、地域の方がいてくださったからこそ、生まれたものです。だから中学生ばかりでなく、地域や、福島市全体で広めていくことで、心の通い合うコミュニケーション手段にするべきです。そうして、僕が感じた「守られている安心感」を市民全員に実感してほしいと思います。あいさつで作る安心な町で生活できる事は、とてもありがたいことという気持ちになります。僕は、蓬萊町で育って本当によかったと思う事が沢山あります。先輩たちを見て育って来たことや、交通安全に力を入れている地域で、沢山の方に見守られ育ってきた、このような気持ちを、大人になっても多くの方に伝えていきたいと思います。

佳作

「親切で愛情あふれる街」

福島市立蓬萊中学校
丹　治　宏　文

夏休みに入ってすぐのことでした。僕が塾の夏期講習会に行くためバスに乗っているときに、僕より前から乗っていたおじいさんが突然イスから倒れ落ちてしまいました。バスは急停止し、乗っていた人達みんなが、そのおじいさんに対して「大丈夫ですか。」と声をかけたり、そばにかけ寄って体を気遣ったりしていました。すると偶然、隣の席に看護師の方が乗っていて、おじいさんに「もしもし、聞こえますか。」と必死に問いかけていました。また別のお姉さんは救急車を呼び、看護師の方が必死に処置をして、見事な連携ができていると感心しました。実はその時、僕は自分のことばっかり考えて、塾のことを優先してバスから降りてしまいました。後ろめたい気持ちで、塾に行っても気になって仕方がありませんでした。あの看護師の方がいなかったら、あのおじいさんはどうなっていたのだろうと思うと、偶然とはいえ、あの場に居合わせ、見ず知らずのおじいさんを助けようとしていた人々の姿に、尊敬の気持ちが芽生えて、もし次にこのような場面に出会ったら、迷わず手を差しのべて、人の役に立てるようになりたいと強く思いました。

安心で安全な街にするためには、こうした周りの協力が絶対に必要です。例えば、救急車が走っている時、他の車は歩道の方に車体を向け、救急車が通りやすい環境をつくると、両親から聞いたことがあります。僕はこれを初めて聞いた時、素晴らしいことだと思いました。救命士や医者のように、直接患者さんと関わらなくても、その一つの行動で、人の命を助けることにつながるかもしれないのです。逆にこうしなかったら、一つの命が絶えてしまうかもしれないのです。こういった、一人一人のマナーや思いやりある行動がもっと地域や街全体に広がっていけば、今よく耳にする「あおり運転」のような心ない行動で、みんなに不快な思いをさせることもなくなると思います。

このように、誰にでもいたわり、親切にし、思いやりを持ち、明るい態度で対応することは決して難しいことではありません。先日、自分がバスの中で寝ていて、バス停についたとき、隣の席の人がおこしてくれて非常に感謝しました。もし、自分のまわりで、困っている人や、嫌な思いをしている人がいたらすぐに手を差し伸べて、僕にできることで助けてあげたいです。そういう助け合いや協力の輪がつながって福島市が今より、更に安心で安全な素晴らしい街になるように、頑張って貢献していきたいと強く思います。そして、この行動が意識することなく、自然とできるようになる社会を福島市から始め、やがて全国まで広がるように蓬萊町から造り上げていきたいと思います。今、自分の近くに困っている人がいないか常にアンテナを掲げながら。

佳作

「あいさつは福島をつくる」

福島市立清水中学校
小　林　優里野

私は不思議に思いました。だって知らない人が私に

「おかえりなさい。」

と言ってくるのですから。

小学生のころ、いつも通りの帰り道に突然前から歩いて来たおばあさんに

「おかえりなさい。」

と言われました。見たこともない初対面の人に「おかえり。」と言われるのは、そのころの私にとってとても違和感のあるものでした。

最初はどう返していいかわからず、スッと小さく頭を下げるだけでした。

家に帰ると私は真っ先に母に

「ねぇママ、知らない人がおかえりって言ってきたんだけど…。」

そう言うと母は、

「それはね、優里野のことを思って言ってくれているんだよ。」

と言いました。当時の私には、その言葉の意味はよくわからず、

「へー、そうなんだ。」

と曖昧な感じで終わらせていました。

それから何ヶ月かたった頃、家に向かって薄暗い道を歩いていると前から歩いて来た人が

「あら、おかえり。学校お疲れ様。」

と、笑顔であいさつしてきました。母の言葉を思い出すにも、人と話すのが苦手な私は

「あ、はい。」

と言うだけでした。

ある日、下校中におばあさんが話しかけてきたことがありました。

「ん、今日は学校早かったのねぇ。何かあったの。」

いつものあいさつとは違い、質問をされた私は戸惑いながらも

「今日は水曜日なので二時に帰れるんです。」

と、ぎこちない笑みを浮かべながら答えると

「そうなのねぇ。気を付けて帰ってね。」

と言っておばあさんはどこかに行ってしまいました。

その会話から数週間、あのおばあさんのこともあり、私は人と話すということは、それほど難しいことではないのではないかと感じていました。すると今日も

「おかえりなさい。」

と初対面の人が言ってきました。私は

「ただいまです。ありがとうございます。」

と、返せるようになりました。こうやって地域の人と会話する事はとてもいい事だと思います。あいさつは福島を親切で愛情あふれるまちをつくる事につながります。中学生になり、私は道ですれちがった人には必ずあいさつをするようになりました。他にも車に道をゆずってもらった時も絶対に頭を下げるようにしています。福島が親切で愛情あふれるまちになるよう、私もがんばります。

佳作

「自然と共に」

福島市立信陵中学校
高林由依

五つある市民憲章の中で、一番印象に残ったのは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というテーマです。なぜなら福島は、たくさんの自然であふれているからです。

私の家から見える吾妻山は雪の解ける季節の春頃に雪うさぎが見えます。雪うさぎは、種まきうさぎとも呼ばれていて、春のおとずれとともに種をまく時期の合図になります。地域の農家の人達も種まきうさぎを目印に、田んぼや畑に種をまき始めます。これは、福島の風物詩の一つです。

私の祖父は、家の畑でトマトや玉ねぎ、なすなど他にも四季折々の野菜を育てています。どの野菜もとてもおいしいですが、その中でも水々しく、新鮮なきゅうりが私は大好きです。

そして、私が住んでいる地域には桃、梨、りんごの果樹園がたくさんあります。甘くておいしい桃、ジューシーな梨、蜜が入ったりんごがあり、この立派な野菜と果物ができるのは、空気も水もきれいな福島だからこそだと思います。

祖母は庭に色とりどりの花を植えて育てています。私が朝、花に水やりをしようと改めて辺りを見わたすと、家にかざりをつけたかのように春や夏は花が生き生きと咲いているなと思いました。

夏の夜には窓を開けると、外から川の流れる音、たまにカエルの大合唱、生き物達の鳴き声が混ざり合い、こおろぎやすず虫などの混声合唱が聞こえてくるかのようです。自然な音を聞けるので、とても気持ち良くねむりにつくことができます。

私は、この全ては自然が生み出している力だと思います。ですが今、それを裏切るように地球温暖化が問題となっています。このまま続いてしまえば、当たり前だった自然もなくなるかもしれません。これから住みよい町づくりを進めていくには、一人一人の努力が大事だと思います。中学生の私に今できることは、ごみを多く出さないようにし、使えそうな物はリサイクルをすればごみをあまり燃やさないですみ、二酸化炭素を減らすことができると思います。また、どんな小さな物でもゴミのポイ捨てはせず、道路にゴミが落ちていたら拾い、見ないテレビは消し、使わないコンセントは抜くなどして行動に移すことです。身近なことでも、この小さな努力が自然を守っていけます。自然を壊さないためにも今、自分に出来ること、地球のために何が出来るのかということを同じように考え、行動してくれる人が増えれば増えるほど、この素晴らしい自然はなくなりません。

これが自然と共に生きるということだと思っています。

佳作

「美しいまちにするために」

福島市立西信中学校
阿部　瑚花

私の住んでいる地域にはたくさんの自然があります。森林やきれいな川・野鳥などの様々な自然が見ることができます。私は、この豊かな自然を大切にしていきながら過ごしていきたいと思いました。地区で行われているゴミ拾いに積極的に取り組んだり、自然などに関係するボランティア活動に参加したりして空や水だけでなく地域全体もきれいな環境にしていきたいなと深く感じました。また、このような活動に参加すれば自分にとって良い体験になるのではないかなと思います。

そして、自分の家にも「みどり」を増やしていければいいなと思いました。私の家の庭には木があります。木があると四季の美しい変化をすぐ近くで見ることができます。それに、木や花などの植物があると心がやすらぐのでとてもいいと思いました。また、育てるという目標ができるので花が咲いたときや成長がみられたときに達成感があるのでとても良いと思います。植物は、自然だけでなく育てる自分たちにも良い効果がたくさんあると思うので、家に自然を増やしていきたいなと感じました。

私は、中学校に入学してから「あらかわふるさとの川ウォーキング」というボランティアを行いました。たくさんの人が来てくれて地域の自然を色々な人に伝えて知ってもらうことができました。また、今まで自分が知らなかったことが知れて改めて自分が住んでいるところには豊かな自然があると感じました。

私は、これからもボランティアやゴミ拾いなどを積極的に行って福島市民憲章の一つの「空も水もきれいなみどりのまち」を実現させていきたいなと思いました。

また、このことは「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」などの他のものにもつながっていくのではないかなと感じました。このような活動で隣近所や色々な人と交流を深めたり、仲良くしたりできるなと思います。

今、環境問題が、問題になっていますが一人一人が少しでもいいから行動することによって減ってはいくのかなと思ったので私も少しずつ工夫をしたりして福島市がより美しい環境になれるようにしていきたいです。また自分の地域だけでなく他の場所の美しい自然を探してずっと大切にしていければいいなと思いました。

私は、福島市民憲章を意識し福島市が発展できるよう過ごしていきたいです。

佳作

「水と緑に恵まれたふるさとと福島」

福島市立西信中学校
手塚七海

「福島市民憲章」を、はじめて耳にした時、私は、とても難しいことなのだろうと思いましたが市民憲章の趣旨を読み進めると、そうではないことがわかり、とても興味がわいてきました。

今年から私も中学生になり、少しずつですがいろいろな事を学び、社会に関しても、小学生のころより、知りたいという意欲がふえました。そして、今年六月には、ボランティア活動で、「あらかわ・ふるさとの川ウォーキング」に参加しました。

荒川は、福島市に流れる川で日本一、川がきれいだと知りました。荒川には、水林の自然林もあり、とても空気もすんでいて、気持ちがいい場所です。そんなステキな場所を歩く人達も、みんなイキイキし、楽しそうでした。ボランティアをする中で、私の育った場所を笑顔で歩いてくれる人達がいることをうれしく思いました。

このように、きれいな自然林があり、川もあり、気持ちのよい風も体験できるのは、地元の大人の人達が、ゴミを拾ったり、自然を残そうと協力してくれているからだと思います。それをこれから受けついでいくのは、私達です。私達も、このきれいな荒川や自然を守ろうと努力しなくてはならないのだと、思います。

これから社会に出る私達が、ゴミを持ち帰らないで、ポイ捨てなどのマナーを守れない行動をする事で、きれいな自然を少しずつ失っていくと思います。そうならないためにも、少しの行動、ちょっとした行動を一つ一つしていくことで、荒川や自然林がきれいなままでいられるよう、これから行動していこうと思いました。

私達のそういう行動が、福島のきれいなまち、自然の美しいまちづくりにつながっていく。

そう感じることができました。

みんなで、空も水もきれいなみどりのまちを作れるように、自然を愛し大切にして、木や花がある、緑にかこまれて、きれいな川が流れるきれいなまち「福島」がほこりになるように、くふうしながら、これからも、ボランティアに参加して、少しずつ、みどりのあるまちにしてきれいにできるように、行動していきたいと思いました。

佳作

「心が入っている荷物を」

福島市立松陵中学校
塩谷　緑

僕は、小学校一年生から六年生まで、登校時や、行事などで地域の方々に助けてもらっていました。地域の皆さんは、いつも僕たちに優しく声をかけてくれ、温かく見守ってくれていました。そんな親切な地域の方々に支えられ、僕はここまで成長することができました。

しかし、そうしてお世話になっているにもかかわらず、重い荷物を持っている高齢者の方を僕は何度も見ていますが、面倒だと思い、手伝ったことはありませんでした。僕は地域の方々が僕たちのために動くのは当たり前だと思っていたのです。自分は動かなくても良いと結論づけていたので、無視をしてしまいました。今考えると何て自分勝手で、思いやりのない行動だったのかと思います。

六年生の夏休みに、友達と遊ぶ約束をして待ち合わせ場所で一人で待っていたときのことです。重そうな荷物を持っていた高齢者の方が、坂を登ろうとしていました。そこで僕は咄嗟の判断で、手伝うことができました。後で僕は、小学校一、二年生のときとは違って、自分で判断して、自分で行動できるようになったのだと感じることができました。

でもまだ僕は、人前で人助けをすることは、恥ずかしくてできません。そう考えると、何十人、何百人という児童を守ってくれている地域の方々はすごいと思いました。

地域の皆さんは、なぜ人前で恥ずかしがらずに、子どもたちを交通事故などから守れるのでしょうか。それは、本気で子どもたちを守ろうとしているからだと思います。本気で子どもたちを守っているから、本気で子どもたちを大切に思っているから、暑い日も、寒い日も毎日欠かさず恥ずかしがらずに子どもたちに声をかけ、見守り活動をしているのだと思いました。

このようなことを考えると、もう地域の方々には、感謝しかありません。僕が持った物に入っている重い荷物と、地域の方々が持っている、心が入っている重い荷物とでは、責任感と愛情が全然違い、比べものにならないと思いました。

親切で愛情あふれるまち。それは、人と人との心のつながりからうまれるものだと思います。一人一人が相手を大切に思う心こそが原点なのではないかと思います。僕ももっと成長して、地域の方々のように、意味が違う重い荷物も持てるようになりたいです。

佳作

「笑顔あふれる福島市に」

福島市立信夫中学校
太　田　愛結里

最近、あおり運転のニュースや記事を目にします。あおり運転は、重大な事故につながるとても危険な運転です。なぜ、そのような行動をとってしまうのか、私はとても残念な気持ちになります。

私は、朝登校する時、信号機のない大通りの横断歩道を渡らなければなりません。車はとてもスピードを出しています。横断歩道前で渡ろうと立っていると、運転手さんは、「どうぞ、どうぞ。」と車を止めて、横断歩道を渡らせてくれます。私は、運転手さんへお礼のあいさつをします。運転手さんもおじぎをしてくれます。私は、朝からとても良い気持ちで学校に行くことができます。運転手さんも急いでいたかもしれません。自分の都合だけではなく、相手を思う気持ち、ゆずり合う気持ちは大切だと思います。

先日、祖父は、自動車の免許を自主返納しました。祖父にとって、自動車の免許はなくてはならないもので、どこへ行くにも車だったので、免許の返納はとても勇気のいることだったと思います。しかし、何かあってからでは遅い、事故を起こしてしまってからでは、取り返しのつかないことになる、と祖父は返納の選択をしました。今まで車の生活だったので不便になりましたが、福島市では、高齢者は無料でバスに乗車できたり、タクシーも割引で乗車できたりします。病院への通院もバスが送迎してくれます。以前は車で行っていたところへも、歩いていくようになり、足や腰も丈夫になってきました。祖父は、毎日散歩するようになり、散歩途中でもたくさん人とあいさつをかわして、益々健康になったように思います。

高齢者が運転する車が事故を起こしてしまう痛ましい事故が、最近、多く報道されています。祖父もそうですが、以前のような体の動きができなくなって、年とともに判断力も低下してくるのだと思います。私は、祖父が免許返納をした判断は、間違っていなかったと思います。

人間は一人だけでは生きていきません。周りの人々の助けや協力、ふれ合いがあって生活は成り立っていると思います。私の住む福島市でも、市民のだれもが住みよく、幸せで、快適な生活が営めるようにと願っています。自分だけでなく、相手を思いやる気持ちを大切に、笑顔の絶えない私の郷土であってほしいです。

私は、市民の一人で、わずかな力にしかなりませんが、少しの力でも、豊かな住みよい生活になるように努力、協力していきたいです。今の生活が営めるのも、だれもが住みよい福島市にするために努力している人がいるからです。そのことに感謝して、私も気がついたらすぐに行動に移し、今以上により豊かな、笑顔の絶えない福島市を作りたいです。

佳作

「福島市民憲章を活かし輝く福島市へ」

福島市立野田中学校
佐藤由唯

私は、福島市民であるのに、市民憲章を全く知りませんでした。そして、募集用紙を読んで初めて知り、五つどれも福島市に必要だなと思いました。

一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という憲章について福島市の水は三年連続最高金賞に輝いています。水がおいしいと料理などもおいしくなるので、これから十年、百年後も水がおいしい福島市であってほしいです。二つ目の「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という憲章について福島市には、こむこむや福島県立美術館などとても学びの場が充実していて、私たちに夢を与えてくれる場所がたくさんあります。そんな学びの施設がこれからも増えていってほしいと思います。三つ目の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という憲章について私は、お年寄りの方や身体障害のある方々に住みやすいと思ってもらえる福島市にしたいと思います。そのためには、例えば電車やバスの中では、お年寄りの人に席をゆずったり、困っている人がいたら声をかけたり、親切な心で接することができる人が多くなると、みんなが住みやすい福島市になると思います。四つ目の「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」という憲章について、今、日本の各地では、きまりを守るという点について薬物を乱用をしたり、殺人が起きたりなどのニュースが毎日のように流れています。そして、楽しく働くということについても若い人と年配の人の意見がすれ違ってしまうことがあるようです。これからの福島市も無事件で若い人の新しい発想と年配の人の知恵でよりよい福島市を目指していきたいと思いました。五つ目の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という憲章について、健康長寿を目指すには、一人一人が生活のリズムを整え、しっかり運動することが大切だと考えます。市内で体を動かすイベントが増えると、体を動かす機会になると思います。

私は今回初めて「福島市民憲章」を知りましたが、福島市について考えたり、今の現状を知ったりする機会になりました。しかし、お父さんとお母さんに市民憲章を知っているか聞いてみたところ、どちらも知らないと答えました。福島市の中には、あまり知っている人がいないのではないかと思ったので、福島市の水について知るイベントだったり、市民全体で体を動かすイベントなど、憲章に関するイベントを考えて、同時に憲章について知ってもらう機会にすれば、市民憲章の理解が深まると思いました。

「わらじ祭り」

福島市立福島第二中学校
佐　藤　璃　子

私がおすすめするのは「わらじ祭り」です。

　わらじ祭りは福島の夏の風物詩です。大きなわらじをかつぎ街をねり歩いたり、わらじ競走や、わらじおどり、ダンシングソーダナイトでわらじ祭りは構成されています。

　昭和四十五年にスタートしたわらじ祭りは今年で五十回目となります。わらじ音頭を作曲した人は福島出身の古関裕而さんです。一番の見所は何といっても日本一の大わらじです。長さ十二メートル、重さ二トンの大わらじを会場に奉納します。日本一というだけあって迫力がすごいです。

　私も昨年ダンシングソーダナイトはわらじ音頭をアップテンポにリメイクした曲で振り付けは各チームで自由です。また、衣装も自由で各チームカラフルなTシャツなど合わせ楽しくおどります。私の参加したチームは小学校の同級生でつくりました。夏休みの間一生懸命練習した結果、賞をとることができました。

　今年六月には「東北きずな祭り」が開催され東北六県の代表するお祭りを見ることができました。福島代表の祭りはわらじ祭りで今年からおどりが変わりました。生演奏によるわらじ音頭になり、今まで以上ににぎやかになりました。

　わらじ競走は小学生・女性・一般に分かれ二チーム対こうでタイムをきそいます。先に金銀のわらじを取った方が勝利となります。一般の部はわらじを十人でかついで走ります。大わらじより小さいわらじをかついで走りますが、とても重そうです。

　わらじおどりは約三十の団体が、おそろいのゆかたでおどり、国道十三号しのぶ通りをおどりながします。私の父の会社も毎年参加しており、以前家族で見に行ったことがあります。沿道は大ぜいの人であふれて、屋台もたくさん出ています。

　このようにわらじ祭りには見所がたくさんあります。小さい子から大人まで参加しても、見ても楽しいお祭りです。

「地元の自然の美しさ」

福島市立福島第二中学校
石　川　晴　香

今回、紹介することは、水辺に咲く松川町の芳水の桜についてです。

まず、芳水の桜が咲いている場所は、松川町という、学生は少ない町ですが、地域全体が仲良く平和な町です。

次に、見どころや様子について紹介したいと思います。

まず、見どころは、シダレサクラ一つ、一つがきれいなところです。「桜一つ、一つきれいなのでは」と思っていませんか。松川町の桜は、周りにごみはなく、ちゃんとルールを守っているので、桜以外にも、気分も良くなります。

次に、周りの景色がなつかしく感じることです。桜の周りには、田んぼ、緑のたくさん広がる自然やおばあちゃんの家などがあり、写真をよく撮る人がいます。

次に、緑のすき間からもれてくる夕日と桜です。よくみなさんは、「夜空の方がきれい何じゃないの」などと思っていませんか。でも、松川町は、夜あまり街灯がないため、夜はあまり見えないのです。ですが、夕日に当たる桜は、神秘的に見えるのです。

次に、松川町への思いを紹介したいと思います。

松川町への思いは、地域の方々は、植物や私達子供を大切に見守ってくれることです。

地域の方々は、私達の知らないところで、花壇に花を植えたり、学校行事に協力して、参加してくれるなどたくさん協力してくれます。なので、桜もきれいに咲くのだと思います。

最後に、松川町での思い出について、紹介したいと思います。

この場所での思い出は、小学校があり、その小学校に通っていました。小学校六年生のはじめに、校外学習で、同級生といっしょに見学学習をしたことがあります。

その時に、この場所について、説明され、このシダレサクラは、歴史が続いていることがわかりました。このサクラは、見た目もきれいだし、環境も良いので、とても良い気持ちで見ることができました。

「じょーもぴあ宮畑遺跡」

福島市立福島第二中学校
渡　辺　広　大

みなさんは、じょーもぴあ宮畑遺跡について知っていますか。じょーもぴあ宮畑遺跡は、国の史跡に指定された縄文時代の遺跡で、福島にたった一つしかない遺跡です。

見どころは、縄文時代に実際に使われたと見られる土器、土偶、勾玉、さらには、縄文人の一日の暮らし方、四季によっての暮らし方、どういう家に住んでいたか、季節によってどのような食べ物を食べていたのか、縄文人達の服装などが詳しく知ることができます。屋外では、小学校・中学校の歴史で勉強した、たて穴住居がたくさんあり、そこの中に入ってみたり、また、実際に縄文人がごみを捨てたと見られる貝塚を見ることができるところです。

そして、施設の様子は、前に家族で行ったときと変わっておらず、まるで、青森県にある三内丸山遺跡のような様子でした。

家族や小学校の校外学習の時に行きましたが、その中での思い出は、土偶や勾玉作りの体験をしたことです。土偶作りの体験では、茶色の特殊なねん土を使って、丸めてみたり、こねてみたりなどをしながら土偶を作っていきます。そのねん土は、すごく堅く、土器の外の部分と同じぐらい堅くて、土偶のような形にするのも一苦労で、一時間以上もかかりました。さらには、土偶の模様や顔はつまようじでオリジナルにやっていいのだが、土偶の形にしてから、三十分までの間に模様や顔を書かないと、ねん土が溶けてしまい、最初からやり直しとなってしまいます。それぐらい作るのに一手間がかかるのですごく難しかったです。でも、縄文人もこれぐらい苦労して作っていたと思うと、自分は少し情けないと思いました。勾玉作りの体験では、長方形を削り、加減をしながら勾玉の形になるまで削ります。バランス良く上手く削るのに、一苦労をして、傾いたり丸みをおびたりするほど難しく、少し丸みをおびた勾玉になってしまいました。そして、二つとも上手く作れなかったが、今でも大切に、自分の部屋に飾っています。

じょーもぴあ宮畑遺跡は、知識や、人が生きることの大切さなどを感じられた場所でした。

じょーもぴあ宮畑遺跡は、福島市岡部にあり、それほど遠くないので、行ける機会があれば、縄文時代のことに触れてみてください。

「年に一度の例大祭」

福島市立福島第二中学校　青　田　乃　愛

私は、年に一度の稲荷神社の例大祭を紹介します。

稲荷神社の例大祭は十月の体育の日がある日の土、日、あと体育の日と三日間にわたって開催される大きなお祭りです。県庁前通りから稲荷神社の前まで並び、さらに稲荷神社の中までも屋台が並びます。たくさんの人が山車を見に来ます。その中には外国人の方もいます。

一日目は、各町内を山車をひいてたいこをたたきながら練り歩きます。私の町内は三日間無事にお祭りに参加できるようにおはらいをしてもらいます。

二日目は、中合百貨店周辺にたくさんの町内の山車が集まります。そして一つ一つ紹介されます。これには私も毎年参加していて、たいこをたたいています。この日のために各町内は、二ヶ月ほどたいこの練習をします。この例大祭は二日目がメインとなっていて一番の見どころです。その日は日付けが変わるまで町はとてもにぎやかで、楽しいです。

私はこのたいこを二才からやっていて、今では二級になりました。私は、二日目の町内が集まるときのちょうちんが輝く景色が好きで十一年間ずっと続けてきました。私の町内では特級になったら黄ぶえになります。それを目指してこれからも続けていきたいです。

三日目は、ほぼ片付けですが自分の町内はバーベキューをします。自分の町内は、行きませんが神社の本殿にお参りに行く町もあります。

私がなぜこのお祭りを紹介したかというと私がいままで行ったことや参加したことのあるお祭りの中で一番楽しいと思ったからです。私はお祭りやにぎわいのある行事が大好きです。それにお祭りなどはみんなを笑顔にする「力」があります。それはとても良いことで、だけど簡単なことではありません。

しかし、例大祭は参加者全員が全力で楽しんでいるし、とてもがんばっています。なので、見ている人も笑顔になります。

この稲荷神社の例大祭はとても魅力があるのでぜひ行ってみてください。

「隠された信夫山の魅力」

福島市立福島第二中学校
五十嵐　冬羽

みなさんは、信夫山へ行ったことが、あるでしょうか。信夫山は、福島盆地の真ん中に一つの島の様にそびえ立っている山です。僕たち中学一年生が生まれるずっと前から、市民たちのいこいの場として、市民と関わってきました。ですが、そんな信夫山は、知名度があまり高くありません。福島の山といえば市外、県外の人に聞くと、花見山やあだたら山吾妻山などしか上がらず信夫山の名前は上がりません。そのためにガイドセンターなどが作られていますが、いまだ知名度に大きな変化は、みられません。

僕も小学生のころ、信夫山に、いやいやと登ったら登る前の印象とは、うってかわってそこから見た景色は、「絶景」で評判以上でした。又、信夫山は、桜などの花々も色々咲いており春・夏・秋・冬のどの季節でも花にあふれた絶景を楽しむことができます。

春は、まんかいの桜が咲きほこり、何種類もの桜を見ることができます。夏になると日本最大の大わらじを使ったわらじ祭りが、信夫山の羽黒神社からスタートします。祭りのあとも、神社に大わらじが奉納されていて見ることができます。秋になると頂上から絶景と登りながら紅葉を楽しむことができます。冬になると雪景色の他大わらじを使ったあかつきまいりが行われます。

このように信夫山は、春、夏、秋、冬のどの季節でも四季折々の顔を見せてくれます。

一方で信夫山を登った時には、花見などのごみが散乱していました。そこでごみ拾いをしていたおじいさんに聞いてみると、

「このごみの量だけ信夫山が有名になった、ということだから、何にも苦しくはないんだよ。」

といっており、そう考えているのは、自分だけじゃなく、本当に信夫山は、市民に愛されているんだなと深く実感しました。でも、訪れる人のマナーも大切だと思います。

他にも、信夫山には、歴史もあります。実は、信夫山、信夫山と言っているけれど実は信夫山は、福島盆地が池だった時のごみや、石、岩などがたまったものなんです。また信夫山の入り口の岩にはあの源義経のお供をしていた弁慶が登る時の足跡と思われる足跡が残っているのです。

又、自然では、県の花のネモトシャクナゲや県の鳥であるキビタキがたびたびおとずれるなど、自然が満載です。

みなさんもぜひ自然も歴史も満載の信夫山に来てみてください。

「果物がおいしいフルーツライン」

福島市立福島第二中学校
新野羽菜

福島のおすすめする場所は、フルーツラインです。フルーツラインは、たくさんの畑が道路沿いにずっと集まってあり、いろいろな果物を食べる事ができる場所です。

フルーツラインの見どころ、一つ目は、いろいろな種類の果物があるという事です。福島市で有名な桃はもちろん、その他にも、梨やりんご、さくらんぼやぶどうなどの果物があり、その果物を一ヵ所で食べる事が出来ます。みなさんも、フルーツラインの果物を食べてみてください。

フルーツラインの見どころ、二つ目は、果樹園で働いている人たちが、とても親切なところです。果物を買うところで働く人たちはみんな、とても明るく、いっしょに話をしていると、温かな気持ちになります。果物の話だけでなく、いろいろな話をしています。ぜひ、フルーツラインで働く人たちと話をしてみてください。きっと、あなたの心が温まりますよ。

私は、フルーツラインに行った時の思い出がたくさんあります。その中の一つは、家族や親せきの人たちとみんなで、果物がりに行ったという思い出です。私は、家族や親せきの人たちみんなで、さくらんぼがりに、行きました。さくらんぼだけでも種類がたくさんあり、おどろきました。さらに、そのさくらんぼがどれも甘くとってもおいしかったです。これが、フルーツラインでの思い出です。みなさんも、フルーツラインで良い思い出を作ってみてください。

私は、このフルーツラインが大好きです。甘くおいしい果物、いっしょにいると心が温まる親切な農家の人たち、二つが合わさると、すてきな思い出が出来ます。そんなフルーツラインが大好きです。みなさんも、フルーツラインに行ってみてください。

果物にふれて、親切な農家の人たちにふれてみてください。きっといい思い出が出来ますよ！福島市の景観百選の一つに選ばれているフルーツラインに、みなさん行ってみてください。そして、フルーツラインの良さを知ってください。

「一万年以上前の福島」

福島市立福島第二中学校
森　﨑　野乃子

一万年以上前、福島はどのような様子だったのだろうか。一万年以上前と言えば縄文時代だ。福島には縄文時代の遺跡を回る事のできる「じょーもぴあ宮畑」通称「じょーもぴあ」という施設がある。

じょーもぴあは福島市岡部の山のふもとにあり、最近、「じょいもん」という建物ができた。

じょいもんでは、間近で遺跡を見られたり、縄文土器や土偶、石器などが展示されていたりする。

展示室の中心部では、縄文時代の四季が模型を使って、分かりやすく説明されている。

そこから分野事に部屋が分かれていて映像や図を使ってより分かりやすく縄文時代の様子を説明している。

ロビーはとても広く、床は遺跡になっていてスリル満点だ。広さを利用して小さなコンサートを行っている。そのとなりには大きな部屋があり、そこでミニプラネタリウムを行ったり体験を行ったりしている。

じょいもんを出ると大きな広場にでる。広場には、たて穴式住居、高い床の建造物や、幼児の墓などの遺跡がある。そのほとんどは中に入ったり間近で遺跡を見る事ができる。

道も整備されており、給水できる場所や休憩できる場所もあるので、散歩をするには、丁度良いと思う。

また、イベントも盛んだ。春・秋まつり、本博という本がメインのイベントなど盛りだくさんだ。

私も、本博やフリーマーケットで親が出したお店のお手伝いをした事があり、一般の方でもお店を出せる。出店も多くあり、おいしいグルメが多くでる。

イベントになると、体験コーナーがより多くでる。主に弓矢体験や火おこし、スタンプコーナー、エコバック作り、たて穴式住居での昔話の読み聞かせなど、縄文時代をテーマにしたものばかりだ。

私は弓矢が特に好きだ。スタッフの方々が作った弓と矢を使い、熊やいのしし、へビなどの絵の的に当てるというものだ。遠くまで飛んだり、的に当たったりした時、スタッフの方々に、

「お姉ちゃんすごいね。」

と言ってもらった時は、とてもうれしく、達成感がある。

このように、スタッフの方々もとても優しく、分からない事があるとていねいに教えてくれる。

じょーもぴあでは、縄文時代の事を分かりやすく知ることができ、イベントや体験も多くあり、楽しくて、温かくて私の大好きな場所だ。福島に来たら、ぜひ、じょーもぴあに来てほしいと私は思う。

「高湯温泉」

福島市立福島第二中学校
伊藤　瞬

　僕が福島でおすすめの場所として高湯温泉を選んだわけは五つあります。

　一つ目は思い出です。僕は家族と行きました。それで白くにごった温泉がとても気持ちよく疲れがとれてリラックスできます。

　二つ目は高湯温泉の周囲の様子です。高湯温泉は山の中で自然もあり鳥の声が聞こえとても落ち着きます。また、高湯温泉は温泉街でお客さんが多くてとても雰囲気がいいと思いました。

　三つ目は場所です。高湯温泉は山の中でその山の標高も七百五十メートルの山です。

　また、高湯温泉の近くには、スカイラインがあり観光地としてもとても有名で紅葉の美しさは見ごたえがあります。

　四つ目は、場所への思いです。高湯温泉から僕の家までの距離は車で約二十分ほどの距離で休日に家族で行くことがあり温泉に入るととても疲れがとれて、また行きたいと思いました。

　五つ目は、見どころです。高湯温泉は、にごり湯で、くさいがはだがすべすべになる美はだ効果があります。その秘密は、源泉百パーセントかけ流しの湯で何も手を加えていないのが見どころです。

　また、最初入ると少し熱いと感じられますが、慣れてくれば、すごく体が温まってとても気持ちのいいのも見どころです。

　高湯温泉は、とても歴史のある温泉で千五百三十二年に発見され、四百八十七年も続いている伝統のある温泉だと感じました。

　僕がこの作文を書いて思ったことは、高湯温泉は、江戸時代から今までとても長い間やっているので、これからも続いてほしい温泉だということです。

　また、外国人や観光客などの人にも、高湯温泉の魅力を感じてほしいと思いました。

　また、高湯温泉に行ってリラックスしてもらいたいと思いました。

　高湯温泉を通して、福島の数多くの歴史を知ってもらいたいと思いました。

「生まれ育った福島市」

福島市立岳陽中学校
鈴　木　佑　真

　福島市で生まれ育った私ですが、これまで「福島市民憲章」のことを知りませんでした。私はこの作文をきっかけとし、福島市のことを考えたいと思いました。
　私は、両親に福島市の良いところを聞いてみました。自然が豊かなところと、おいしい果物がとれるところ、人が優しいところなど数えきれないくらいたくさんあると教えてくれました。私はよく東京に行くことがあります。たくさん便利なところがありますが、人とぶつかって息苦しくなります。福島市に戻ると、空気がきれいで、安全なところだと安心します。
　そこで、「福島市民憲章」の一つ目と五つ目について、考えていきます。
「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」では、真っ先に荒川のことが思い浮かびました。私の通う岳陽中学校のすぐ側を流れています。小学校で教えてもらった時に、八年連続「水質が最も良好な河川」に選ばれていると知りました。今年の六月に家族で参加した「あらかわ・ふるさとの川ウォーキング」では、荒川や荒川周辺の自然の豊かさを実感しました。さらに、私の家の近くにある「荒川桜づつみ河川公園」では、春になるとソメイヨシノが咲き誇ります。このように、福島市はきれいなまちづくりが進められています。
　次に、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」ですが、私には四人の祖父母ともうすぐ二歳になるいとこがいます。祖父たちは、朝晩散歩をしています。まだまだ元気ですが、歳を取っていくとつまづいて転んでしまうかもしれないので、安全に過ごせるようなまちづくりをしてほしいです。また、いとこはよく公園に行って遊ぶのですが、危険な物が落ちていないか心配になります。ですから、危険がない安全な場所で遊んでほしいです。そのためには、子どもからおとしよりまで、全ての市民が、安全で健康なまちづくりを考えてほしいです。
　今まで「福島市民憲章」について、考えたことはありませんでしたが、趣旨にもあるように、市民の幸せと郷土福島の限りない発展を願い、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるために、これからも意識していかなければならないと思いました。私は将来、福島市に残るかどうかわかりませんが、生まれ育った福島市をこれからもずっと大切にしたいです。

「芯から愛情あふれる町へ」

福島市立岳陽中学校
ホーレス　千花

私が福島市民憲章のなかで着目するところは「親切で愛情あふれるまち」という部分です。

突然ですが、皆さんがもしこのような町にしましょうと呼びかけられたら、何を心がけようと思いますか。きっと大抵の人は、「もっと人に優しくしよう」とか「人のためにできることを考えよう」などと思うはずです。これらは今の憲章で言うと決して間違っている考えではありません。ですが、本当に人だけに親切にして、人だけに愛情をもつだけでこの目標に達することはできるのでしょうか。

では、皆さんは「殺処分」ということを知っていますか。殺処分とは飼い主に捨てられた犬や猫たちを一ヵ月ほど保護し、新しい飼い主となってくれる人がいなければ殺してしまうという非常に残酷なことです。もちろんこれは、福島市でも行われています。

今の説明を聞き、「どうして捨てるの」と疑問に思った人もいるのではないでしょうか。

実は、犬や猫たちが捨てられる理由は大抵、「老犬だから介護が大変で」とか、「子犬が生まれて育てきれなくて」とか「かわいくなくなった」などと、どれも理不尽な理由ばかりなのです。これを人間に置き換えるとどうですか。たとえば一つ目でいうと、「お母さんの介護、大変だから捨てちゃえ」ということになります。これはもはや「犯罪」ですよね。でも実は、本当に動物を捨てることは犯罪なのです。なので「誰かが拾ってくれるはず」と安易な気持ちで捨てると、百万円以下の罰金が科せられます。

ほぼ毎日、心ない人々により犬や猫たちが保健所に連れてこられ、譲渡される一部を除き、大半の犬・猫たちが命を落としています。これは本当にあってはならないものです。

では、今のをふまえもう一度聞きます。本当に人にだけ親切にして、人にだけ愛情をもつだけでこの目標に達することができると思いますか。私は、到底無理だと思います。

よく、「平和は、犠牲に支えられている」という言葉を聞きますが、これは無意味な犠牲としか思えません。また、人だけでなく、動物にだって幸せになる権利はあります。だから、福島市から変えていきましょう。「人にも動物にも親切で愛情あふれる町」へと。

そのためには、保健所はつくらず、保護施設を増やして、たくさんの犬や猫たちを助けられるようにする。そして次に、犬や猫たちを捨てる人を元からなくして0（ゼロ）にする。そして最終的には、保護施設0・殺処分0の福島市を目指す。

でも、これだけではただの口だけの夢となってしまいます。だから、今からでも、自分にでもできるようなことを考え、徐々に実行していき、また、たくさんの人に殺処分反対運動などを広めていき、芯から親切心と愛情あふれる福島市をつくっていきたいです。

「わたしたちの町づくり」

福島市立渡利中学校
佐藤　亜沙美

わたしが福島市の町づくりで良いと思った点は三つあります。

一つ目は、福島市の観光スポットの花見山です。観光客の方が来た時に花の案内人の方が花の名前や特徴などを教えてくれます。花見山にくるのが初めてのお客さんでも、ていねいに道の案内をしてくれるし、花見山のオリジナルのパンフレットなども作成して配布しているのでお客さんも安心して楽しく花見をできるという良い点もあります。

二つ目は、こむこむです。こむこむには、プラネタリウムや子供の遊び場、イベントを行うホール、体験活動をする部屋などがあります。プラネタリウムでは、普段あまりよく見ることのない星のことについて学んだりすることができます。子供の遊び場でも楽しく遊びながら、動物のことや科学的なことを学べたりします。また、親はコンサートやプラネタリウムを見ていたりしていても、こむこむは警備員の方など、エスカレーターの辺りにも見張ってくれている方もいるので、子供達だけでもこむこむの中で安全に遊べます。また、地震が起こっても安全な設備もされているので、親も安心することができるという良いところです。

三つ目は、コラッセふくしまです。コラッセふくしまの一番上の階には、レストランがあって山や福島市の町の風景を一望できます。その風景はとてもきれいで、ゆっくりくつろげます。また、レストラン以外にも同じ階に福島市を一望できる部屋があって、山の名前や建物の名前が書いてある地図のようなのが、窓ガラスに書いてあって、あそこの場所は何だっけ、あんな建物があったんだ、あそこの場所はもっとこうした方がいいのではないかと、福島市の町を見直すきっかけにもなると思います。一階には、福島市の名物も売っているので、観光客の方がコラッセふくしまに来た時に、福島市の名物について知ってもらうことができ福島市の宣伝になって観光客が増えることにもつながると思います。

また、福島市の町の改善したらいいと思った点は、道路にたばこの吸い殻やごみが落ちていることです。登校途中などに、道路を歩いていると、道にたばこの吸い殻やペットボトル、コンビニの袋などが落ちており、ちゃんとごみ箱に捨ててほしいと思っています。どんどんごみが道に増えていくと、そこが歩けなくなって道を歩いている人のじゃまになってしまいます。そこで、道のはじの方にごみを捨ててはいけないという看板をいくつか立てておくといいと思うし、リサイクルできるものは、店などに設置した回収施設に届けて、ポイントカードにリサイクルポイントをためることができる仕組みを作ることも良いと思います。

このような町づくりをしていきたいです。

「福島市の水道水」

福島市立渡利中学校
丹治　歩

今回初めて市民憲章を読んで、母に、
「福島の良いところって、どこだと思う。」
と聞かれた時に、正直言って僕は、なかなか答えを思いつくことができませんでした。その中でまず、福島市の良いところは水がおいしいところではないかと思いました。それは、以前、祖母が
「阿武隈川の水の時は、夏は水が生ぬるくて飲めなかった。今と比べたらおいしくなかった。」
と話していたのを思い出したから。

僕は、以前から茶道を習っていて、福島市でも茶道を習い始めました。稽古初日、先生がお茶をたてて、僕に出してくれました。僕は茶わんを持ち、お茶を飲むと思わず、
「あ、うまい。」
と言ってしまうほどでした。福島市の水道水でお茶をたてると、お茶もおいしくなるのかもしれないと思いました。そこで、今回の自由研究の実験の一つで、いろいろな種類の水と比べてみることにしました。すると、福島市の水道水でたてたお茶は、甘みと苦みのバランスがよく、うまみも最も強かったのです。香りもよく、泡も適度に出ていました。福島市の水道水でたてたお茶が、一番おいしく感じました。福島市の水道水は、お茶をたてることに適しているのだなと思いました。

福島市の市政だよりに、福島市の水道水について特集記事が載っていました。そこには、「摺上川ダムの水は、奥羽山脈の摺上山を源流とする摺上川の水です。上流は、水道水源保護地域のため、水質汚濁のないきれいで良質な水の供給を可能としています。」とありました。このことから、福島市の水がなぜおいしいのか、理由が分かりました。

これほどおいしい福島市の水を守るために、どうすればよいのでしょうか。福島市民憲章には、「一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」とあります。この文章を読んで、僕は小学校の時に学んだ理科や社会の勉強を思い出しました。まず地中に雨が降り注ぎ、地下水になって何十年もたまり、それが川となって海へ注いでいきます。その後、水蒸気が雲となり、山へ雨が降り、森林が水をため込むサイクルがあることで、空も水もきれいなみどりのまちになるのではないかと思いました。このことから、このサイクルをくずさないことが、おいしい水を保つことにつながると考えられます。そのために、僕にできることは、ごみを拾ったり、地域の清掃活動や除草活動に参加したりすることだと思います。まずは自分の身の回りに残っている自然を保護することが、きれいな水や空、きれいなみどりの町を保つことにつながるはずです。福島のおいしい水が、これから先も残り、飲み続けていくことができるように、できることから始めたいと思います。

「きれいなみどりのまちを
つくるために」

福島市立渡利中学校
石　和　穂　香

私は福島市南向台に住んでいます。家の窓からは、吾妻小富士が見えて、冬には、雪ウサギを見るのが楽しみです。また、家の近くには阿武隈川が流れていて、福島の水道水はとってもおいしいです。ペットボトルでも福島の水道水が売られていて、驚きました。福島市は、自然豊かな緑の町です。しかし、町を歩けば、ゴミが落ちていたり、川をよく見てみると、ゴミが流れていることがあります。私の大好きな福島市の自然を守るには、どうしたらいいのか考えてみました。

五年生の時に「あらかわクリーンセンター」に行きました。そのとき、たくさんのことを学びました。まず、分別が不十分だということです。もえるゴミとプラゴミのゴミ箱があるのに、ポイ捨てをしたり、適当に捨てたりしているから、ゴミが減らないということを教えてもらいました。スプレー缶などをそのまま捨てたりしたりすると、きれいな町どころか燃えて全て水の泡になってしまいます。〝ゴミ〟と聞くと、汚いものだと思ってしまいがちですが、かなり大切なものだと思いました。そして、リサイクルをするためにゴミをくずすときや、大きいクレーンでやっても、一回にくずせるのは、ごく一部でした。ゴミがたくさんありすぎるので、ゴミを減らすことや三Rは、とても大切だと思いました。

そんなこともあり、私はボランティア委員会に入りました。ボランティア委員会では、毎週金曜日に牛乳パック回収をやっています。放送で呼びかけても全然あつまらず、大変でした。そこで、放送は二日前から呼びかけ、ポスターをつくるようにしました。そしたら、とても効果がありました。長期休み前に、約六百個集まり、一年間で、約千個集まりました。そのとき、私は、達成感を感じました。やりきったという気持ちやボランティア委員全員で協力して呼びかけをし、約千個集めることができたのが嬉しかったです。でも、何よりも思ったことは、私のこの活動により、ゴミが減り、福島市の自然を守ることができるそれが嬉しくてたまらなかったです。放送やポスターだけでなく、自分の気持ちを伝え続ける努力もしてきました。その努力が実を結んだので、嬉しかったです。

一人一人の意志が大切だと感じます。世界には、私みたいに少しやってみようと思う人もいれば、全然考えたこともない人も大勢います。私は、これからもゴミのことについて考え、福島市から日本、そして世界へこのことが広まっていくといいなと思います。そして、森林が増え、地球温暖化の解決につながればいいと思います。そのことの実現のためにも、分別を心がけて、ゴミ拾いなどのボランティア活動にも取り組み、ゴミを今の数から少しでも減らすことができるよう、頑張りたいです。

「自然豊かな福島」

福島市立渡利中学校
遠　藤　日向子

私たちの住む福島市では、豊かな阿武隈川の流れを見ることができます。その他に山、海、湖と四季を感じられる自然に囲まれた福島が私は好きです。「この豊かな自然を守り続けるためにはどのような活動や心がけが必要なのだろうか。」と考えました。

一つ目は、ゴミ問題です。学校の授業でゴミを処理するためには燃やすことが必要だと学習しました。しかし、それが大気汚染につながり植物が育たなくなったり、人間の身体に影響が出たりすることがわかりました。さらに、今問題になっているのがプラスチックのゴミが世界中にあふれかえっている状態ということです。以前まで外国で処理してもらっていたプラスチックゴミも、あまりの量の多さにその作業を断られてしまったそうです。

私は時々愛犬を連れて、近所を散歩しますが、よく見かけるのはお菓子の袋やペットボトルのゴミです。こうした一つ一つのゴミが近所に捨てられているということが、福島市や、県全体で考えていくとかなりの量になるはずです。世界規模で問題にする前に、自分が住む町から、いつも歩く通学路等に目を向けて、住民一人一人が自分の家のように住む町をきれいにしようと思えば、ポイ捨ては減るのではないかと思います。

二つ目は、花見山についてです。私は春休みになると毎日のように近くの花見山へ散歩に出かけ、日々の自然の変化を楽しみます。少しずつふくらんで満開になる梅や桜の花は色も美しく、気持ちもやわらぎます。訪れる人々も、特にお年寄りの方々が喜んでいるように感じます。

でも、こうした美しい風景を保つため、何人もの人達の協力やボランティアの力があることを忘れてはいけないと思います。そこには、来てくれる人達に喜んでもらおうとか、美しい福島を見てもらいたいという気持ちが強くあると思います。

他にもバス停や、学校付近の花だんもきれいな花が植えられていて、本当にうれしいです。良くしたい、という気持ちは必ず相手に伝わり、相手の気持ちも良くすると思います。

私は大人になったら、今私が感じている、してもらって良かったことを普段から出来るようになることが目標です。

これからも、自分の身の回りにもっとよく目を向けて、中学生になったからこそ出来ることや、友達と協力し合えることを探して、福島というふるさとをより良くしていけたらいいな、と思います。

「みどりのまちを目指して」

福島市立渡利中学校
岡　崎　煌　士

ぼくは、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という言葉に、ある疑問をいだいている。

夏休みに、ぼくは山形にある祖母の家に行った。そこでぼくが見たのは指定の有料ゴミ袋だった。祖母はしっかり分別をしてゴミを減らす努力をしていた。しかし福島市に帰ると指定ゴミ袋などはなくただのビニール袋をつかっていた。ぼくが毎朝学校に登校するときにゴミ置き場を通るがいつもたくさんのゴミであふれている。

ぼくが考えるには福島市民はゴミ袋は無料だからと言ってゴミを減量せずたくさんゴミを出して増やしていると考える。あるゴミの排出量を表したグラフから福島市は全国でも一人当たりのゴミの排出量が多い市で山形市は少ない市だと分かった。ゴミの排出量が多いのでは「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるのは無理ではないかと実感した。

ぼくたちの住む福島市をみどりのまちにするために四つの案を紹介する。

一つ目は街中や歩道などにゴミ箱を設置するという案。ぼくが街中や歩道を歩いている時にいつも目に留まるのがいたるところにあるビニール袋やカンなどのゴミ、その近くにゴミ箱などを設置するとゴミ減少に繋がるのではないかと考える。

二つ目は定期的にゴミの回収作業や川原などのゴミの回収作業をする案。街中などゴミ箱を設置しても捨てない人がいるので定期的にゴミ回収作業をすると良いと考える。

三つ目はポスターなどの呼びかけをする案。ポスターをいろいろな場所に貼ることで市民が自主的にゴミを捨ててくれると考える。さらに子どもが描いたポスターを貼ることでより効果があると考える。

四つ目は植物などを植えて育てる案。植物を育てることでより自然が増えみどりのまちに向けて新たな一歩を歩み出すことができる。

そんな中で福島市はある運動を始めようとしていた。その名前は「ごみ減量大作戦」これはインターネットを通してごみの分別や出し方、収集日を確認できるサービス。福島市はこれを機にごみの減少を急速に進めていると考えられる。

福島市は来年、東京オリンピックでの野球やソフトボールの競技が決まっている。このオリンピックを機に福島市のみどりのまちを世界中に知ってもらえればうれしい。

「みどり豊かな福島を　つくるために」

福島市立渡利中学校
阿久津　優　菜

私の身の周りには、たくさんの自然とみどりが広がっている。今回この福島市民憲章の題材を考えた時、一番最初に思い出したことがある。

小学生のときの春頃に、毎年小学四年生が行っている花見山応援隊をやっていた。そのとき私は、ただお客さんを案内するだけかと思っていた。

しかし先生方が、

「花見山には県外、海外の方がいらっしゃるので、福島の花の案内だけでなく、英語も話せるようにしましょう。」

と教えてくださり、私はとても驚いた。そう教えてくださった時に私は思い出した。花の案内人の方々は、花の種類や魅力などを教えていて、外国人の観光客の方には英語で花のことを教えていたことに気付いた。

また、お年寄りの皆さんや、体の不自由な方々も花見山に登られる。花の案内人の方々は目が悪い方や手や足を自由に動かすことができない方々のために車いすを押してあげたり、優しく声をかけたりしていたことにも気付いていた。花の案内人の方々が、花の案内をやったり、不自由な方々を助けていることに私はとても尊敬する気持ちをもった。

その他にも、人々が歩く道にゴミを置いてあるものを、進んで拾ってくださる方々もいる。

花見山の道を、毎日のように掃除してきれいにしてくださる方がいるおかげで、私達はいつもきれいな道を当然のように歩いている。そして、そのきれいなことで、写真をとっていく観光客もたくさんいるのだ。

このことから、きれいにしようとする心、助けてあげようとする優しい心を次の世代へとつなげていくためには、「つなげていこう」という優しい心を持つ人の存在が必要だということが分かった。

このように、私達が普段あたり前に過ごす生活の中にも、優しい心を持ってみどりのまちをつくる方々の存在がある。

それでは、私達に一つでもできることとは何だろうか。お年寄りの方や不自由な方などに積極的に声をかけ、

「大丈夫ですか、手伝いましょうか。」

という優しい心を持つことで一市民としてできることなどはたくさんあるはずだ。

こういった、一人一人の優しい心と気持ちを持つことで、みどりのまちが、福島市民憲章の一つである「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という理想の実現へとつながっていくのではないだろうか。

「福島市民憲章を
知ってもらうために」

福島市立渡利中学校
阿部心美

「福島市民憲章」この内容についてどれだけの福島市民が知っているのであろうか。正直私は全く知らなかった。父母でさえ

「言葉は聞いたことがあるけど、内容はよく分からない。」

と言っていた。

　私は今回、この作文を書くにあたって、はじめて「福島市民憲章」の内容を読んでみた。「平和で、さらに住みよく希望にみちたまちをつくる」ために、私たち福島市民が守るべき、五つのスローガンが分かりやすく記されており、私たちにとってなくてはならない大切なものではないか、と感じた。このようなすばらしいものがあるにも関わらず、それが多くの市民にしんとうしていないのは、大変もったいないと思う。そこで私は、この市民憲章がどうしたらもっと多くの市民にしんとうし、理解してもらえるのか、という視点でいくつか提案したいと思う。

　一つ目は、回覧板で紹介して少しずつ広めていく方法である。この方法は、一人一人がゆっくり見ることができ、より印象的だと思う。

　二つ目は、ポスターを作って学校や学級に提示する方法である。これは、少しでも多くの人に触れてもらうことができ、効率的な方法である。さらに、放送で呼びかけるなどして、より意識してもらえる工夫もできるだろう。小学生や幼稚園生にも、年れいに合った文字でポスターを作り、そこに絵なども加えて掲示する、という方法がある。

　例えば、幼稚園生に分かってもらえるように、五つのスローガンを「みどりのまち」「きぼうにかがやくまち」「あいじょうあふれるまち」「たのしくはたらけるまち」など、覚えやすくて短い言葉に変えるということも考えられる。

　ここまで地域の人、中学生、小学生、幼稚園生向けの方法を提案してきたが、お年寄りの方に対してはどのような方法があるだろうか。

　例えば老人ホームに入所している方の場合は、折った折り紙にスローガンを書いて配る、という方法が考えられる。また、実際に私たち中学生が老人ホームに行き、直接「福島市民憲章」を紙しばいや劇で伝える方法も考えられる。

　このように、色々な方法で「福島市民憲章」を福島市民に幅広く知ってもらう方法を考えてきた。私たち福島市民の心のよりどころである福島市民憲章「空も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化を尊び希望に輝くまち」「親切で愛情あふれるまち」「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をつくっていけるように、まず私たち中学生が守る努力をし続けていきたい。

「小さな事から大きな未来」

福島市立渡利中学校
田　仲　陽　香

私は、この憲章について思ったのは、
「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」
について私は
「親切で愛情あふれる町ってなんだろう。」
と思いました。それは、すぐ分かりました。
私が初めてバスにのった時お金の払い方がわからず困っていました。すると、
「ゆっくりでいいよ。」
といってくれたのは、後ろのおばさんでした。その時、私はとても安心する事ができました。

おかげでバスに乗る事が出来るようになりました。しかも、福島市には良い所があるのを知っています。

例えば、町の広場には花時計が、あります。花は季節ごとに植えられていてとてもきれいです。まるで、福島市をイメージする笑顔の花のようです。

福島市の水は、とてもきれいです。私はいつも
「あ、のどかわいたな。」
と水のじゃぐちをひねるとおいしい水がでてきます。それこそ、空も水もきれいな緑の街とはその事だと思いました。きれいな街それは、まさに福島市だと思います。周りを見ると山があります。花見山では、きれいな桜を見る事だってできます。

そして、子どもがふれあう事のできるこむこむは、とても楽しく遊んだり、学べるスポットです。福島市に住んでいるといい所がたくさんあります。

私のお気に入りは、私の住んでいる南向台です。私の好きな場所は、小学校で地域の方々と共につくるお祭りやおもちつきなどです。おもちつき大会では、納豆、あんこ、汁などのおもちやそば作り体験そして毎年おもちつきの最後では、くじ引きをやる事になっていてたくさんの人との交流ができます。私の小学校では、お祭りの時にＰＴＡ役員の方々が協力して小学校の校舎の中におばけやしきを作り私たちを楽しませてくれます。

私は福島市は五つの憲章が実現出来ていると思います。周りを見わたせば笑顔がある福島市は、
「きらきらしていていいなあ。」
というふうに感じる事ができました。もちろん改善していかなければならない課題もたくさんあると思いますが、一つ一つのものにチャレンジしていって福島のみ力があふれる町にしていきたいと思います。

私も福島のみ力なんて良く分かりませんでした。でも調べて「私は今こんな所にすんでよかった。」ということです。今後もうまくいかない事やたくさんの困難も福島市にはあると思います。でも、福島市がかがやいていられるのは働いてくれる人がいるからです。私も負けないように頑張ります。

「栄えた福島駅前をつくりましょう。」

福島市立蓬萊中学校
菅　野　芽　吹

これは、私と私のお母さんと話し合って出た意見です。この作文を書くと決まったときに、お母さんが、

「福島駅前が平日も土日も、いつも静かでにぎわっていないから、そのことを書くといいよ。」

と言われ、少しそうかもしれないと思いました。たしかに、駅で新幹線や電車、バス、タクシーなどがあり、観光客などもいっぱい来ているのにあまりにぎわっていません。なので私は、何か少しでも駅前をにぎやかにできることはないか、どうしたら観光客や駅前に来てくれた人でにぎわうか考えました。

一つ目は、駅前のお店や看板を目立って、思わず立ち寄りたくなるお店や看板にするということです。外の広場からじゃ何の建物か分からなかったり、見えづらかったりするので、駅の方を向いていないお店は、分かりやすい看板にしたり、お店は駅の方を向いていても、見つけにくいお店は目立つようにするといいと思います。

二つ目は、ピアノをひいている像から流れる音楽の音量を少し上げてほしいということです。私が駅に行ったときに、車の音や足音、信号機の音がピアノのきれいな音が消えてしまい、近くまで行かないと聞こえないことがあるので、少し音量を上げてほしいです。

三つ目は、座るとこが少ないということです。ベンチが主にピアノの像の周りにしかない気がします。ですが、駅にはお年寄りの方や子供を抱いているお母さんなどもたくさん来ます。なので、ベンチがもっとあった方がいいと思いました。

四つ目は、ゴミ箱が少ないということです。私がお店で飲み物を買って、飲み終わってしまったとき、ゴミ箱がなく家までいつも持ち帰っています。そして、花だんのふちに飲み捨てられたカップやペットボトルが置いてあったり、ポイ捨てされてたりするので、ゴミ箱があるとゴミを道に捨てるのが少しでも減ると思うし、落ちているゴミをゴミ箱に入れてくれる人もいると思うので、ゴミ箱を置くといいと思います。

そして、ゴミが減って、ピアノの音楽を聞きに立ち寄る人や駅前のお店に気づき、そのお店を知ってくれる人が増えて、今よりもっと福島駅前に来てくれる人も増えてほしいなと思います。

そして、これからは私も家族だけでなく、友達とも福島駅に行ってみたいです。

私は、広場のピアノをひいている像から流れている音楽をその像がひいていると思いながら聞くのも、まるでお花畑の上にあるような大きな時計も大好きです。

これからもっとみんなが心地よく福島駅での時間をすごせるようにし、もっと福島駅前がにぎやかになるようにしていきたいです。

「身近なことから」

福島市立蓬萊中学校
佐藤諒和

ぼくは「福島市民憲章」について二つのことを考えました。

まず一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」についてです。家のまわりや道路、公園などごみのないきれいな環境になっているでしょうか。登下校中にだ菓子のビニール（ごみ）やジュースのペットボトルなどポイ捨てを見かけます。最寄りの公園は小学生がたくさん遊びに来ますが、ここもたくさんのゴミが落ちています。ゴミ箱が設置されていないということもありますが、どうして人はポイ捨てをしてしまうのでしょうか。ポイ捨てを減らすには、普段の生活からも改善できることがあると思います。それは整理・整とんをすることです。整理・整とんを心がけると普段からきれいにすることができ、汚いところは汚くしていいということではなく、きれいなので、きれいなところは汚くできなくなると思うからです。お母さんはよくゴミ捨ての前日に不要なものはないか整理・整とんしながらチェックしています。習慣化、意識化することが大切だと思います。ぼくも声をかけられます。また、自分達の住んでいるところは自分達できれいにするといいと思います。六年生の時に公園の落ち葉拾いに中学二年生と参加したことがあります。小中交流ボランティアの一つでしたが、今後もこのような機会に参加して、積極的にきれいにしたいと思います。

次に二つ目は「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」についてです。隣近所仲良く互いに助けあっているでしょうか。ぼくが住んでいる地域の育成会は二年前に休止になってしまいました。比較的新しい地域で子どもたちの人数も二十名くらいいるのですが、高学年になるとスポ少や習い事に忙しく行事がかぶることも多かったようです。そのため役員のお母さん自身は育成会、子どもはスポ少に参加することになり、バラバラになる例もあったと聞きました。父の子ども時代は一学年の人数が多かったので役員の負担も小さく、もっと活発に育成会ができたそうです。そもそも町内会自体の交流活動がきはく減少してきています。ぼくが住んでいる町内会活動は一年に約五回ほどで、集まって食事をする忘年会、夏場に四回ある草かりです。この状況でぼくはどうすればいいでしょうか。小学校の時は縦割り班で清掃と年二十回ほどの交流がありましたが、弟達は清掃と年二回の交流に変わったそうです。中学校ではあいさつ運動をする機会があり、同学年、先ぱい、先生方と顔を合わせることで、知り合いが増え、次に行う活動がしやすくなりそうです。

身近な生活からも地域を活発にできるので、これからもがんばっていきたいです。

「みんなのきれいな町作り」

福島市立蓬萊中学校
合屋　昇竜

ぼくは、福島市民憲章の五つの項目を見た時に、「空も水もきれいなみどりのまち」が気になりました。なぜかと言うと、このテーマは、地球温暖化に関わってくる問題だからです。

今年の夏に初めてわらじ祭りに行きました。お祭りということもあり、出店や人がたくさんいました。楽しい雰囲気があたりを、包んでいて、ぼくも楽しかったですが、路地裏に捨ててあるゴミがとても気になりました。きちんとゴミを捨てる場所が決まっていて、用意されているにも関わらず、道路などに捨てる人がいる事に驚きました。

一人一人がきちんと決められたゴミ捨て場に捨てるという意識を持てば、ポイ捨てはなくなると思います。さらに、ぼくがわらじ祭りに行って感じた事は、暗くて人も多いのでゴミ捨て場の場所が分かりにくかったです。なので看板を作りゴミ捨て場をわかりやすく表示する事や、明かりをつけ目立たせるとよいと思います。そうすれば、みんなもゴミ捨て場に捨てようとする意識が身につくと思います。それから地球温暖化について考えるとリサイクルも必要だとぼくは、思います。きちんと分別すると、ゴミを燃やす時に出る排気ガスを最小限に抑える事ができます。そうすると空気がきれいになり住みやすくなります。今では、リサイクルをするとポイントがもらえたりお得な事もあるので、どんどんみんなに広まっていければいいと思います。

その他にも、草木や花をおったりつんだりしている人もいるけれどそれを悪いと思い呼びかける人もいると思います。けれど考えていても行動や呼びかけなければなにもかわれないし相手は、わかっていていないでやってる人がいるのでそれを教えなければといけないとぼくは、思います。なのでみんなで協力し今、住みやすい環境を作っていかなければ温暖化や地球、環境破壊が進んでいってしまいます。ぼく達は、一度立ちどまり温暖化、地球環境破壊について考えていくべきではないでしょうか。

ぼくは、この作文を通して普段あまり深く考えていなかった環境について考える事ができました。かんがえるだけでなく、行動に移せるかどうかが、これから大切になってくのだと思います。だれかにまかせるのではなく、自分が行動していきたいです。そして空も水もきれいなみどりのまちにしたいです。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立蓬萊中学校
二階堂　柚　葵

私が小学生のときは、自然には興味が全くありませんでした。自分一人くらい自然をよごしても、自然はこわれないだろう。と思っていました。でも、六年生の三学期の理科の授業で、自然に関係する調べ学習をしました。そのときに、私が思っていたより自然は深く、自然がつくり出すものはとてもきれいで、美しいものだったんだと気が付きました。そして、今まで私が思っていたことはおかしいんだとあらためて思いました。もし、私と同じことを学校のみんなが思っていたら自然はすぐにこわれます。だから私は、あの時気付けて良かったと思います。

私が、空気をきれいにするためには、まず庭に木を植えたり、花などの植物を植えてみたらいいと思います。植物は光合成をすると二酸化炭素を吸収し、酸素をはき出すと、中学校で習いました。それで、空気がきれいになると思います。それに、そのまちにみどりが増えるので、一石二鳥です。人それぞれですが、朝、カーテンを開けた時、庭がみどりでいっぱいだと、なんだかきもちいいし、すっきりすると思います。なので、庭にみどりを植えるのは、とてもいいと思います。私も、もし家を持ったら、庭をみどりでいっぱいにしてみたいです。

水をきれいにするには、山を大切にしたらいいと思います。私が昔、家族で山登りをしていた時に、あめやおかしのごみが落ちていたり、木のえだがぽっきり折れていたことがありました。ごみは、もしかしたらわざと落としたわけじゃないかもしれない。わざとだったらゆるせないと思います。「ごみは持ち帰ってください」とかいてあるのにと思いました。そしてえだは、わざとおったものだと思います。道のじゃまにもなっていないのにおれていたからです。木がかわいそうだと思いました。山は雨がふると自然のダムになると前に教えていただきました。汚い水がふってきても、葉っぱや土、岩、石などでろ過できるとも教えていただきました。自分がしたことは、いつか自分にかえってくる。自分が山を汚くしたり、木をきったり、おったりしていると川が汚くなり、その川の水を飲んでいる動物たちを人間が食べ、食中毒になります。自分に、関係のない人間にかえってきます。なので、私は山を大切にし、ごみを見つけたらひろうようにしたいです。そして他の人にも山を大切にし、ごみをすてたり、木のえだをおったりしないでほしいと思います。

私が大人になった時に、このことを忘れずに後輩や小さい子達に伝えていきたいと思います。

「安全なまち作りについて」

福島市立蓬莱中学校　菅野　里汐

私は蓬莱を子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりたいと思っています。そのために私は、二つの事を守っていきたいと思っています。

一つ目は、常日頃から安全に気をつけ事故にあわないよう正しい交通ルールを身につけることです。

私は昔、交通事故にあいそうな時が何度かありました。最初に交通事故にあいそうだったのは、つい最近のことでした。

その日私は、急いでいました。気持ちがあせっていて、周りが見えていなくて近づいてくる車に気付けませんでした。運転手さんが私に気付いて止まってくれた時には、もうぶつかるかぶつからないかの距離まで来ていました。その時の恐怖心と汗がジワジワでてくる感覚は今でも忘れられません。足がガクガク震えて今までに無いくらい心臓がはやくなっていて、口から飛び出そうなくらいでした。

ほかに交通事故にあいそうだったのは、小学生のときに友達と自転車で走っていた時でした。遊んでいた友達の人数が多かったため歩道がいっぱいになっていました。木にぶつかりそうになった私はよけようと思い道路に出ました。その時に自転車で転んでしまいました。自転車を起こそうと思い立ち上がろうとしたところにちょうどトラックが来て私のギリギリを通っていきました。もう少しずれていたらと考えるとゾっとしました。

この事を夏休み中に思い出し、これからは気をつけて、安全に過ごそうと決めました。

二つ目は、健康に過ごすため日常的にスポーツ活動を取り入れることです。

私は最近までバレーボールをやっていましたが人数不足のため美術部に転部しました。スポーツをやらなくなったので夏休み中はずっとだらけていました。ずっとゴロゴロしていたため心もなまけてしまい、すぐにあきらめてしまう弱い心になってしまいました。宿題をやろうと決めてもすぐに他の事を始めてしまい、全然手をつけていませんでした。母から

「後になってから困るよ。」

という言葉に耳をかさないでいたら残り一週間ほどになってからあわててやり始めることになって後かいしています。ずっとこのままだと大人になってから困ると思い日常的にスポーツ活動を取り入れて健康な心と体をつくろうと考えました。

この二つのことを守って他の人にも同じようなことにならないように呼びかけて夢を実現しようと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立蓬萊中学校
齋　藤　妃　那

福島には「福島市民憲章」というものがあり、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」の五つです。

その中の二つについて私はどうしていきたいか書いていこうと思います。

一つ目は、空も水もきれいなみどりのまちについてです。きれいな環境のまちにするためには、まず、まわりの環境を気にかけるといいと思います。私がよく見かけるのは、ポイ捨てです。ポイ捨てはすごく身近で見かけるものなので、これを減らしていけば、少しでもきれいな環境に近づくと思います。あと、まちの清掃活動などに積極的に取り組めるとなおいいのかなと思います。自然も大事にして、みどり豊かなまちにできたらとてもすてきだと思います。

二つ目は、親切で愛情あふれるまちについてです。ついこの間、親切だなあと思うことがあって、私が友達と好きな物を買いに行った際に、

「どうぞ。あげます。」

と言って、無料で私達の好きなものを笑顔でくださる人もいて、すごく優しい人がいるんだなと思いました。他にも、

「いいよ。全然。全部あげるよ。」

と言って、全部あげてる人もいて、心、広くて優しい人がたくさんいるんだと改めてわかりました。この経験をしたのは仙台だったんですけど、福島にも、明るく親切にしてくれる人がたくさんいると思います。どんなに小さな事でもいいから、親切を心がけられるといいと思います。私もこのような人達みたいに人に喜んでもらえる親切がしたいです。

身近で見たものや自分が経験したことを考えていくと、自分もこうしたいなという気持ちを改めて考えることができると思います。こうやって考えてみると、自分には何ができるんだろう、自分ならきっとこれならできるという心がけが希望にみちたまちをつくっていく第一歩なのではと思いました。きっと一人一人に福島をよくしていこうという気持ちがあったらよりすてきなまちになっていくと思います。みんなで、平和で住みよく希望にみちたまちをつくっていきたいですね。

「みんなでつくる安心の街」

福島市立蓬莱中学校

伊　達　由　華

私の住む蓬莱町は、大きい町だと思います。

蓬莱町には幼稚園や保育園、小学校は二校、中学校もあります。それから病院や消防署、交番、銀行、郵便局、いちいやダイユーエイトなどのお店もあります。それから子供達がたくさん利用する、蓬莱学習センターや体育館、図書館、中央公園などのたくさんの公園があります。そして、地域の夏祭りや地区の運動会や文化祭などのたくさんの行事があります。それにたくさんのバスが通っています。

そう考えると蓬莱町はとても便利で住みやすい町だと思います。

ただ気になる点は、街灯が少なく、学校帰りが遅くなると、暗くて怖く感じることがあるので、もっと街灯を増やしてほしいなと思います。次に、学校からよく送られてくる緊急メールで多い、熊の目撃情報と不審者情報についてです。

熊の目撃情報は、蓬莱の中では少ないですが近くで目撃されたという情報が多いので、なるべく一人では帰らないようにし、情報を早めに得るようにし、気をつけるようにしたいと思います。

次に、怖いなと思ったのは、不審者情報についてです。熊の目撃情報のように早めに情報を得るようにし、一人にならないようにし、小学校の時に習った「いかのおすし」を思い出し、知らない人に声をかけられたり、追いかけられたりした時はすぐに周りにいる人に助けを求めたり、ひなんの家に逃げたりし、すぐに親や学校の先生、交番に知らせるようにしたいと思います。

後は、私自身も交通事故や怪我などをしないように注意したいと思います。

最後に、私が一番大事だと思うことは笑顔であいさつすることだと思います。近所の人に会った時や、行事に参加した時には、必ず笑顔であいさつするように心掛けています。近所の方に顔を覚えてもらったり、コミュニケーションを日頃からとるようにしたいと思います。これからも毎日、笑顔であいさつしようと思います。

緑あふれる自然豊かな環境の良い蓬莱町がずっと続けばいいなと思います。そして、私の大好きな蓬莱町、みんなが安心して笑顔で生活できる町であり続けるように願っています。

みんなが同じ思いであればきっとよりよい街になると思います。

「福島市をよりよくするためには」

福島市立清水中学校　宮　本　愛　梨

福島市民憲章の中に、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という言葉があります。私には、それが福島市に不足していると感じる体験がありました。

先日、祖母といっしょに出かけたときのことです。私の祖母は、ひざと腰などが少し悪く、階段や段差がある所につまずいて転ぶ事があります。その祖母が、この前施設で階段を上っていました。その施設には、エレベーターやエスカレーターなどがなく、階段を上らないと上へ行けなかったのです。ひざと腰が悪い祖母には、階段を上るのはとてもつらかったと思います。福島市には、バリアフリーの施設が少ないのです。そして、お年寄りだけではなく小さい子供にも優しくない所があります。だから、階段なら段の高さを変えてみたり、ゆるやかな坂にしてみたり、柵の高さを上げたりしてみてはどうでしょうか。そうすればお年寄りが段をふみはずしたり、つまずいたりする事は減ると思います。小さい子供は、柵を越えられないようにし、高い所から転落する事故が防げると思います。大人でも、つまずく事がありますので、このように工夫をすれば、事故を未然に防ぐ事も出来ると思います。

次に健康について。健康になるには適度な運動、バランスのよい食事、適切な睡眠の三つが欠かせません。

福島市では、特に、適度な運動が不足していると思います。小さい子供が、外で元気いっぱいに遊んでいる姿はよく見かけますが、大人やお年寄りが運動している姿は、あまり見かけません。そこで、福島市を歩く企画を作ってみてはどうでしょうか。例えば、福島を一万歩歩くと賞品がもらえるような企画です。そうすれば、賞品目当てに福島市を歩く人が増えると思います。周りの人に、運動を呼びかける事も大事だと思います。

この福島市民憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」を達成するには、他にも大切な事があると思います。福島市には、親切で思いやりの心を持っている人が多いです。その親切さで、周りの人にも町づくりを呼びかけたり、きまりを守るよう気をつけたり、いっしょにボランティア活動をしたりすれば、他の四つの福島市民憲章も達成できると思います。

自分でも、出来る事はたくさんあると思うので、まず一つずつがんばっていきたいと思いました。

「親切あふれる福島市に」

福島市立清水中学校
宮本　友里愛

　私の住んでいる福島市は、自然がたくさんあり、地域の人みんなが親切なところです。そんな福島市をもっと良くするために、みんなが協力して、子供からお年寄りまでより安心して暮らせるまちにしたいです。

　私の住んでいる地域は、みんなが優しく、困っている人を助けてくれます。学校に行く途中で雨が降ってきた時に、「かさ使う?」と声をかけてもらったことがありました。

　また、雪が積もった時には、みんなで雪かきをしていました。

　私の祖母はよく近所の家の人の買い物に付き合っています。近所の人は足こしが悪く、家から店までが遠くて歩けないので、祖母が車で送るのです。何日かに一回顔を合わせるだけでも、近所の人の健康が分かるので、祖母がしていることは近所の人も安心できることなんだと思います。

　福島市に、もっと「親切」を増やしたら、みんなが安心して生活できると思います。

　最近は人に親切にする人が減ってきたと言われています。自分のことしか考えない人が増えているということです。めんどくさい、別にやらなくてもいいや、などの考えで人に優しくしようとしないのです。そんな人たちが増えると、福島市から「親切」が少なくなってしまうでしょう。そうしないためにも、福島市のみんなで助け合っていくことが大切だと思います。少しずつ人と関わっていくことで、他の人への優しさが示せると思います。そうすることで、この福島市に「親切」が増えていくと思います。

　福島市は自然が豊かで、人々は優しいすてきな場所です。子供からお年寄りまでみんなが安心して住めるような福島市にしたいです。「親切」を増やすため、まず私から人に親切にしようと思います。一人が始めればみんなもやると思うので、自分もそのきっかけになろうと思います。

　今後、みんなが助け合い、もっと安心して暮らせる福島市になるように自分も努力したいです。親切にしてもらうと笑顔になります。「親切」が増えると笑顔も増える、そうするとみんなが幸せになる。みんなが助け合い、「親切」があふれる場所、希望あふれるすてきな福島市になってほしいです。

　福島市をよりよくするため、まずは自分から親切にすることをがんばりたいです。

「愛情あふれる福島市をつくるために」

福島市立清水中学校
安　齋　実　桜

私の住んでいる福島市は、親切で愛情あふれるまちだ。私はその優しさにふれることが、日常生活の中にたくさんあることに気がついた。

まず、朝家を出ると、黄色い旗をもった地域の方々が笑顔で私たちを見守ってくれている。そして、元気に

「おはよう。」

と声をかけてくれる。私は、そのあいさつを聞くと、朝のゆううつな気分がふっ飛び、すがすがしい気持ちで登校することができるのだ。私は、朝早くから私たちのために暑い夏も寒い冬も立ってくれている地域の方々を思うと、感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。

そして、私たちが通る通学路をきれいにしてくれるのも地域の方々だ。秋にはおち葉はき、冬には雪かきをして、私たちが安全に通えるようにと朝早くから働いてくれている。その姿をみると、改めて地域の方々の優しさにふれることができるのだ。

他にも私たちが楽しめるようなイベントを開いてくれるなど、私たちの周りには、優しい人があふれている。

そんな人たちに私たちができることは、なんだろうか。まず、思いついたのはあいさつだ。あいさつは、した方もされた方も元気になれる魔法の言葉だ。私は、自分から元気なあいさつをして地域の方々を元気づけたいと思った。そして、もっとあいさつのあふれるまちをつくりたいと思った。

次に思いついたのは、お年よりの手助けをすることだ。日本は、今高齢化社会になり、私たち子供よりお年よりの方が多くなっている。そのため、私が住んでいる福島市にもたくさんのお年よりが暮らしている。私は、そんな高齢者に対して、優しい声かけをし、笑顔で手をさしのべられるような人になりたいと思った。

私は、この福島市を誰もが親切と愛情のあふれるまちだと思えるようなまちにしたいと思った。そのためには、今、自分ができることにせいいっぱい取り組み、そして誰にでも平等に接する人になりたいと思った。

「令和」という新時代も親切と愛情のあふれるまちになるように、一人一人が心がけ、もっとすばらしい福島市を私たちの手でつくっていきたい。

「私の大好きな安心安全な福島」

福島市立清水中学校
大和田　陽　菜

　およそ八年半前に起こった東日本大震災。あの時に起こった原発事故。私は東日本大震災が起こった日はまだ福島にいなかった。私は七才に福島に引っこして来た。引っこして来てからもまだ福島にいなかった時も福島産の食物は買わなかった。私の母はいつも原発事故があったことを心配していた。しかし現在は福島の食物をよく買うようになっている。父は、

「福島の食物は放射線を取り除いていていもう安全に食べられるんだよ。」

と言っていた。未だに福島の人でも、福島の食物を不安に思っている。母の友人もあまり福島産の食物は食べない、と言っていた。なぜそこまで福島の食物に不安を持っているのか。福島はもう安全なのに。福島の食物は安心して食べられて、おいしいのに。私は福島の人に、私たちのふるさとの食物は安全で安心して食べられるんだよ、ということを分かってもらいたい。そのために今、私が行わなければならないこと、必要なことは何だろうかということを考えた。

　まず、私は福島産の食物を買い、友達や家族に、福島の食物はこんなにも、おいしいんだよと伝えることが必要だと考えた。災害にあった方々には、なおさら食べてもらいたい。なぜなら福島は怖い、福島は危ない所という悪い印象ではなくて、福島は一生懸命復興しようとがんばっている、という良い印象を持ってもらいたいからだ。私は災害にあっていなく、ニュースでそのことを知っただけだが、私のおばあちゃんとおじいちゃんは福島に住んでいて、東日本大震災にあったため、その話をよく聞く。災害にあった何万人もの方々の気持ちを分かっているからこそ、私はその何万人ものの方々に福島の食物を笑顔で食べてほしい。

　次に、夏休みの作文や、何かをみんなの前で発表したりする時に、私が思っている、安心して、安全に食べられる福島の食物について書いたり、語ったり、伝えたりすることだ。そうしたらきっと、みんなも、福島は安全で安心な食物を作っているんだな、と感じられると考えた。ただ伝えるだけでなく、自分の気持ちを顔、声の出し方に表し、心を込めてみんなに感じ取らせることが必要である。少しでもそういう場所で東日本大震災の影響での食物の危険はない、ということを伝えられることができたら良いな、と思っている。

　このように、安全で安心な食物だということをいろいろな人に伝えたい。そして、少しでも福島を好きになってもらいたい。私はこの思いを胸に、これからも大好きな福島の安心安全について伝えていく。

「福島を世界一綺麗にするために」

福島市立清水中学校
出口　佳汰

僕は、いつも登校していて悲しいと思う事がある。それは、ごみが散乱していたり、ごみの回収日ではないのにごみが捨てられていたりすることだ。登校していていつも思う。なんでこんなに散乱させたり、回収日ではない違う日にごみが出せるんだろうと。それに、なぜリサイクルをしようと思わないんだろうとも思う。そういうことをする人がいることによってごみの排出量が増えてしまう。ごみが増えるとだんだん汚いとも思われてくる。

そこで考えた事が二つある。

一つ目は、ごみの回収についてルールを変えるということだ。例えば、リサイクルするためのごみを集めるごみ収集車を毎週一回は走らせることだ。そうすることによりごみの分別をしっかりとし、リサイクルした物でいろいろな物が作れると思う。

二つ目は、ごみ拾いのボランティアの回数を増やすことだ。例えば、二、三ヶ月に一回程度で市内の小、中学生で自分達が住んでいる町の散乱しているごみや違う日に出されたごみを回収するということだ。そうすることによって町が綺麗になるし、小、中学生は今の現状がわかり自分達は気を付けようと思うことができるのでいいと思う。

福島がごみが多いのはもう一つ問題があると思う。それは、若い人達が自然を大切にしないことだ。若い人達は、みんながやるから自分もやっていいと思っている。それに、自分達が自然を汚し、環境問題に発展していることを知らない人が多いと思う。他にも、自然を大切にするためのボランティアでも年ぱいの方と若い人達の割合は、九対一や八対二などのことがほとんどだ。僕は、若い人達がそっせんして自然を大切にしないとだめだと思う。そういう事を無くすためにごみ箱をもっと多く設置すればいいと思う。そしたら、ポイ捨てもだんだんと無くなってくると僕は思う。

僕は、大好きな福島でこういう取り組みを行っていき、いつの日か福島市民憲章にのっているような、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というような目標をなしとげられるようにしていきたい。そして、福島を世界一綺麗にできるようにしていきたい。

「親切な心を持って」

福島市立清水中学校
武　藤　花　音

私が、福島市民憲章で、一番実感したのは、

「一　親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」

です。私がそれを実感したのは、軽い気持ちで始めた、お手伝いからでした。

私の通っている学校の近くには、小さな新しい公園があります。そこは、芝生がしいてあるのですが、人工芝ではなく、天然の芝なのです。その芝は、町内会で管理してくださいと言われたそうで、おじいちゃんが、

「大変だよ。芝の管理って。」

と言っていたので、私は心配に思って、

「大丈夫。手伝おうか。」

と、言いました。すると、私も公園の草かりを手伝ってもいいと言われ、手伝うことにしました。

だんだんと芝も伸びてきた頃、私は、おじいちゃんと町内会の方達と、芝かりをしに、公園にやってきました。

「よし、やるか。」

と全員で気合を入れ、草かり機で芝生をかり始めました。刃がとてつもない速さで回って草をかるので、私にはまだ危ないと、公園の外で一人で待っていました。すると、遠くから、子ども達の声が聞こえてきました。この声の大きさだと、もう少しで公園の方に来るかもしれないと思った私は、おじいちゃんに

「子ども達がこっちに来てるかもしれない。危ないから急ごう。」

と、言いました。そして、みんなで作業をスピードアップさせ、なんとか子ども達が来る前に、作業を終わらせることができました。みんなで、日陰で涼んでいると、子ども達が公園にやってきました。

「あれっ。昨日よりも芝生がすっきりしてる。すごく走りやすいよ。」

と、喜んで遊んでくれていました。それを見て、私はすごく嬉しくなりました。みんなで協力して、愛情あふれるまちづくりというのは、このことなんだと、感じることができた瞬間でした。

私が、これから、親切で愛情あふれるまちにするために、まずは、公園の芝かりの手伝いを継続します。そして冬には、除雪のボランティアもやりたいと思います。さらに、地域では、定期的に一せい清掃もあるので、なるべく参加したいと思います。

このことから、親切な心を持って、地域で地域を支え、福島市が、愛情あふれるまちになってほしいな、と思います。

「福島市をより良くするために」

福島市立清水中学校
村　山　陽奈子

　私は今回の課題がなければ「福島市民憲章」があることを知らなかった。

　私は将来、保育士か看護師になりたい。なぜかというと、子供が好きだからだ。それに人の世話をするのが好きだからである。福島市は高校生までは医療費がかからない。子育てするにはとても良い環境である。福島市は病院も多く、看護師になれば子供からお年よりの人たちのためにお世話ができる。それが安全で健康なまちづくりにつながる。

　最近、全国各地でさまざまな自然災害が多い。お父さんは仕事の関係で岡山県に住んでいる。八年前に東日本大震災があったが、その時、私はお母さんとお兄ちゃんと三人で岡山に避難した。避難した期間は約一年半だった。住みなれている福島を出て他の土地に住むのは初めてだからとても不安だった。お父さんは岡山は昔から災害が少なく、人と人が助け合うという習慣がないから、自分中心的な事が多いと言っていた。例えば、車の運転では、車間距離をつめてきたり、車線変こうするときにウインカーをつけずに曲がったりと相手を思いやることがない。それにゴミのポイ捨てが多く、まちの景色が汚く見えると言っていた。普段はそんな事も考えたことがなかったがそういう話を聞くと、福島はまちもきれいだし、車の運転もマナーが良い。岡山のみんながそういう事をしているかというとそうではない。でも誰かひとりがしてしまうと全体がそういうイメージに見られる。だから一人ひとりがきちんときまりを守るべきである。自分の意識や考えを変えなければ何の意味もない。小さなことから積み重ねれば大きなことにつながる。これからは、福島市民憲章を意識して人の事を思いやり、環境のことも考え住みやすい福島市にしたい。

　昭和四十八年の四月に制定された福島市民憲章は環境のことから教育、文化のことまでいろいろなことが定められているのできちんと一つずつ守り続け、将来につなげていきたい。私は最初、福島市民憲章を知らなかったけれど、その事についてくわしく考えられた。どういう福島市にしたいかもまとめられた。この考えを忘れずに守って生活し、子どもからお年よりまで安全で健康にしていきたい。まだまだ福島市の解決しなければならない事がたくさんあるので考えて実行していきたい。

「親切で愛情あふれるまちへ」

福島市立清水中学校
庄　司　　結

「ありがとうございます。」
この言葉は聞いた人も、言った人も、うれしくなれる、まるで魔法の言葉です。僕は福島市民憲章の、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。の一文を見たとき、親切で愛情あふれるまちは、ありがとうがたくさん聞こえるまちだと思いました。僕が普段生活をしていても、親切な行動をしている人が多くいます。
僕が小学生の頃、下校していると、重そうな荷物を持っているおばあさんが歩いていました。すると、女性の方がおばあさんに近づいて、
「荷物を持ちましょうか。」
と言って、おばあさんの代わりに、荷物を持っていました。おばあさんも、
「ありがとうねぇ。」
と言って、喜んでいました。その時、女性の方の顔にも、笑顔が見えました。僕は、それを見て、親切な行動は、した人もされた人もとても気持ちの良い行動なんだなと思いました。また、あの女性のように、なりたいなとも思いました。
他にも僕はよく親切なことをしてもらいます。
例えば、僕が毎日、登下校をしていて、横断歩道を行こうとすると、よく車が曲がろうとします。特に、僕の学校までの道のりは、車通りが多いのでよくあります。車が曲がろうとしているので、僕が行こうかなと迷っていると、車の運転手の方が、手でどうぞと、ジェスチャーをして道をゆずってくれます。その時は、走って、通り終わったら、車の方を向いて、運転手の方には聞こえていないのかもしれませんが、
「ありがとうございます。」
と言いながら、おじぎをします。すると、運転手の方も笑顔になってくれます。このように僕は親切にしてもらったときには、感謝の気持ちを伝えるようにしています。
しかし、まだ福島市には、親切にしてもらっても、感謝の気持ちを伝えない人がいます。例えば、自転車に乗っている人が、僕のように道をゆずってもらっても、おじぎもせずに行ってしまうことがあります。このような人たちが少しでも感謝の気持ちを伝えるような行動をするようになれば、福島市民憲章の一つである、親切で愛情あふれるまちをつくるということに一歩近づくことが出来るのではないのかなと思います。でも、そのためには誰かが、市民、みんなの見本にならなくてはいけないと思います。だから、今までの経験を活かして、福島市民憲章の見本の人に僕はなりたいです。そして市民のみんなで、親切で愛情あふれるまちをつくりたいです。

「絆をつくる町」

福島市立清水中学校　菅　野　萌　依

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」この憲章を読んで一番に頭に思いうかんだ景色は、夏の美しい青葉に包まれた信夫山でした。私は信夫山に近い小学校出身です。だから、間近に信夫山の美しい四季を感じてきました。この美しい信夫山をもっと多くの人に知ってもらえれば、今の福島市より、もっとにぎわう、もっと美しい福島市になれると思います。

　信夫山は、春夏秋冬がとてもはっきりとしている山だと思います。春には桜が咲きほこり、夏には青々とした青葉に包まれます。秋には鮮やかな紅葉、冬は雪の花が積もり咲きます。けれど、人が手入れをしなければ、山は荒れてしまうと学んだことがあります。ということは、信夫山は誰かが、私達の知らぬ間にやってくれているということになります。

「誰が何でやってくれているのだろう。」こう思うのはあたり前だと思います。けれど私は今まで、このことについて考えたことがたぶんなかったと思います。少し考えれば分かることかもしれません。しかし、この作文を書くことがなければ考えもしなかったかもしれません。前の私のように知りもしなければ考えもしなかった人が、私のほかにもたくさんいるかもしれません。だから、少しでも多くの人に考え、そして知ってもらうため、信夫山の手入れなどに、私達も参加できるようなイベントをもうけてみたらどうでしょう。山も美しくなり、参加した人同士でも絆がうまれて「親切で愛情あふれるまち」も創れていき、一石二鳥だと思います。なぜ絆がうまれるかというと、大変ことを共にやりとげた達成感から心を開いて話せると思うからです。

　さて、今まで大変だけれどもやりがいがある「作業」で人と人のつながり、美しい信夫山が作れると考えてきました。けれど、それ以外の方法もあります。それは美しい信夫山を観光に来た人同士での絆です。美しい景色を共に見て、少しずつでも話をしていけば、小さくても絆がうまれます。その人がほかの地域、県の人だったらなおさら良いです。

　このように、信夫山を美しくするための作業一つで山が美しくなるだけではなく、人と人のつながりもうまれます。こんなにすばらしい山が福島市にはあります。だから、これからの福島は、今よりももっと、すばらしく、美しい福島になっていくと思います。

「思いやりのある福島市をつくるために」

福島市立信陵中学校
菅藤宏重

僕が「市民憲章」で、テーマとして選んだのは、「親切で愛情あふれるまち」です。なぜこのテーマにしたかというと、僕の、今住んでいる、福島市には、思いやりがある人がたくさんいる反面、あまり人のことを考えず行動をしたりする人もいると思ったからです。

僕は、小学校の頃、友達と、公園で遊んでいました。僕と友達が、ベンチで休もうとしたら、ベンチに、誰かが忘れたのかはわからない、バッグがありました。それを見て、僕と友達は、そのバッグを交番へ届けました。その日から、何日かたった後に、そのバッグを公園に忘れていた人から連絡がありました。そして、僕は、その人にお礼を言われました。僕は、とてもうれしくなり、もっと人のためにできることをしたいと思いました。

また、福島市の冬は、たくさんの雪が通学路に積もります。でも、僕たちが通学する時には、雪は少なくなっています。なぜなら、僕たちが通学することを考えて、近所の人たちや、見守隊の方たちが、毎朝早く、雪かきをしてくれているのです。

このように、人に対して、思いやりをもち、親切な人はたくさんいます。でも、その反面、人のことを考えない発言をしたり、行動したりする人もいます。そのような人たちが、親切で思いやりのある人になってくれるよう、僕たちができることはなんでしょうか。話相手になることや、困っている人に、

「大丈夫ですか。」

などという一言をかけることで、相手がうれしくなったり、安心したりすることを分かってもらえます。また、思いやりのある行動や発言をした後の、

「やって良かったな。」

という気持ちがわいてくるということを分かってもらうことで、少しでも多く、思いやりがあり、親切な人が増えてくるのではないのでしょうか。

こういったことを、一人一人が心がけていると、お互いの気持ちが良く分かり、福島市だけではなく、日本や世界中の人たちが、思いやりのある、親切な人たちがたくさんいて、困っている人たちなどを気遣った行動ができるようになると思います。

これらの、一人一人の小さな愛情あふれる気持ちと行動が、福島市民憲章の一つである「親切で愛情あふれるまち」という幻想の実現へ、一歩でも近づけるのではないのでしょうか。

「安全で健康なまち」

福島市立信陵中学校
宍　戸　杏花里

　私はこの作文を書くときに初めて市民憲章について知りました。市民憲章をよく読んで私は「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」が目に止まりました。そしてこの憲章でより力を入れたほうが良いと思ったことが二つあります。

　一つ目は歩行者ファーストへの取り組みです。私の家の近くには信号のない横断歩道があります。そこは私が小学生のころから通っている通学路です。小学生のころ朝は、警察官がいてくれたので安心して横断歩道を渡ることができました。しかし帰り道や中学生になると警察官がいないので、自分達で安全を確認しながら渡らなければなりません。でも渡ろうとしても車が止まってくれず、いつも待つようになってしまっています。止まってくれるのを待つか、車が来なくなるまで待つしかありません。これは歩行者優先という基本にあってないのでしょうか。小さい子供も通る道なので危険も大きいと思いました。調べてみると福島県でも交通違反の摘発数は増えています。しかしまだ、手の届いていないところもあると思います。大きな事故が起こる前に歩行者ファーストへの取り組みの徹底がより大切だと思います。

　二つ目はメタボ対策についてです。福島はメタボ率が全国ワースト三位になってしまっています。メタボになってしまうと生活習慣病になる確率が上がり最悪の場合命に関わるようなことにもなってしまいます。それを防ぐには、一番は車の使用を控えることだと私は思います。近場はなるべく車を使わずに歩きや自転車で行くことで運動不足が少しは解消できると思います。このような取り組みを少しずつでも広げていけば、いつかはメタボ率は減っていくと思うので他県の取り組みも取り入れながらメタボ率減に向けて頑張ってほしいと思いました。私自身も運動不足、食べ過ぎには今後も気をつけていきたいと思います。

　福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限りない発展を願いながら市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年四月に制定されました。東日本大震災もありましたが、それを乗り越えてきました。そして復興してきている今も、よりよい町にしていくために市民一人一人がこのことをよく知って取り組んでいくことで、より意味のあるものになるのではないかと私は思います。私自身もこの市民憲章にしっかりと取り組んでいきたいです。

「地域のために私ができること」

福島市立信陵中学校
平野　七星

私が小学四年生の時に、総合的な学習の時間に、『笹谷をきれいな町にしよう』というテーマでグループに分かれてごみ拾いをすることになりました。私はどこにごみが多いか考えてみると、自宅の前にある小さな公園が思い浮かびました。そこは葭野公園といい、小学生の子たちがよく遊んでいる、本当に小さな公園です。この葭野公園は、月の最初の日曜日に地域の人が集まって草むしりなどをしています。私の父もそれに参加しています。こんな小さい公園でも、ちゃんと目を配っているのかと感じました。私もその公園を、幼い頃からよく利用していて、愛着のある公園です。

その公園を見てみると、大量のペットボトルや菓子の包み紙などのゴミが落ちているのです。私はその公園を汚いままにしたくないと思い、

「葭野公園のごみ拾いをしてはどうでしょう」

と提案しました。そして、いざ、その公園に行ってみると先生や同じグループの人も、ごみの多さに顔をしかめていました。ごみ拾いを終え、きれいになった公園を見ながら、私は、ごみ拾いを提案してよかったと心から思いました。ごみ拾いから、少し月日がたって公園を見てみると、また大量のペットボトルが落ちていました。さすがにこれを見た私の父は少し怒っていました。

「何か対策を立てないと」

という父は、『ごみを捨てないで』と書いた紙をファイルに入れ、ベンチに置いておくことにしました。それでごみを捨てる人がいなくなればいいと思いましたが、実際はそうはなりませんでした。紙がビリビリにやぶられていました。父の思いまでゴミにした人に少しあきれました。

さらにある時、公園で遊んでいる年下の子たちにゼリーをあげたことがありました。その時には、

「このゼリーのごみは、持ち帰ってね」

と言ったのですが、次の日にそのごみが公園の草むらに捨てられていました。私は、なんだか裏切られた気分になりました。

このような何気ないごみのポイ捨てが、自分だけでなく、父や地域の方を悲しませたり、この公園を利用する多くの人に迷惑をかけたりしてしまいます。だから、自分もごみを捨てないのはもちろんですが、誰かがごみを捨てていたら見て見ぬふりをせず、自分の思いをしっかり伝え、注意するべきだと思いました。また拾えるごみは拾って片付けようとも思いました。このことを実行し、きれいな公園、きれいな地域にしたいです。

「親切で愛情あふれるまちを
つくる」

福島市立信陵中学校
菊　地　優　杏

私がこの作文を書くときに思い浮かんだのは、あるおばあちゃんとの話しです。

私は小学生のときに陸上部に入部していました。ある日、陸上の帰りに横断歩道の手前で、あるおばあちゃんがたおれる瞬間を私は目撃しました。それで一緒にいた先輩と私はおばあちゃんを助けに行きました。背中をさすったり、

「大丈夫ですか？」

と声をかけたりしました。最初は私と先輩だけでしたが、時間がたつごとに通りかかった人が警察や消防署に電話をかけてくれました。警察や救急車が来る間に近所の人がたくさんの物を持ってきてくれておばあちゃんを楽な姿勢にしてあげることができました。その後、警察と救急車が来て、おばあちゃんは病院へ運ばれました。私達は警察に、その時の状況を全て説明しました。

翌日､学校で私と先輩は校長室に呼ばれ、校長先生から、

「君達がとった行動はすばらしいです。誇りに思います。」

と、言われました。救急車で運ばれたおばあちゃんの命は助かったということでした。

一週間後、私達の行動が福島市に認められ表彰されることになりました。おばあちゃんのお孫さんからもお礼の言葉をいただいて、人の役に立ててよかったと思いました。

誰かにほめられると、誰でもうれしい気持ちになると思います。私もそうでした。そして人の役に立つことをして、人から認められたことで、この地域の一員であることを実感することができました。また、自分のとった行動に、自信がもてました。だから、こういうことを普段からやっていると､「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という福島市の理想のまちを築けると思います。困っている人がいたら、

「大丈夫ですか？」

という一言をかけてあげたりなど､子ども、お年寄り関係なく、だれにでもできる親切を自分からすすんで実行していけたらいいと思います。当然ですが、人と話すときはいつも明るく、やさしい態度と笑顔を忘れないで接していきたいです。福島に住み続けて生きていく間に少しでも理想にまちに近づけていけたらいいと思います。

「僕を見守る地域の目」

福島市立信陵中学校
渡　邊　誠　也

僕の家の近所には東日本大震災の日まで元気なお年よりが大ぜい住んでいました。

となりのおじいちゃんは今年の初夏に亡くなってしまいました。ですがとなりのおじいちゃんは僕が小さいときにたくさん遊んでくれました。おじいちゃんは畑で野菜を作っていて僕と姉によくトマトやきゅうりをくれました。僕と姉が外でなわとびで遊んでいるとおじいちゃんもいっしょに遊んでくれたり、いろいろな話をしてくれました。今もやさしいえ顔を、覚えています。僕は小さな時、野菜の苗の種類などもそのおじいちゃんに、教えてもらったりしました。

お向いのおばあちゃんは毎日家の前でたくさんのお花や果実を育てています。僕の家の花がしおれていたりすると栄養剤をくれたりしました。お向いのおばあちゃんはかなり高齢ですが、毎日とても元気いっぱいです。

今は亡くなってしまいましたが、僕のことを「まあくん」と呼んでくれる優しいおばあちゃんがいました。こんちゅう図かんを一緒に見たり、アリの行列を見つけたときに、いっしょにかんさつして遊んだ思い出があります。その時のことは、今でもおぼえています。

また震災の後に引っこしてきたおばあちゃんはとても明るくて、元気いっぱいです。僕と妹が外であそんでいると声をかけてくれます。朝は「おはよう」と笑顔でおくり出してくれます。

東日本大震災のとき、僕は姉とテレビの前で座ぶとんを重ねて遊んでいました。揺れの大きさに驚いて外に出たら家がすごくこわれていました。近くのおじいちゃんやおばあちゃんの家も、とてもこわれていました。そのせいで近所のおじいちゃんやおばあちゃんは引っこしてしまいました。とてもさみしい気持ちになった事を覚えています。昔は僕が地域のおじいちゃんやおばあちゃんにかわいがってもらったので、今度はぼくがお年寄りをきちんと見ている番だと思います。

学校に行くときや、遊んでいる時にはいつも、地域の見守る目があります。これからは僕たちのことを見守ってくれている事にきちんと感謝をしたいです。

福島は元気なお年よりが多く住むとてもいい町だと思います。僕は小さい時におじいちゃんやおばあちゃんにかわいがられたり助けてもらったりたくさんの知らない事をおしえてもらったりしました。そんなお年よりを尊敬しています。だから僕がおじいちゃんになったら小さい子をかわいがったり助けたりしたいです。そして今の福島市のいい所を自分の子どもや孫にも受けついでいき見守る目が続いていけばいいと思います。

「世界の手本となる行動を」

福島市立北信中学校
阿部小倖

「どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」環境、それはかってに悪くなる訳ではありません。私達人間が壊し続けているのです。未来を生かすも殺すも私達が環境と真面目に向き合うことから始まります。一人一人や学校、地域ごとに協力しなければなりません。

ですが、私の通っている中学校では二酸化炭素の排出を少しでも減らそうとしているようには見えません。市で決められている、三十度になったらエアコンをつけるというルールから少しはなれています。二十五、六度でついてしまうからです。

「気温が高くなったのでエアコンをつけました。」

この放送自体、今学期になって一回しかありません。何回もエアコンがついているというのに。そして私自身がエアコンがついてもきがつかないことが多いのでなおさらです。

でも私は、ある本を読んでもっと環境に目を向けないと。と感じました。

千九百九十二年の六月十一日、今から二十七年前の環境サミットで当時十二歳の少女が語ったスピーチ。

「あなたが世界を変える日　十二歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ」

という本からです。

冒頭に出した言葉は、スピーチをした少女であるセヴァン・スズキさんの話の中で一番心に残り意識しないといけない言葉だと思います。この言葉の前には説得力のある地球の現状を述べてられています。だれもがあたり前のように知っているけどだれもが深く考えないようなことを。

当時はまだ、サミットに出席している人達が心がけ、大人が心がければ少しはなんとかなったのかもしれません。しかし今は、私達子供も意識し行動しなければならない時代になってきているのです。

そこでまず私達は、この星の現状を深く理解しないといけません。だからこそこの本をどの学校にでも一冊おくことで、もっとみんなが環境に目を向けると思いますし、この本を読んだら、「少しぐらい」が積み重なることでこの星を「少しずつ」壊していると思わせてくれます。それはすごく大事だと思います。一人でも注意を払うことで一人がそのために行動できるのですから。

そして環境を守るための主な活動ですら、市の職員のみなさんにおまかせするだけでなく、市民である私達が考え実行するようになればこの星を生かすことができると思います。

そして私達子供が大人になった時、今の時代で生かすことのできなかった部分を生かせるようにし、また新たに出てきた課題について国そして世界で向き合えるようにしていきたいです。だからまずは、世界の手本となるような行動を福島市が実行していきたいです。

「まちづくりのためにできること」

福島市立北信中学校
西　牧　　桜

私は福島市民憲章のためにできることは、いくつもあると感じました。

福島市民憲章の一つめにある「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」では、花や木をうえたりすることがいいと思いました。

理由は、町がはなやかになり、明るくなると思います。

また、植物は光合成をおこなうと、二酸化炭素を吸って酸素をだすので、環境にとてもいいと思いました。なので、一石二鳥でいいことがたくさんあると思います。

二つめの「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という福島市民憲章に近づくためにできることは、教育と文化を大切にし伝統を引きついでいくことが必要だと思いました。

福島市の文化のお祭や食の文化や教育を希望に輝くまちづくりをすることが大切だと思いました。

三つめの「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」で大切なことは、福島市民が親切で愛情あふれるまちになるように、少ない人数でも親切にしていけば、親切にされた人が喜んでくれて、他の人に親切にしてくれるということのくり返しで親切にしてくれる人が増えて愛情あふれるまちになると思います。

四つめの「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」で大切なことは、きまりを守るということです。きまりを守ることで市民のみんなが楽しくくらせると思います。また、力をあわせて楽しく働けるまちをつくることは簡単ではないと思いますが協力することが必要だと思います。

五つめの「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」で大切なことは、子どもから大人まで安全で健康にくらすことはこれからの未来に大切なことだと思います。安全で健康にくらすために必要なことは、環境からはじめることが大切だと思いました。

この福島市民憲章はすべてがつながっていると思いました。

理由は、いろいろな環境があって、この福島市民憲章がいかされていくのだと思います。市民が幸せにくらし、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためにこの、福島市民憲章は大切だと改めて実感しました。

まちづくりに大切なことは、地域のみんなで協力し仲良くすることから、はじまると思います。

福島市民憲章はいいことでとても大切なんだということを広めていくことがこれからの未来に重要だと思います。

「一人一人ができること」

福島市立北信中学校
齋　藤　舞　依

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という憲章のために、一人一人ができることについて四つ考えました。

一つ目は、自分の家の中や庭に、木や花などを育てたりすることです。植物が少しだけでもあると、その場所が明るくなり、みどりも増えます。そして、植物は天気がいいと、二酸化炭素を減らして、酸素を増やしてくれるので、環境にとてもよいです。それに、植物の中には、空気の汚れをきれいにしてくれる効果があります。このことも、環境によいので、みどりをもっと増やしたいです。

二つ目は、ごみをポイ捨てをしないことです。ペットボトルや空きかん、おかしのごみなどを、ゴミ箱ではない所に捨てることは、環境にもよくありません。とくに、海などにごみを捨ててしまうと、そのごみは太陽光と熱で劣化し、波や石などですり減って削れると、マイクロプラスチックになってしまいます。マイクロプラスチックは、魚などの生き物が食べてしまったりして、これも環境によくないです。だから、自分が出したごみは、最後まで、ちゃんと自分で持ち帰るようにして、ポイ捨ては、絶対にしないように、一人一人が心がけていけば、良いと思います。

三つ目は、水汚れを少しでも減らすことです。水汚れの原因の一つは、生活排水です。皿洗い、洗たく、お風呂などで使われる、洗剤などの物をたくさん使いすぎると、水の汚れが多くなります。生活に必要な物なので、仕方ありませんが、使いすぎに注意することで、少しだけでも、汚れが少なくなればいいなと思います。

四つ目は、自然を大切にすることです。今では、高速道路をつくったりして、森林が減っていると思います。便利になって、いいことですが、だんだん森林が減ってしまうのは、よくないと思うので、また新しい木を植えるようにすれば、いいと思います。そして、伐採された木は、家を建てるときに使ったりして、最後まで大切にすれば、自然を大切にできると思います。それから、物を買うときに、環境にやさしいなどと書いてある物を買うことでも、自然を大切にすることができます。

自然は、私達が生活していくために、必要なものです。自然がなくなってしまったら、生きていけなくなってしまいます。だから、一人一人が大切にしなければいけないと思いました。

私は、憲章のまち作りのためにできることは、この四つだと考えました。この四つのことを、生活していくときに、心がければ、今よりも、もっといい町になって、みんなが過ごしやすくなると思います。

「私たちができること」

福島市立北信中学校
小野千咲

私は、福島市民憲章に書かれているようなまちをつくるために、私達にどんなことができるのか、ということを考えました。

一つ目の「空も水もきれいなみどりのまち」をつくっていくために必要なことは、二つあると思います。一つ目は、二酸化炭素を減らすことです。例えば、車の排気ガスなどが太陽光線を受けると「光化学スモッグ」という有害な物質に変わってしまいます。それでは、空気がきたなくなってしまいます。それを防ぐためにも、近い所は自転車や徒歩で移動することなどが大切だと思います。二つ目は、ゴミのポイ捨てをしないことです。私は今年、北信中学校で「マナーアップキャンペーン」を行い、思ったよりたくさんのゴミが落ちていて驚きました。たくさんゴミが落ちていると、みんな気分が悪くなってしまいます。そうならないようにするためにも、ゴミのポイ捨ては絶対にダメだと思います。

二つ目の「教育と文化を尊び希望に輝くまち」をつくっていくために必要なことは、二つあると思います。一つ目は、伝統的な行事に積極的に参加することです。古くから受けつがれてきた行事は、参加する人が少なくなれば、いずれなくなってしまいます。伝統行事を受けついでいくためにも、行事には積極的に参加したいと思っています。二つ目は、もっと福島市の歴史について知ることです。福島市の歴史について知ることは、福島市の文化にふれることでもあると思います。福島市の歴史や文化を伝えていかなければ、いつしかそれは忘れさられてしまいます。「福島市には昔、こんな面白い文化があった」と伝えていくために、福島市の歴史を知るのは必要なことだと思います。

三つ目の「親切で愛情あふれるまち」をつくるために必要なことは、誰にでも親切にすることだと思います。誰かに親切にされると、私も誰かに親切にしたくなります。それがめぐりめぐって自分に返ってくると思います。そうなればみんなが幸せになると思うので、やっぱり人に親切にするのは大切だと思います。

四つ目の「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」をつくるために必要なことは、私はまだ働くことはよく分からないけど、きまりを守ることはすごく大事だと思います。きまりはみんなのためを思ってつくられたものだから、私自身もたまに破ってしまうけど、きまりを破ることは誰かがいやな気持ちになってしまうと思うので守るべきだと思います。

五つ目の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をつくるためには、ユニバーサルデザインを重視するのが大事だと思います。みんなが生活しやすくなると思います。

このように、私達にできることはたくさんあるので、それを心がけて生活したいです。

「安全で健康なまちづくり」

福島市立北信中学校
久間木　香　里

私は、子供からおとしよりまで安全で健康なまちにしたいと思っています。そのためには、私たちにできることを考えなければなりません。

まず、まちは安全でなければいけません。しかも、まちというのはたくさんの人が来るところです。でも、たくさんの人がくればくるほど事故が増えてしまいます。私は、そうならないために二つ考えてみました。

一つ目は警備員さんをできるだけ多くのところにきて安全を確かめたらいいのかと思います。そうすると、みなさんも安心してまちをたんのうできるのではないでしょうか。

二つ目は、自分たちで安全を呼びかけるということです。自分たち一人一人が安全を呼びかければ、みなさんも心がけてくれるのではないでしょうか。私はみなさんが安全で安心できるまちにしたいと思っています。私は、まちにいってふと思うのが人がたくさんいるし事故でもあったらこわいなあということです。まちは子供からおとしよりまできます。私はみんなの健康を守りたいと思っています。

では、これからみなさんがまちにいくときに気をつけてほしいことがあります。それは三つあります。

一つ目は、危険な道路などは歩かないようにしましょう。そこで事故などがおきたりするので気をつけてください。

二つ目は、できるだけ警備員がいるところを通りましょう。何かあっても警備員の近くにいると安心できるのでこれはぜひみなさんやってみてください。そして必ず何かあったら警備員さんに知らせてください。

三つ目は、自分の命は自分で守るということです。何かあってからではおそいので身の危険を感じたら、すぐににげるなどして自分の命を守りましょう。そして楽しくまちをたんのうしてほしいと思います。

私がまちに行ったときに心がけたいことは、事故などがでないようにしたいので、横断歩道をわたるときは、信号が青になってもすぐわたらないで左、右から車がきていないかをしっかりと確認してからわたりたいと思いました。そして、小さい子供やおとしよりの人は自分で判断することが難しいので自分から呼びかけたいと思いました。そうすると、みんなわかってくれると思います。私はだれかの役に立ちたいのでこれから続けていきたいと思いました。

私は、子供からおとしよりまで安全で健康なまちをつくりたいと思っていろいろな対策を考えてみました。まちは危険で何があるかわからないときこそ自分で考えたことをまちでできればいいなあと思いました。そしてみんなの安全、健康を守るためにできることをもっとさがしていきたいと思いました。みなさんもぜひできることをさがしてみましょう。

「私達の環境」

福島市立北信中学校
酒　井　奈緒子

私達は、あたりまえのように生きていますが、今では、地球温暖化という大変な、ことが起きています。その地球温暖化を防ぐために私達でもできる対策があると思います。

　地球温暖化とは二酸化炭素などの温室効果ガスが主因となって地球表面の気温が急速に上昇することです。だから私達は、そのことを知りながら対策を考えていきます。私は小学校の時、地球温暖化のことを学びました。その時にも私達ができることを、教わりました。使っていない部屋の明かりや見ていないテレビをつけっぱなしにしないなど指示されました。だれど私は、そのことを教えてもらっても、電気をつけっぱなしで、テレビはずっと付けてあります。だから私は、そのことを心がけていきたいです。ですが、私は、二つだけ、これは直せない対策があります。それはレジ袋です。私はお母さんとお買い物に行く時、いっつもレジ袋を買います。なぜレジ袋を買ってはいけないか、考えてみました。それはエネルギーが使われてしまうからと、ゴミとして燃やすときにも二酸化炭素が発生してしまうからです。ですが、コンビニでは無料で袋がもらえます。そうした場合どうすればよいのでしょうか。それをこれから考えていきたいです。それでは、福島では多い、車で、お買い物をするとき、そのときにも、温暖化に繋がることをしています。ですが、福島は、田舎で、自転車では遠い所が多いのでとても福島では、車がないと不便です。ですが東京などで考えてみると、地下鉄などがあり、そして、福島みたく一時間ごとに電車がくるのではなく、五分ごとぐらいに来ます。だから東京は、タクシーぐらいしか車が走っていないから対策にはとてもいいと思います。では、子供と大人でも簡単にできる対策があります。地球温暖化とは二酸化炭素は温室効果ガスのはじめといわれています。私はこのように考えました。そしたら日本全部、花でうめたらいいと思いました。植物は、二酸化炭素を吸って酸素を出します。なのでとてもいいと思います。でも、地球温暖化だからってこんなことをするのではなく、なにもなくても、空をキレイにするためとか水をキレイにすることにも繋がっていきます。なので花を植えることだけで、地球温暖化の対策ができます。植えるのは、だれだって、できます。ぜひ、家の庭などに植物がない人には、花を植えてほしいです。だから地球温暖化対策は、だれでもできます。少しでもいいからぜひ地球のため、みんなのため、自分のためだと思って、私は、対策をしていきたいです。

　これまでこの作文には私が考えた、ことを書きました。この考えが、あってるのかは、わかりませんが、このことをもとに、地球温暖化の対策を少しずつやっていきたいです。これは、地球のためにやっていきたいです。

「自然がきれいな福島市に」

福島市立北信中学校
高　橋　莉　桜

私の家には植物がたくさんあります。中くらいの物や小さい物などがあります。家の周りにもたくさん花や植物があり自然がたくさんあるなと思います。でも家の近くの公園を見るとたまにごみが落ちているときがあります。なぜごみを捨てるんだろうと不思議に思いとても心が痛みます。自然を汚くされてごみを捨てた人はなんとも思わないのかな、そのごみのせいで環境が悪くなってしまうかもしれないよと注意してあげたいです。特に、神社などのお祭りがあった後その場所にごみが何個も落ちてる時があります。家からコンビニへ行く道を通る時もストローやレシートなどが落ちています。自然が多いことは良いけどごみがあちこちにちらかっているのはよくない、もっと自然を大切にするべきだと思います。もっときれいにして、皆が住みよい暮らしにできるようにしたいです。そのためには、自分のごみはもちろん、道に落ちていたごみも拾ってきちんとごみ箱に入れるように心がけたいです。それに植物を大切にしたいです。小学生の時、育てていた植物にあまり水をあげずからしてしまったことがあったからです。その時から私は、植物も大切にしようと思いました。理科の授業で植物に光を当てると二酸化炭素をとり入れ酸素を出す光合成というはたらきについて学習しました。酸素は生物が生きていくために行う呼吸をするために必要なので今私達が生きているのは植物のおかげだと私は思います。酸素が多すぎて、火事につながる可能性もありますが、植物も呼吸をしているのであまりなりません。植物と生物がいることによってそのバランスがうまく取れているんだと感じました。それに植物の一部にはキュウリなどの野菜類やリンゴなどの果物の木があり普段私達が食べている物です。この植物たちがいないと私達はちゃんとした栄養がとれません。なので私は植物たちにとても感謝しています。

私は、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」を中心に福島市を住みよく、平和なまちにしていきたいです。そのためには、自然を大切にし、家の周りの道だけでなく、公園や河川もきれいに使い進んでごみ拾いをしたいです。それと、水の使いすぎに注意したいです。たまに水道のじゃぐちがきちんとしまっていないときがあります。水のむだ使いになってしまうので水道を使った後はしっかりとじゃぐちをしめ、水が出ていないか確認をしたいです。水道を使わないときも水が少しでも出ているのに気付いたらしめていきたいと思います。このようなことを実行して、福島市をもっときれいな環境にし、笑顔あふれる福島市になるようにがんばりたいです。

「福島をより良くするために」

福島市立北信中学校

本　多　海　音

私は、このコンクールを通して福島の市民憲章について考える事ができました。その中で私は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」と、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」と、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」の三つの憲章について考えてみました。

まず、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」とありますが、この憲章は、友達や家族、地域の方々との交流を通して、優しく思いやりの気持ちを持ち、相手の気持ちを考えて行動できるようにする事が大事だと思います。この事を意識して生活できれば、すぐに誰でも実行できる事だと思います。

次に、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」とありますが、この憲章は、自分の体に気を付けて生活し、今日本は少子高齢化が進んできているので改善していかないといけない問題だと思います。なので、まずに身近にいる人の健康状態を確認して生活をしていく事で少しだけでも、少子高齢化の進行を抑えられると考えました。

三つ目に「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」という憲章はよくテレビで薬物に関してのニュースを見るので、薬物には手を出さない事、友達や知り合いでもしゃっている人がいたら、すぐにやめさせて、決まりや法律を一人一人が守れるように改善して行きたいと思いました。力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうの部分では、友達や家族と力を合わせて、楽しく進んで働けるような環境を作るために工夫し家族で話し合う時間を作り、気持ちよく働けるようにちょっとした工夫を考えてみました。一つ目は、その日にあった出来事を話し合って、家族のために、「頑張ろう‼」という前向きな気持ちを持つきっかけを作る事で、楽しく働く事ができるのではないかと考えました。

この三つの憲章を通して、一人一人の今やるべき事が分かってきたと思うので、福島でよりよく生活する事ができるように、日頃の生活から意識して、自分の行動に責任を持って生活していきたいと思います。

「僕の好きな福島市」

福島市立北信中学校
山北　遥斗

僕は福島が好きだ。福島で生まれて、福島で育っている。だからこそ、福島市を発展させていきたいと思っている。そんな中で、僕は「福島市民憲章」の存在を知った。

僕が福島が好きと感じたのは、三才のころだった。散歩に出ては、花や木、草が生えている。川の近くを通るときも、きれいな水が流れている。交通安全の活動をしている人たち、明るく話をしている人がいた。三才で、「ここはいいところだな」と思うぐらいだった。自分で考えられるぐらいのころになってから、こんなことを思っていた。でも、この感じは長く続かなかった。

それは、平成二十三年三月十一日。思い出したくもない、東日本大震災だ。物心ついていた僕は、恐怖心がすごかった。この日から僕の気持ちが変わってしまった。なぜなら、福島第一原子力発電所の事故によって、自由に外を出歩けなくなったからだ。しばらく、これまでの「福島市」をしばらく見ることができなくなってしまうと知ったときは、本当に苦しかった。外で遊ぶのが好きな僕は、ずっと家の中にいることしかできなかった。それがいやだった。また花や木、きれいな川、明るく話をしている人、安全のために頑張っている人を見れない、それがいやだった。外に出れない時期は、あまり覚えていなかった。なぜなら、また地震が起きるかもしれないという恐怖心が本当に強かったからだ。少しでも小さな地震が起きるたびに、動けなくなるぐらい怖くなってしまった。もう思い出したくもない。

しばらくして、家を出たときは本当に心がいたんだ。その日は雨が降っていた。花もかれてる、人がいない、川も汚れている、車もいない。こんな日だった。この日、福島が怖くなった。でも、時間をかけて、少しずつ良くなっていった。

こんな経験があって一度はいやになった福島市だが、もう一度福島が好きになった。そして、福島市民憲章を知って、さらに福島市が好きになった。もし今、震災が原因で今も福島をはなれている人がいるならば、またもう一度福島の良さを知ってもらって、もう一度福島にもどってきてもらいたいと思っている。僕はこれからも福島市民憲章をいろんな人に広めていきたいと思う。

「空も水もきれいなまちにするため」

福島市立北信中学校
渡辺　悠里

ぼくは、福島市民憲章にある空も水もきれいなまちをつくりましょうということからそのためにはなにをしたらいいのかを四つ考えました。

一つ目は、そこら辺にごみを捨てないで、きちんとごみ箱に捨てるということです。ごみをそこら辺に捨てると空気が汚れ空がきれいではなくなってしまいます。また川などに捨てるとそのごみのせいで川がにごって、魚たちも住めない川になってしまいます。そこら辺にごみを捨てる人は、近くにごみ箱がないから捨てる人が多いと思います。そんな時は自分で家に持ちかえって捨てればいいと思います。

二つ目は、ごみ拾いです。町内会などでごみ拾いをしている時があります。その活動に一人一人がまざってごみ拾いをすれば町はきれいになると思います。またその町内会でのごみ拾いの活動に参加ができない時は、外に捨てられているごみを自分で拾って捨てれば町がきれいになります。

三つ目は、捨てるごみの量を減らすということです。ごみじゃないのを捨てていませんか?捨てられたごみは、ごみ焼却炉にいきそこで燃やされます。燃やすとけむりがでてきてそれが空へと昇り空が汚くなってしまいます。また、ごみ袋にまだ食べれるような部分を入れて捨てると、ごみ置き場に捨てた後カラスがごみ袋をつついて破きまわりにちらかってしまいきたなくなってしまい、町の環境もきたなくなりみんなからの評価もさがってしまいます。なのできちんと使えそうな物は使ったり、まだ食べれる物は食べたり、ご飯で残す物を減らしたりしごみの量を減らすことが大切だと思います。

四つ目は、水をきれいにするため油、食器用洗ざいなどをなるべく使わないようにするということです。洗ざいや油をいっぱい流してしまうとそれが川へ行きとても汚れてしまいます。そうなんないように、一回の洗い物に一回か二回くらいしか洗ざいを使って洗わないようにし、水だけで洗える物は水だけで洗った方が良いと僕は思います。また、油を使った時はそのまま流し台に流さないで、キッチンペーパーなどのふける物でふきとってから水で洗うと川もきたなくならないし、洗う人も洗うのがとても楽になると思うので、油はそのまま流さないようにしましょう。

僕は、一、そこら辺にごみを捨てないできちんとごみ箱に捨てる。二、ごみ拾いをちゃんとする。三、捨てるごみの量を減らす。四、水をきれいにするため油、食器用洗ざいなどの使う量をできるだけ少なくするという四つのことを行い福島市民憲章にある空も水もきれいなまちにしましょうということを実現させるために自分でもできることは、自分で積極的に行いたいと思いました。

「自然豊かな福島にするために」

福島市立西信中学校
遠藤　来夢

私は小学六年生のとき、木を植えるボランティアに参加しました。友達といっしょに、楽しそうだったので参加しました。最初は軽い気持ちで参加しました。ですが木を植えてみると、この木が育って森や林ができていくんだなあと植えながらそばで、実感することができました。弓矢や紙コップとまつぼっくりで作るけん玉など自然のものを利用して遊ぶことができるおもちゃを作り、体験しました。私が一番思い出に残っているのは木で作るキーホルダーです。これは木の枝を選び、先の部分をカッターで削り、えんぴつ型のキーホルダーをつくるというものです。木はかたく削るのが大変でした。完成したときには達成感がすごくありました。そして一番面白かったのは丸太をのこぎりで切るというものです。とても太い丸太を切るのは本当に大変でした。こんなに大変だとは思わなかったので普段使っている机やいす、えんぴつなどに感謝して使っていき、無くしたりせず、使えなくなるまで大切に使っていきたいと思いました。

私はボランティアに参加して自然の大切さについて学べたと思います。最近人口が増えてきていて、森を切り開き、家を建てることが多くなっています。だからこそ木をたくさん植えて森をつくっていきたいと思います。今の子供たちにも伝えていき、一年後や二年後には豊かな森がたくさん広がっている、そんな世の中にしたいです。

福島は水がきれいだと思います。福島市には荒川という川があり、その川は水がきれいだと有名です。私はそんな荒川が自分の近くにあることがとてもほこらしいです。小学四年生のとき荒川見学に行きました。私は荒川を荒れている川だから荒川という名前なのかなあと思いながら行ってきました。荒川を見てみると、水はきれいなのに周りにはペットボトルのごみなどが落ちていてごみが落ちていると水もだんだん汚れていくと思います。なので荒川の周りをそうじするボランティアなどがあったら参加して、私たちのほこりである荒川をきれいにしたいです。

自然豊かな福島にするためには、私たちが日ごろから積極的にボランティアに取り組んで川や森にごみを捨てない、捨てようとしている人がいたら止めるということが大切だと思います。

「緑の町を守ろう」

福島市立西信中学校
秋山　花愛

私がこの題名にした理由は二つあります。一つ目は、福島市をもっときれいにしてほしいと思ったからです。二つ目は、ゴミ拾いなどの行事に積極的に参加してほしいと思ったからです。

私は、この前の二十四時間テレビで福島県内をゴミ拾いしてきれいにしていってくれるところを見ていました。ゴミは様々な場所に落ちていました。海や、歩道、側溝などに落ちていました。中でも驚いたのが、草がはえていて目だたない場所にゲーム機が捨ててあることでした。もう一つ驚いたことがあります。それは、海の砂浜にすごい数のゴミが捨ててあったことです。中にはもう流れていっているものもありましたし、人が入れないような場所にもゴミが捨ててあって福島にもこんなにたくさんゴミがあったんだなと少し嫌な気持ちになりました。二十四時間テレビでゴミ拾いをしていた福島県のアナウンサーの人もショックを受けている様子でした。

私も小学生の時にゴミ拾いをしたことがあります。たばこの箱や使った後のたばこ、空き缶などが歩道などに落ちていました。この前も部活から帰っているときに空き缶が落ちていました。なんでゴミを持ち帰らないで使った場所、飲み終わった場所に捨ててしまうのかが気になりました。こんな感じで捨ててしまう人がいるから福島市は、福島市民憲章を定めたのかなと思いました。私はきれいな福島市を保つために目標を二つ立てました。一つ目は、ゴミ拾いなどの地域の行事にできるだけ参加するということです。二つ目は、ゴミを外出しているときになるべくださないということです。なぜなら、バックなどに入っていたゴミがバックを開くときに落ちていってしまうかもと思ったからです。この二つの事をこれからも守っていけたらなと思います。そして、福島の緑を守っていきたいなと思いました。

この作文を書いてみて、思った事は三つあります。一つ目は、いろんな場所にゴミを捨てる人がたくさんいるということです。二つ目は、ゴミを捨てるという行動をとることによっていろんな被害が出てくるんじゃないかなということも思いました。三つ目は、私が福島市のゴミを増やさないためにということも考えられていい機会だったと思いました。

「美しい福島市のために」

福島市立西信中学校　木　幡　菜々子

私は、福島市民憲章の空も水もきれいなみどりのまち、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちについて考えました。

まず、空も水もきれいなみどりのまちについて考えました。私の住んでいる家のまわりには、花が枯れてしまっていたり、雑草が生えていたり、ごみが落ちていたりします。なので、私のまわりは、美しい環境とはいえません。また、私のまわりだけではなく、出かけた時にも落ちているゴミを見かける時があります。私は、ゴミを捨てたことがないのでなぜ捨てるのか、分かりませんが、きれいなまちをつくるためには、福島市民一人一人が自然を大切にし、意識しなくてはいけないと思います。なので、私も、ゴミを見かけたらそのままにしないでちゃんとゴミ箱に捨てたいと思います。また、地域の人に呼びかけるなどして、福島にゴミが落ちていることのないようにしたいです。また、家のまわりにある雑草は、月に一回ぐらい、地域の人と協力して雑草をなくしていきたいと思います。

次に、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちについて考えました。私は、安全で、まだだめだなと思いました。理由は、私が危ないと思うところを何回か見ているからです。そのうちの一つが、自転車と車がぶつかりそうになったことです。その時は、自転車の人が気づいて事故にはなりませんでしたが、もし、自転車の人が気づくのが少しでもおそかったら、事故になっていたかもしれません。もう一つは、私が車に乗っていて道路を走っている時、わきから自転車がとびだしてきたことです。車を運転していたのは、お母さんで、気づいて止まれました。でも、これも、気づくのがおそかったら、急に止まることができないので事故にあっていたかもしれません。また、私の家の近くでは、おそい時間なのに、音をたてながら走っている人がいます。夜なので、近所の人達にも迷惑だと思います。なので、私は、もうちょっと事故防止のための看板やポスターをつくったり、コマーシャルなどで呼びかければ、少しは事故もなくなるんじゃないかなと思います。

私は、普段あまり気にしていなかったけど考えてみたらまだだめだなと思いました。でも、福島市にはいいところもあるのでこのことをなくして美しい福島市にしたいです。

「親切で愛情あふれる　まちをつくる」

福島市立西信中学校
田中夕捺

私がなぜこの題名にしたかというと、夏休みのニュース等で、幼い子供、園児たちへの虐待をしているニュースや暑い気温の中、車の中に子供がいたままだとかそういう悲しいニュースが多かったからです。

私は、このようなニュースを見るたびに、なぜ虐待をしたのだろう、自分の子供は大切なんじゃないのかなとか色々考えたりしたけどやっぱり虐待、いじめ等をする人の気持ちは分からないし、考えることが出来ませんでした。私が小学生のころはクラスの中でいじめは、無かったけど他の学年では、いじめが無かったという事も言いきれず、もし私の目の前でいじめにあっていたり、助けを求められていたりするときは、見て見ぬふりは、したくないなと思いました。もし自分が、いじめを受けたときに、誰も助けてくれないのは悲しいし、人への親切さや愛情があるのかとその人達を恨んでしまうかもしれない、そう自分が思っているから、自分がやられて嫌な事、やってもらって嬉しいことを考えて行動したいです。

次に私は、親切、愛情ということを考えました。親切は、相手に対して優しい心、態度で接するということなので周りを見て、困っている人を見かけたら恥ずかしがらずに、勇気を出して声をかけたいと思いました。そして、優しい心、態度ということなので、それを心がけたいと思います。私は、いつも最初の方は優しく接しているつもりだったけど、徐々に接し方が悪くなり怒ってしまうことが多いので心がけたいと思いました。そして、接する時には、子供だけでなく、自分の家族の人やお年寄りの人、初対面だけど困っている人がいたら助けてあげるようにしたいです。

このような、親切にしたりすることで助かる人もいると思うので、私だけでなく、家族や親戚に親切にしたり愛情を持って接した方がいいと思うと自分の意見を伝えて家族・親戚で心がけていきたいです。そうすると、私達以外の人達も親切に接するようにと少しでも心がけたり、してくれるといいなと思いました。

さらに、私のクラスのみんなも、少しでも親切に接したり、友達や家族にも、愛情をもって接してくれるといいなと思いました。

そして、いずれはいじめや虐待がなくなりそのようなニュースが無くなったらいいなと思いました。

「みんなが親切で愛情あふれる町をつくろう」

福島市立立子山中学校
斎　藤　愛　姫

私は、子どもからお年寄りをいたわり、親切にしたり、人に明るくしたり、優しい態度で接することができる町をつくりたい。

理由は、今の子どもや大人はスマホばかりいじってコミュニケーションを取らないからだ。また、バスなどでお年寄りが立っていてもスマホに集中しすぎて席をゆずらない姿を見ることがあるからだ。そのため、市民一人一人が相手の事を考えて行動できる町をつくりたい。さらに、親切にしないことで相手が傷ついてしまうことも考えられる。以上が、みんなが親切で愛情あふれる町をつくろうと思う理由だ。

みんなが親切に接するためには、相手の事を大切に思ったり、スマホばかりいじったりしないでコミュニケーションをとらなければならない。

そのためには、自分がされたらいやなことをしない、困っている人がいたらすぐ助けてあげる。そのように毎日心がけていれば自然とみんなに親切に接することができるのではないかと思う。

私は、人に明るく接することを毎日心がけている。バスや電車に乗ったりするとお年寄りが立っていることが多い。そのため私は、気づいてすぐに「どうぞ。」と言ってゆずってあげるようにしている。

しかし、こういう目立つことが苦手の人もいるだろう。そんな人は、友だちや家族と一緒に言うのも親切に入ると思う。必ずお年寄りの人に「ありがとう。」と感謝の言葉が返ってくるはずだ。

こういった経験が大人になった時、自然と役に立つと思う。しかし、それには勇気が必要だ。相手にとって親切にされるととてもうれしい気分になる。また、バスだけではなく、家や学校、お出かけした時にも気づいたら自分から話しかけ、助けてあげることが大切だ。そうすれば自分が困っている時に助けてくれる人がいると思う。

私は、これからも親切を続けて行こうと思う。そうすれば、いつかその親切を自分にもしてくれる人が絶対いると思うからだ。

自分がみんなに親切に接すればみんなが自分に親切にしてくれるはずだ。

親切は、人と人を結び、された人もした人もとても良い気分になると思う。そんな町を作りたい。

「みんなが安全で健康な町をつくろう」

福島市立立子山中学校
大　内　那　夏

私は、子どもからお年寄りのみなさんが安全で、毎日健康にすごせる町をつくりたいと思う。その理由は、交通事故が起こると大変なことになってしまうからだ。そのため市民が安全に暮らせる町をつくりたい。また、毎日健康にすごさないと、病気になってしまうということもあると思う。以上が、みんなが安全で健康な町をつくろうと思う理由である。

安全に暮らすためには、交通ルールを守り安全に歩行したり、安全運転をしたり、子供やお年寄りを事故から守るための正しい交通ルールを身に付けたりしなければならない。

そのためには、横断歩道などをわたるときには、左右をしっかり確認してからわたる必要がある。また、お年寄りの方が重い荷物を持っていたら、助けてあげたほうがよい。そのように気をつけていると安全に毎日すごせるのではないかと思う。また、安全運転をするためには、信号機をよく見て運転したり、シートベルトをしっかりつけておくことも大切だ。シートベルトをつけておかないと急ブレーキをしたときにケガをしてしまう可能性がある。なので運転する人は絶対しなくてはいけないし、後部座席の人もしなくてはいけないと思う。また、飲酒運転は絶対してはいけない。飲酒運転は交通事故の原因となるのでお酒を飲んだときは運転はしないようにしないといけない。このように運転する人も気をつけて運転すればみんな安全にすごせるのでよい町になると思う。

しかし、交通ルールだけ気をつけているだけではだめなのだ。なぜなら自分の健康にも気をつけないと病気にかかってしまうということがあるので健康にも十分気をつけないといけない。毎日健康にすごすためには、スポーツなどをして体を動かすことが大切だと思う。体を動かさないで食べてばかりいると、太ってしまって命に関わってくる。そのため、毎日スポーツなどをして楽しく生活できる環境が必要だ。また、栄養バランスのよい食事が毎日できるとよい。栄養バランスのよい食事をとると体にいいので健康になれる。また、すぐ飲みこまずに三十回ぐらいかむとだ液がたくさん出るので虫歯予防にもなるのでよい。このように毎日、スポーツなどをしたり、栄養バランスのよい食事をしたり、すると健康に暮らすことができる、よい市になると思う。

みんなが安全や健康にいつも気をつけていればとてもいい町になるので自分もたくさんのことに気をつけてすごしたいと思った。

「自然豊かなまちづくり」

福島市立立子山中学校
三浦　ゆい

私は「福島市民憲章」で、特に「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」が特に大事だと思う。私が住む福島市は自然が豊かな土地だ。しかし道中にゴミがポイ捨てされているところを見るとまだまだ改善しなくてはいけないところが多いと思う。きれいなみどりのまちを作るために私にできることは何か、考えてみた。

一つ目は、当たり前だがポイ捨てをしないことだ。ポイ捨ては環境に悪い。また、福島市を訪れた観光客の方が不快に思うだろう。私たちも良い気持ちはしない。なぜポイ捨てをするのか。ポイ捨てをする人は手元にゴミがあるものの近くにゴミ箱がないため、その場所に捨ててしまうのだと思う。解決策としてはポイ捨てが多い場所にゴミ箱を設置することが一番だと思う。そして極力自分でゴミ袋を持ち歩き、ポイ捨ては環境に悪いということを意識することが大切だ。

二つ目は、生活排水を減らすことだ。川が汚れる原因として工場などからの産業排水のほかに、台所やお風呂、トイレなどから出される生活排水がある。その生活排水が川を汚す一番の原因で、約七割を占めているという。しかし、その生活排水で出さないための対策はある。その対策は大きく分けて二つだ。台所での対策と洗濯やお風呂場での対策である。台所での対策は流しの三角コーナーや排水口では水切りネットなどを使い、調理くずや食べ残しを流さない、洗濯やお風呂場での対策はお風呂の残り湯は掃除などに使うことだ。この他にも対策はたくさんある。川をこれ以上汚さないためにも、対策を行っていこうと思う。

三つ目は節水だ。節水は環境保全に繋がる。節水は私達にできることが多い。まとめて洗って洗濯回数を減らす、歯磨き、洗顔は水を流しっぱなしにしない。食器洗いはため洗いするなどたくさんある。日々の生活を見直してみると、意外と多くの水を無駄にしてしまっていることに気づいた。少しの工夫を毎日していくことで、大幅に節水することができるのでどんどん実践していきたいと思う。一人一人がこれらを意識して生活していけば、自然が汚れることなく、空も水もきれいなまちを作ることができるだろう。

私たちにとって市民憲章は福島市をよりよくしていくための大切な目標だと思う。私は今回一つだけを取り上げたが、他の四つの憲章についても日常生活で意識していきたい。福島市民憲章を全員が守り、快適で明るく住みよいまちになるといいと思う。

「よりよい福島市を目指して」

福島市立大島中学校
後藤　陽菜

「福島市民憲章」は、住みよいまちづくりを進めるために制定されたものです。私は、五つある福島市民憲章の中の二つについて、生活の中にどのようにいきづいているのか考えました。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。私は、きれいでおいしい福島の水が好きですし、豊かな自然も大きな魅力だと感じています。

ですが、「ゴミのポイ捨て」がたえていないと思います。通学時に、ゴミを見ないことはありません。見るにたえず、家族でゴミ拾いをしたことがありましたが、隠すように草の間や見えない所に捨ててあるゴミは減ることがありませんでした。

だから、福島市民一人一人にもっと「空も水もきれいなみどりのまちをつくる」意識を持ってほしいです。そして、現代化が進むこの社会の中だからこそ、福島市の自然の美しさに改めて気付き、大切にしてほしいです。

二つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」です。

私は、校外学習で小学校に職場訪問をしに行ったことがあります。仕事やインタビューの内容をまとめた後に、校長先生からお言葉をいただきました。とても心に残っています。

「夢を見つけて大事にしなさい。そして、それを叶えられるように努力しなさい。」と。

この言葉で、「職業」とは夢を形づくる希望なんだと感じました。自分の利益のみを追い求めて働くことが、仕事ではないと思います。「自分の利益も大切だけれど、人の役に立とうという気持ちを忘れないで働く」「仲間と協力してやりがいを感じながら働く」中学生で現実を知らずに理想をかかげるなと思われるかもしれませんが、それが「仕事」「働く」ことの真骨頂だと私は考えます。

「福島市民憲章」は、今挙げた二つだけでなく、この福島市に生きる私達に明るく輝ける毎日を生きることを伝えてくれる素晴らしいものだと思います。

「福島市民憲章」は、理想ではなくこれからの未来です。老若男女、福島市の皆さんはこれを読んでこれからの未来を考えてみて下さい。そして、福島市のため、人のために何かしてみて下さい。きっと、いきいきとしたよりよい福島市になるはずです。

「自然を守り美しい町を作りましょう」

福島市立西根中学校
小松　漣

福島市には、たくさんのすばらしいことがある。ですが、ぼくが遭遇した人で、これは「本当に良いの…」という経験をしたので、このコンクールに作文を書こうと思いました。

ぼくが夏休み中、遊びに行こうと自転車に乗って向かっていると、おじさんが橋の下にゴミをなげているのを見つけました。そのおじさんは、なにもなかったように歩いて行ってしまいましたが、ぼくは、その時中国のポイ捨て問題を思い出しました。中国では、川にゴミを捨てて川がにごっていたり、とても環境が乱されていることでした。ほかの国から見て、日本はきれいと思われていると思いますが、ぼくが偶然見かけたおじさんのようにポイ捨てをする人が増えてしまうと、福島市、日本が中国のように川がにごってしまったり、野生の鳥やイノシシの殺傷の原因となってしまったりと環境にもたらす被害は大きいと思います。山などがよごれていると外国人や国内の観光客が減ってしまうなど福島市にもたらす被害もあると思います。環境が壊されないようにボランティア活動をしているおじさんを学校に行くときなど見かけます。そのおじさんは、山にのぼってゴミがおちていたら拾って、近くの公衆トイレを見回ってゴミを拾ってくださっている姿を見て、ゴミが落ちていたら、拾おうと思いました。

もう一人、秋になったら、ボランティアで落ち葉掃きをしてくださるおじさんがいらっしゃいます。学校へ行くときに会うときは、あいさつをしてくださったりと、とても親切なかたです。ぼくが大人になったら、ボランティアなどで自然を守りたいと思います。

ぼくは、福島市のみなさん全員で、このすばらしい市を守ってほしいと思い、自然を守り、美しい町を作りましょうという題名でこの作文を書きました。ポイ捨ては絶対にダメだと改めて思いました。みなさんいっしょに自然を守りましょう。

「まちをきれいにするために」

福島市立松陵中学校
服部　敬吏

空も水もきれいなみどりのまち。福島市はまさにそんなまちです。福島市がそうあり続けているのは、多くの人々の努力があってこそだと思います。

僕が卒業した小学校では、全校生徒で付近の川を清掃する活動が、伝統として毎年行われてきました。小さな一年生も、大きなトングを持って、真剣に清掃活動に取り組んでいました。全校生で清掃した中で、特に多かったごみが「タバコの吸い殻」です。川沿いを散歩する人が多いため、毎年「タバコの吸い殻」は多く捨てられています。他にも、空き缶やお菓子の袋、消火器やタイヤなどの大きなごみも捨てられていました。

このような「ぽい捨て」は決して良いことではありません。町全体の美化に取り組むため、中学年の児童一人一人、ポスターを作りました。そのポスターを多くの人に見てもらうため、小学校の行事の際に昇降口などに貼りました。小さな活動ですが、それにより、僕が一年生の頃はごみ袋満杯だったのに、六年生の頃にはごみ袋四分の一まで減少しました。先生や子どもたちも驚いていて、町全体の美化の大切さ、仲間と協力することの大切さを学びました。

このように、ごみが減少したのは、地域の皆様一人一人の「まちをきれいにしよう」という意識があったからだと思います。地域の皆様が築いたこの町を壊さないようにしていきたいと強く思いました。

そのために大切なことは、「まちをきれいにする」という意識を崩さないことです。一人二人ではなく、町のみんなが意識をしないと、きれいな町は維持できません。大人から子供まで、町全体が高い意識を持ち続けることが大切だと思います。

もう一つ大切なことは、「自ら清掃する」ことです。「学校や地域の行事だから仕方なくやる」のではなく、自ら進んでボランティアに励むという、意欲的な面も大事だと思います。進んで行うことで、取り組み方や達成感が違ってきます。そして、習慣として行うことで、「まちをきれいにする」という心も育っていくのではないかと思います。

僕はこれからも、地域の人たちと一緒に、まちをきれいにするための活動に、積極的に取り組んでいきたいと思います。

空も水もきれいなみどりのまち、福島市。この美しさをいつまでも守るために。

「つい最近まで私は……」

福島市立松陵中学校
阿　部　寧　々

みなさんはポイ捨てをしたことはありますか。私はつい最近までポイ捨てをしていました。でも、ある出来事一つで、私はポイ捨てに対しての反省をすることになったのです。

私の家の近くには公園があり、砂場や遊具、花壇にまで、私はポイ捨てをしていました。何度も「やめよう。」「これは悪いことだ。」と心に言い聞かせました。けれど私はやめることはできませんでした。なぜなら、私はとても面倒くさがり屋で、楽な方へと流される癖があったからです。「ごみを手に持ちたくないな。」「面倒くさいな。」と思って、楽な方イコールポイ捨てへとつながってしまっていました。

そんなある日のことです。私がまたごみを捨てようとすると、私の目に映ったのは、ポイ捨てをされたごみを拾っているお年寄りの姿でした。私の捨てたごみを拾い、そして私のことを見て優しくほほ笑んでくれたのです。私はこの時衝撃を受けました。本来ならば私のようなぴんぴんとした若者がやることを、お年寄りにやらせてしまっている申し訳なさと、捨ててあるごみをわざわざ拾ってほほ笑んでくれるお年寄りの優しさに、心打たれました。

私はこのことを境に、ポイ捨てを止め、自分の心を立て直す決心をしました。人には我慢せねばならない一瞬があります。私はその一瞬の我慢を無視して、小さな子供のように自分のわがままを押し通し、ポイ捨てという最悪な行動に移ってしまったことを、深く深く反省しました。

川にごみを捨てれば、水が汚れて魚がいなくなる。地にごみを捨てれば、花は枯れ動物に影響を与えてしまう。町の景観も損なわれてしまう。そんな小さな子供でもわかるようなことを、私はできませんでした。私はこのことを悔やみ、今では道に落ちているごみを見かけると、拾って捨てるということを心がけています。

空も水もきれいなみどりあふれる自然の町福島を守れるように、普段から家の周りや道路、川、そして公園などのごみを拾うことを、みなさんも心がけてみてはどうでしょうか。町がきれいだと空気がおいしく、みんなも気持ちがよいと思います。そんな毎日を送ってみたいとは思いませんか。

私たちのまちを守っていくのは、私たち一人一人です。

「住みよい福島市にするために」

福島市立松陵中学校
阿　部　友季菜

　みなさんは「福島市民憲章」を知っていますか。これは、福島市民一人一人が、快適で元気に住みよいまちづくりをするために、昭和四十八年に制定されました。この福島市民憲章の目的である「住みよく希望にみちたまち」にするためには、私たち福島市民はどのように心がけていかなければならないでしょうか。私はまず、ごみが落ちていない、きれいな環境にすることが大切だと思います。

　私はある日、母と福島駅へ出かけました。駅で買い物を済ませ、外へ出たその時、一人の人が空き缶をポイ捨てしたところを、目の前で見ました。私はとてもショックでした。駅はいろいろな人が使う公共の場なのに、ポイ捨てをする人がいると、駅を利用する人がすごく不快に感じます。そのような人がいれば、快適な住みよいまちをつくり上げることはできません。周りの人のことを考えて、きれいな住みよいまちづくりを進めていくことが大切だと思います。

　また、私は、ごみを分別し、しっかり袋の口を縛って捨てることも大切だと思います。

　私の通う中学校の前にごみ捨て場があります。ある朝、そこを見てみると、口が縛っていないまま置いてある袋がありました。しかも、その袋からお菓子の袋などのごみが散らばっていて、私はそこをよけて学校へ行きました。別の日に通った時も、カラスなどの動物に荒らされてひどい状態になっていることがありました。その時は学校の用務員さんが黙って片付けてくれました。こういったことは、他の人を不快にさせるし、迷惑がかかります。面倒だと思う人がいるかもしれませんが、このような小さいこともしっかりやることが、住みよいまちをつくり上げることにつながると思います。

　私たちが住んでいる福島市は、とても自然豊かなすばらしいまちです。だからこそ、その環境を壊すようなことはしてほしくないと思います。「一回だけだから。」「他の人もやっているから。」なんて思わないで、一人一人がしっかり心がけていくことが大切だと思います。自分たちが快適で住みよいまちにするには、自分たちが普段の生活の仕方を見直さなければならないのではないでしょうか。

　私もこれから、もっと自然や周りの人のことを考えていきたいと思います。そして、美しく住みよいまちにするために、進んで行動できる大人になりたいです。黙って散らかっているごみを片付けてくれた用務員さんのように。

「福島市の一歩」

福島市立松陵中学校
菅　原　惟　可

福島をもっと良くし、生まれ育った福島に誇りを持って「福島市民」と言うためにも、私ができることは何だろうか。

福島市は、信夫山などの山々に囲まれ、美しい花々が咲きほこる自然豊かなまちである。こうした自然の豊かさは、私たちの他に誇れる福島の良さである。

だが、ここで一つの問題がある。それは、「ごみの量が多い」ことだ。全国の平均と比べても多くなっている。ごみの量が多いと、燃やすときに出る二酸化炭素で空気が汚れてしまう。温暖化が一層進む。豊かな自然が壊れてしまうかもしれない。一人一人がこの問題を意識することが大切だ。

私が通っている中学校では、アルミ缶、牛乳パック、エコキャップ回収がある。それらはリサイクルされて車いすに変わり、地域の老人ホームに提供したり、学校で使うものに変わったりしている。ごみ問題の一つの解決法として、こういった取り組みも必要ではないかと考える。

一方、福島の良さとして、人と人とのつながりが挙げられる。福島市全体で協力して行われる「わらじ祭り」もその一つだ。私はわらじ祭りに参加したときがある。地域の方が丁寧に教えてくださり、当日は多くの方と一体となって踊ったことを覚えている。また、「福島市小学生鼓笛パレード」では、地域の方やボランティアの方々が多く参加していた。さらに、私の学校には「地域交流会」という行事もある。地域の方と一緒に活動したり、話し合ったりし、親睦を深めている。交通安全のボランティアの方や地域の方との触れ合いも多く、私たちはたくさんの地域の方に見守られ、支えられ、楽しく安全に生活することができている。

私が目指すのは、明るく希望にあふれた福島市にすることだ。そのために、自ら問題点を見直して改善していきたい。花も実・味・美・見もある福島市にすることができるように、自主的に行動していきたい。この四つの「み」は、くだもの、味わうこと、美しい景色、見ることだ。これらは市民憲章を考える上で大切だろう。

私は福島が大好きだ。多くの人に福島の良さを伝えていきたい。四つの「み」の魅力を広めていきたい。市民一人一人の取り組みでさらに住みやすく希望に満ちた「まち」を作ることができると私は思う。

今、私は踏み出す。明るく希望にあふれた福島市への一歩を。

「すてきな福島市に」

福島市立松陵中学校
菅　野　菜　美

私が通っていた小学校の通学路は、年に一度、マリーゴールドという花がたくさん咲いて、とてもきれいになります。その花は、先生方や地域の方々が一生懸命植えてくださった花でした。

私が小学校に入学して少し経った頃、通学路の脇にきれいなマリーゴールドが咲いていました。でも、当時は誰が植えたのかはわかりませんでした。

次の年も、またその次の年も、マリーゴールドがたくさん咲いていました。なぜ毎年マリーゴールドが咲いているかがわかったのは、四年生になったときです。

「今年のマリーゴールドもきれいだね。地域の方が植えてくれているんだよ。」という母の言葉からでした。私は驚きました。毎年、あんなにたくさんのマリーゴールドを地域の方が植えていたなんて、想像もできませんでした。そのことを聞いて、松川は、みんなを思いやることのできる人がたくさんいるすてきな所だと実感しました。

私が六年生の時、国語の授業で、地域の環境について調べる学習がありました。そこで私は、地域の方々が年に数回通学路のごみ拾いをしてくださっていることを知りました。松川町の通学路や道路がきれいなのは、地域の方々が草むしりやごみ拾いをしてくださっているからだと思いました。

それから私たちの学年では、毎週一回、朝通学するときに、みんなでごみ拾いをしました。少しの期間だったので、すごくきれいになったとはいえませんが、少しでも地域をきれいにできたと思ったら、とてもうれしくなりました。

このことから私は、思いやりや協力、親切にすることがとても大切だと考えました。これらのことを全てやって、完璧にするのはとても難しいことだと思います。でも、一人一人が少しでも心がけていけば、とてもすてきなまちになると思います。

私は、地域の方々の活動などから、たくさんのことを学びました。また、自分たちでごみ拾いをすることで、相手のために活動することの大切さもわかりました。これからは、友達と協力し合い、相手に対して思いやりと優しさを持って生活していきたいと思います。そして、自分の周りに目を向け、今よりももっとすてきな福島市になるよう、できるところから一歩一歩取り組んでいきたいと思います。

「『思いやり』のある町へ」

福島市立松陵中学校
齊　藤　由　真

「お母さんは、なんで今の仕事を続けているの。」

ずっと疑問に思っていたことが、ふいに口から出てしまった。

私の父と母はどちらも教師をしている。父は高校の体育の教師で母は中学の美術の教師である。だが母は、昨年まで養護学校に勤め、今は、特別支援学級で子どもたちの支援にあたっている。

私はそんな母に対して、不思議に思っていることが一つあった。それは、「なぜ自分から養護学校に勤めたいと思ったのか」ということである。養護学校の児童・生徒は、障がいを持っていて、人とのコミュニケーションがとりにくい子どもが多い、と聞いたことがある。教師という仕事が大変であるのに、なぜ自分でもっと大変である養護学校の教師という道を選んだのか、とても気になっていたのだ。

すると母は、一度笑ってから、

「人の役に立ちたいからだよ。」

と答えた。私はさらに疑問に思って言った。

「それでも大変なときや、思っていることが伝わらなかったりすることもあるんでしょ。」

なのになぜ……と言いかけた時、母が口を開いた。

「あのね。障がいを持っている人たちっていうのは、とっても純粋で、心のきれいな人ばっかりなの。そんな人たちに教えられるって、幸せなことだと思うよ。」

私ははっとした。今までそのような見方をしてこなかったということもあったが、一番は母がそのような思いで教師をしていたことにびっくりしたからだ。

母は続けるように、「もちろん大変な時の方が多いけどね。」と付け足した。そんな風に人のために尽くす、優しく思いやりのある母はすごいと改めて思った。

福島市を「親切で愛情あふれるまち」として発展させていくためには、やはりこの「思いやり」を重視していかなければならない。そしてそれは、どのことにも共通していると思う。

では、私たちがすべきことは何だろうか。それは、人とのコミュニケーションを盛んにすること、互いの「思いやり」「敬意」を忘れないことだと私は思う。子どもからお年寄りまで幅広い交流をし、人への優しさを忘れずに生活していけば、必ずより住みよいすばらしい福島市が作っていけると思う。

「安全なまちに」

福島市立松陵中学校
明　石　侑　子

「あっ、危ない。」

一瞬で頭が真っ白になり、心臓がドクッと大きな力で押し出され、体中の血液が逆流したように感じました。

私は自転車通学をしています。いつものように中学校に向かう途中でした。道路から出てくる車は注意しなくてはと思っていましたが、住宅から出てくる車までは予想していませんでした。素早くブレーキを握ったので、ぶつかりはしませんでしたが、一歩間違えていたら、ひかれていたか、自転車ごと車道に飛ばされていたかもしれません。運転手はとても驚いた表情をしていました。自分も恐怖を感じました。今でも忘れません。

今、日本のあちこちで高齢者の交通事故、あるいは登校途中の交通事故が起きています。幼い命が奪われた事故もあり、心が痛みました。福島市も例外ではありません。福島市の交通事故発生率は、この十年で減少傾向にはあるものの、全国平均に比べて高いと聞いています。

どうしたらもっと交通ルールを守って、安全歩行、安全運転で事故の少ないまちになるのでしょうか。

私は、交通事故は人の不注意で起こるものだと考えています。それはちょっとした気のゆるみで起きると思っています。周りをよく見ないで曲がる。信号が赤になるから急いで進む。そんなことから大事故につながっていると思います。だから、一人一人が車の乗り方や歩道の歩き方などを、改めて見直さなければならないと思うのです。

交通事故は、大抵の場合わざとではありません。頭ではわかっているはずです。そこが難しいところです。正しい交通ルールを身につけ、いつも意識し、実行するということが最優先だと思います。

春と秋に行われる全国交通安全運動の重点事項には、子どもと高齢者の安全な通行の確保が挙げられています。「子どもからおとしよりまで安全なまち」にしていかなければなりません。

私が小学生の頃は、地域のおじいさん、おばあさんが「見守り隊」として、下校時に一緒に歩いて、交通事故や不審者から守ってくださいました。でも、中学生には見守り隊はいません。自分で判断し、安全に登下校しなければなりません。反対に、おじいさん、おばあさんの安全を、私たちが見守っていく立場になります。

あの日のことは忘れません。自分の命は自分で守る。そして、地域の人はみんなで守る。交通安全に気をつけて、今日も登校していきます。

「地域と交流してつくる町」

福島市立松陵中学校
二階堂　和　希

福島市民憲章に「教育と文化を尊び希望に輝くまち」とあります。私の住んでいる松川町は、まさにそんなまちです。

松川町は、福島市の中でもとても自然が豊かで、そこに住んでいる人々もとても優しいです。私は、自転車で通学しているのですが、最初はなかなか慣れない道で不安になることもありました。また、まだあまり友達ができていないときは、緊張することもありましたが、道のいろいろな場所に地域の方々が立っていてあいさつをしてくださいました。あいさつをしてもらうと、不安な緊張はどんどん無くなっていき、自分も笑顔であいさつができるようになりました。そうしていただいているうちに、家族や友達にも自分から気持ちよくあいさつができるようになりました。

また、地域の方々は中学校や小学校で行う学校行事にもたくさん出席してくださっています。本校で行っている地域交流活動では、多くの地域の方々と触れ合い、直接話し合う中で、私たちの知らなかったことをたくさん教えていただきました。一年生の進路の学習では、地域の方々から働く上での厳しさややりがいなどを教えていただきました。地域の方々が、私たちのために町の環境を整えてくださっていることもよくわかりました。いつも優しく、積極的に行動してくださっています。地域の方々は、私たちが健やかに成長し、もっと良い町をつくっていく担い手となるために、とても大きな力になってくださっているのです。

私たちが毎日当たり前のように楽しい日々を送ることができているのは、父や母のおかげだけでなく、地域に住んでいる全ての人のおかげだと思います。いつも陰になり日向になり支えてくださっている方々に、感謝しなければなりません。

世代が違うし、どうせ話が合わないから面倒くさいといって会話をしない中学生もいるかもしれません。しかし、中学生は、地域の方々から今までの経験などを聞き、地域の方は今までになかった新しい意見を中学生から聞くなど、互いに意見を共有していけば、もっと誰もが住みやすい地域になると思います。さらには、小・中学生の学校での生活も、もっと過ごしやすくなることでしょう。

これからも、福島市がどんどん明るく住みやすくなるように、私は地域の方々との交流を深め、地域に貢献していきたいと思います。

「私の大好きな町」

福島市立信夫中学校
野　地　志　保

国語の授業である一枚の紙がくばられました。

一、空も水もきれいなみどりのまち
二、教育と文化を尊び希望に輝くまち
三、親切で愛情あふれるまち
四、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち
五、子どもからおとしよりまで安全で健康なまち

「福島市民憲章、初めて知ったな。」しかし、よく読むと身近に経験したことのある事柄が多くありました。

私が通っていた小学校は少人数の学校のため地域の人も参加する行事がたくさんありました。運動会や稲作体験、祖父母参観、学習発表会、地域の方のお話しを聞く総合学習の時間が何度もある学校です。きく農家の方やりんご農家の方、米農家の方など収穫のいそがしい時季にもかかわらず時間をとってくださいました。その他にも、育成会の行事に地域の方といっしょに登校する道の畑にお花を植える日があります。

地域の方々が毎年楽しみにしてくださっていた行事は祖父母参観で行う全校生レクリエーションの昔遊び体験です。小学生が普段、目にすることのないおもちゃを地域のお年寄りの方に教えていただきながら遊ぶ体験がありました。けん玉や折り紙、お手玉もあればたこ揚げ、ベーゴマ、竹馬もあります。やり方を教えていただきながら地域の方と交流できる行事です。私は毎年、百人一首のコーナーで地域の方と対決する事が楽しみでした。ベーゴマや竹馬では地域の方にすぐ負けてしまいます。

又、私の心に強く残っている行事は稲作体験です。米農家の方を学校にお招きして、校庭に田んぼを作り田植えから収穫、収穫したお米でおにぎりを作る体験でした。手作業で泥の中に植えるのは大変で、ころんでしまう人が多かったです。毎日、当番で水が一定になるようお世話をします。雨の日は水が増え過ぎないよう水を抜く作業があり細やかな気配りが必要で、虫の心配や天候の心配、米農家の方の苦労が少し分かった気がしました。収穫が終わると稲作の過程をまとめた発表会があり、全校生と指導してくださった農家の方におにぎりを食べてもらいました。体験を通して稲作の大変さと農家の方の協力のありがたさを感じました。

このように、地域の方と交流する行事があるため、顔見知りが多くあいさつが自然にできる雰囲気の良い地域です。学校生活や地域活動の中で意識せずとも市民憲章を守っていました。私は市民憲章を守る季節の花が咲き米と野菜と果物がおいしい、優しさあふれる福島が大好きです。

「親切・愛情・助け合い」

福島市立信夫中学校
山　田　敏　生

僕は、去年、ハッピー愛ランドという老人ホームで、福祉体験活動をさせてもらったことがあります。そのときに気づいたことは、年配の方々には、僕達、若者の助けが必要だということです。年配の方々は、決して、自分たちで何も出来ないということではないのですが、安全で健康的な生活を送るためには、僕たちの助けや親切な行動が必要だと思いました。ハッピー愛ランドで、僕は、ジェスチャーゲームやリコーダーやけんばんハーモニカを使った演奏をしたり、一人ひとりが折った折り紙を手渡したりしました。このときの自由に動けない体でも、全身で喜んでくれているおじいさんやおばあさんの笑顔は、忘れることができません。中には、泣いて喜んでいる方もいました。その時みなさんは、

「また来てね。楽しみにしているよ。」

「本当にありがとう。」

などと、口々に、感謝やお礼の言葉を話してくれました。僕は、おじいさんやおばあさんの愛情とやさしさを感じまた役に立ちたいと思いました。

しかし、僕達若者が一方的にお年寄りを助けているというわけではありません。例えば、僕たちが住んでいる信夫地区では、年配の方々が朝早くから小中学生の登下校を見守ってくれている「見守り隊」というものがあります。見守り隊の方々は、危険と思われる交差点や曲がり角、横断歩道に立ち僕たちの安全確認をしてくれます。そのおかげで僕たちは、安心して登校することができています。小学校の時いつも会う、見守り隊の方がいました。その方は、僕の話をいつも聞いてくれたし、おもしろい話をしてくれました。そして、ときには、交差点を急にとびだしたりしたときには、注意もしてくれました。

僕は、今までずっと信夫地区のみなさんに、助けられたり、愛情をもって親切にされたり、時には注意を受けたりし育ってきました。だからこそ助けられてばかりではなく、ハッピー愛ランドさんでみんなに喜んでいただいたときのように、僕が助けることで、地域での助け合いを行っていきたいです。そして、福島市民憲章にもある「親切で愛情あふれるまち」「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」を実現したいです。

そのためにもこれから福祉について多く学んでいきたいです。

「笑顔にする親切」

福島市立信夫中学校
阿　部　蒼空乃

笑顔は人を温かい気持ちにさせてくれます。笑顔は人を元気にさせてくれます。福島市民憲章にある「親切で愛情あふれるまち」になるには、みんながもっと笑顔になるためにはどうしたらいいのか考えてみました。

幼稚園に入る前、私は母と一緒に小さい子とそのお母さんが参加できるサークルに入っていました。そこにはボランティアで絵本の読み聞かせや昔遊びをして楽しませてくれる地域の方々がいました。近年、小さなころからゲームやスマホで遊ぶ子がたくさんいる中、そのサークルでは自然の中で知らなかった草花の事を教えてくれたり、わらべうた、手遊びなど機械に頼らずに楽しめるたくさんの事を教わりました。時には新聞を破いてまきちらす事でさえも遊びに変わりました。ボランティアにもかかわらず、そのサークルに来てくれていた方々はいつも明るくやさしく接してくれました。参加している子供達はみんな笑顔になり明るく楽しい時間を過ごしました。私はそんなみなさんの愛情にあふれた親切にふれて大きくなったんだなと感謝の気持ちを改めて思い知りました。そのボランティアの中心に立たれて活躍されていた方が高齢になった事もあり先日引退されました。私の母も初めての子育てで迷ったり悩んだりした時にたくさん相談にのってもらい助けてもらったそうです。長年に渡り子供達のため、そのお母さん達のために活動してくれて見守ってくれて愛情で包んでくれたみんなのお母さん的存在でした。その方こそ、小さな子からお年寄りまでいたわれる尊敬できる人だと思います。

ボランティアとは単に無報酬の奉仕活動という意味ではなく自己の自発的、主体的な意志によって様々な活動を理解し共感し技術知識を提供する事だと示されています。人は欲深いので、ボランティア活動を長年やり続ける事はなかなか難しい事だと思います。私は少しでも多くの方がボランティアに共感し、小さな親切心を持つ事により、福島市はもっと住みよいまちになると思います。そう思う私がまずは一歩ふみださなければいけません。今まで以上に地域のみなさんに笑顔で接し、困った人がいたら手を差しのべ役に立てるそんな存在になっていきたいです。大好きな福島市を未来ある私達が作り支えていくためにも私は誰かに尊敬されるそんな人間になりたいです。そして、このまちで生きる人たちといっしょにこれからの福島市を作っていきたいです。

「自然を大切に」

福島市立信夫中学校
鈴　木　優　菜

　今、私達の住んでいる福島市では、だんだん田んぼが減ってきています。田んぼは私達の主食とする大切な植物、稲を育てています。私の家の近くにも、昔はたくさんの田んぼがありました。しかし、田んぼを作っていた人が亡くなって土地が売られてしまい、そこにはアパートが建てられました。

　私の祖父も畑と田んぼをやっています。私も時々、お手伝いをするのですが、稲を育てたり、土地を耕したり、とても大変な仕事です。稲を育てるには一年中かかります。私が手伝ってみて、特に大変だったと思うのは田植えです。田植えの仕事は、稲を植えるだけではありません。機械で植えられなかったところを手作業で植えたり、稲がきれいに植えられるように土を平らにしたりとさまざまな仕事をします。田植えをするにはたくさんの人の協力が必要で、いつもご近所さんに手伝ってもらっています。この大人数でやっても大変な仕事を一人で全部こなすには、一日では終わりません。田んぼを作っている方はお年よりが多く、暑い日ざしの中、行っています。その姿を見て私は、もっと多くの人が田んぼに興味を持ち、手伝ってもらえるといいなと思いました。多くの人が手伝ってくださるとお年よりの方が苦労することも少なくなり、自然が豊かになっていくと思います。自分で育てたり、手伝ったりしたお米はとてもおいしく感じられます。

　田んぼだけでなく、畑も少なくなってきています。畑も、田んぼと同じように大変なことも多いですが、水をあげたり日光にあてたりして大切に育てると大きな作物ができます。田んぼや畑の作物は私達にとってとても大切な食べ物です。これがなくなってしまうと、私達は生きていくことができません。お年よりのかたが働いて、若い方が働かず食べているだけでは、豊かな自然は生まれないと思います。自分達のためにも、もっと植物や食べ物に関心を持って生きていってほしいと思います。

　私達が植物や食べ物に関心を持つことによって、今どんどん減っている田んぼや畑を、守ることができるかもしれません。私達が自然を大切にして、植物などを増やしていくとともに、米や野菜など私達が食べる食材を大切にしていってほしいと思います。そして、自然を豊かにしていくためには、地域の人の協力が必要です。たくさんの人が協力して、福島市をもっともっと自然豊かな場所にしていってほしいと思います。

「福島の自然とごみ問題」

福島市立信夫中学校
八　巻　航　大

福島市は、自然豊かで美しいところです。花見山など外国人観光客からも愛される観光地がたくさんあります。僕自身もこの福島市が大好きです。しかし、最近はその良さとはうらはらに、福島市のごみ問題は深刻化しています。このままごみが増加していくと、「空も水もきれいなみどりのまち」ではなくなってしまうのではないでしょうか。

福島市の平成二十七年度の一人当たりのごみの排出量は一三二九グラムで、人口が十万人以上の年で全国最多を記録したそうです。ぼくは、ごみが増えてしまう原因として、分別があまりできていないからだと考えました。みなさんは、「混ぜればごみ、分ければ資源」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。大切な資源である新聞紙も、ごみにしてしまうか、リサイクルに出すかでは、ごみの量に大きな違いがあると思います。家の近くのヨークベニマルには、最近リサイクルステーションができました。それは、リアイクルをするほどポイントがたまるというものです。僕の家でも、それを利用して楽しくリサイクルをしています。このリサイクルステーションのようなものが増えれば、それぞれが、楽しくごみを減らすことができると思います。

また、もう一つの原因は、食品ロスだと考えました。僕の母にも聞いてみたのですが、消費期限が切れてしまったり、まだ食べられるのに捨ててしまったりしてしまうことが多くあると言っていました。ぼくも、魚を食べているとき母に、

「もっときれいに食べて。まだ食べられるところがたくさんあるよ。」

とよく言われることがあります。食品ロスを防ぐには、必要な分だけ食べ物を買って、しっかり食べきることが大切だと思います。また、余って捨ててしまう部分をできる限り少なくするために、調理法などを工夫する必要があると思います。

このように、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくりあげていくのは、福島市民一人一人だと思います。そのため、それぞれが、ごみ問題について、真剣に考え、ごみを減らしていくことが必要だと思います。そして、福島の美しく豊かな自然を保護し、広げていきたいと思います。

「『福』が訪れるような街へ」

福島市立信夫中学校
斎　藤　彩　乃

私は福島市は緑が豊かで自然もたくさん残っていると思います。また、教育、文化に力を入れていて、住みごこちの良い街だと思います。

　私の地区では定期的に公園の草むしりなどを行っています。その公園の近くには老人ホームや子供達がたくさん住んでおり、よく使われる公園として親しまれています。また、木や花がいつもしげっていて虫もたくさんいます。住民の人達で協力して美しい環境を守っているのだなと感じました。

　夏にはお祭りも開かれ多くの人でにぎわいます。そこでは自由参加の盆踊りがあり、最後まであきずに楽しめます。お祭りを開催するまで、した時も多くの人の輪があり交流が深まることが私は素敵だなと感じました。

　春・秋は花や木、落ち葉がとても奇麗で屋台が出ていたり、ハイキングなどが開催されています。これによって市外・県外から来る人がたくさんいます。また果物・温泉などを目当てに来る人もいて、今年は五千万ほどの観光客が訪れています。市外・県外からもほこれる観光地、名物があることは福島の未来につながっていくと思いました。

　私は福島の良い所をもっと増やすために三つのことを考えました。

　一つ目は月に一、二回程度周りの住民達で、公共の施設を掃除、必要なら修理まですると良いと思います。あまり使われない場所では雑草が生えていたり、壊れたりして危険だからです。二つ目は道路整備をすることです。コンクリートがボロボロになっている所や信号が無いので危険な場所では、子供、お年寄りが事故にあったり、けがをしてしまうからです。私もそういう場所を自転車で通り、つまずいてあざをつけてしまいました。通学路でもある場所なので整備してほしいと思いました。三つ目は大きな駅の近くに気になるようなお店をつくることです。駅の近くにあれば見つけやすく、流行の物などを入れれば若い人達もたくさん来てもっと福島が人々でにぎわうと思ったからです。

　私はこれからの福島の未来を明るく笑顔で「福」が訪れるような街にしていきたいと思いました。

「地域の人の温かさ」

福島市立信夫中学校
内田　遥南

私の周りには、親切な人がたくさんいます。

例えば、登校・下校中に見守ってくださる緑のおじさん・おばさんや学校の先生方です。わざわざ私達のために朝早くから起きて、道路に立っていてくださいます。特に見通しの悪い交差点や横断歩道に立っていてくださるので、まだ小さい小学生の人達も安心して登校・下校することができていると思います。

しかし、せっかく朝早く起きて私達を見守ってくださる方に対して、態度がよくない人が多いと思います。例えば、地域の人や学校の先生方が元気よく

「おはよう。」

と言っても、友達と話していたせいであいさつを返さなかったり、はずかしがってあいさつを返さない人達です。これをなくすためには、ひとりひとりがあいさつを意識し、さらにあいさつがしやすい環境づくりが大切だと思います。そのためには、あいさつを呼びかけるポスターや標語を道路の近くの看板に設置し、いつも目に入るようにするとあいさつが意識できて良いと思います。

私の家の近所に住む人達は私にあいさつはもちろん、声もかけてくださるのでいつも心が温まります。例えば、私の家の隣のおじいさんとおばあさんはいつも私に笑顔で

「こんにちは。」

とあいさつをしてくれるし、私が家の前でテニスの練習をしている時は、

「上手になったね。」

と声をかけてくれ、畑で育った野菜を私に分けてくれます。まるで、本当のおじいちゃんとおばあちゃんのように接してくれるその姿に、いつも心温まり、感謝の気持ちがこみ上げてきます。

私も実際に、小学校の時の福祉体験活動で老人ホームに行った時に、人に親切にすることの大切さと人に喜ばれることのうれしさを知りました。私は、その老人ホームにいるお年寄りの方々と一緒にビンゴゲームや折り紙、カルタなどで遊びました。ゲームのやり方がよく分からないお年寄りの方にも丁寧に優しく接することができました。ゲームのやり方を分かってもらい、他のお年寄りの方々と楽しくゲームをやっている姿を見て、とてもうれしかったのを覚えています。

私はこれらの経験を通して、親切にされるうれしさと親切にする喜び、愛情を注がれる感謝と愛情を注ぐ時の温かい気持ちを感じることができました。私はこれからもその気持ちを忘れずに人と接していきたいと思っています。そして福島が笑顔あふれ、住んでいて楽しく、安心できる場所になっていくと良いと思っています。

「みんなで作ろう福島の未来」

福島市立信夫中学校
渡　辺　優　香

　私の家の近くには、川があります。その周りには、花や木も生えていて、鳥が集まってきたりもします。ですが、最近は、たくさんのゴミが川の中にあることが多いです。一番驚いたのは、消火器が川の中に落ちていた事です。私は、信じられませんでした。どうして川の中に落ちるのか、不思議でした。わざと川に捨てたのか、落ちてしまったのかは分かりませんが、どちらも結局は〝川を汚す〟ということになります。落ちてしまったゴミは絶対に拾わなければ、環境が悪くなってしまいます。

　また、ポイ捨てをする人が後を絶ちません。川にも道路にもゴミがあるのを時々見かけます。私は小学六年生の頃に福島市のこども議会に参加しました。そこでは、環境問題について話している人がたくさんいました。福島市は、来年、東京オリンピックの会場にもなります。外国からたくさんの人が来るので、より一層、日本の魅力が伝わるように心がけなければなりません。福島が綺麗だったら、来年も再来年も観光客が増えて、福島の発展につながると思いました。福島の発展につなげるには、一人一人の意識が必要です。ポイ捨てをしない、ゴミ拾いの活動に参加する、など一人一人の心がけが大切です。小さな事でも、「ちりも積もれば山となる」です。たった一つの心がけが福島の貢献の一歩になります。

　福島市の市民憲章には、〝空も水もきれいなみどりのまち〟という言葉がありま す。そんなきれいな福島を実現するためには、落ちているゴミを拾うという事が重要です。福島に住み、福島で育つ私たち自身の為にも、一人一人のゴミへの意識が必要です。例えば、リサイクルをした再生紙を使ったり、ペットボトルリサイクルをする、ゴミを増やさない、そういった所でも私たちができることは、まだまだあります。実際に、学校でのペットボトルキャップ集めや、牛乳パックを洗って、回収する事で、信夫中では既にゴミを増やさないためのリサイクルに協力する活動をしています。

　先程も言った通り、私たちにできる事は、もっともっとたくさんあります。その事に、どう関わっていくかがとても大切なポイントです。私たちがもっともっと幸せになるために、外国の人にも、「福島っていい所だね。」と思ってもらうためにも、美しい未来の福島を私たちの手でつくりあげていきましょう!!

「親切と愛情」

福島市立野田中学校
加納　芽依

私は「福島市民憲章」の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」ということについて考えました。

「一、子どもやおとしよりをいたわり、親切にしましょう」という市民憲章があります。私は、バスや電車で小さな子供連れの家族や、お年寄りの方に席をゆずったり、道に迷って困っていたら自分から進んで、親切心を示しましょう。ということなのかと考えました。私は実際にそのような体験をしたことはありませんが、もしもその場にいたとすれば困っている人を助けたいと思います。だからといって、小さな子供やお年寄りの方にばかり目を向けるのではなく、友達や大人の方にも親切心を示していきたいです。そして、福島市を表面だけでなくその中身も親切な福島市にしていきたいです。

「二、だれにでもできる親切を自分から進んで実行しましょう」という市民憲章についてです。このことについて、考えました。小さな子供でもできることだと考えました。例えば、落とし物を拾って届けたり、使っている物をおたがいにゆずり合ったりと、他にもたくさんあります。そのようなことを学校の友達や近所の友達などに自分から進んで行いましょう。ということだと思いました。「だれにでもできるやさしさ」となると、考えることが少し難しいと思います。ですが、ちょっとした親切でも人は幸せになれるのだから、それでいいと私は考えます。小さな子供からお年寄りまで少しの親切と大きな幸せを持って福島市で暮らしていけたらいいなと思いました。

「三、ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう」という市民憲章では、自分の表情と態度で優しさと明るさを示し、周りの人に笑顔で接しましょう。ということなのかと思いました。私は学校の登校中に、近所のおじいさんやおばあさんに、

「いってらっしゃい。」

とよく言われます。下校の時も、

「おかえりなさい。」

とも言われます。ですが私は小さな声でおじぎをしながら、

「おはようございます。」

や、

「こんにちは。」

などしか言えません。なのでこれからは、親しみをこめて、

「いってきます。」

「ただいま。」

などと明るく元気に言いたいです。このようにして、大好きな福島を明るくさせていきたいです。

今回は、五分の一ほどしか紹介できませんでしたが、一つ一つじっくり考えて、自分の行動に示していきたいです。そして、福島を親切と愛情でいっぱいにしていきたいです。

「福島の明るい未来のために」

福島市立野田中学校
江　尻　翔　瑛

僕がこれから生きていく上で、幸せな生活を送るために、次のような福島にしたいです。

まず、自然環境が整っていて、空気がとても澄んでいる町にしたいです。そのためには、ポイ捨てをしないことが一番基本だと思います。特にプラスチックごみは放置されると環境に悪く、海の生き物にも多大な影響を与えるので、ストローやペットボトルなど各々が責任を持って、分別して捨てる事が不可欠です。また、食べ物を残す事もいけないと思います。「食品ロス」という問題もある上、命を頂く側として無駄にしてしまう事は罪悪な行為だからです。

次に、誰に対しても親切な人があふれる町にしたいです。僕自身、大好きな友達にだけ優しくする事はせずに、関わり合う全ての人に平等にできる人間になりたいです。全員がそんな人になれば、とても平和な町になると思います。誰かにいじめられて自殺するというニュースを耳にすることがありますが、そのような事で命を亡くしてしまう人がいる世の中は嫌です。自分自身が幸せを感じると、周りの人にも優しさや喜びを与えたくなり、その与えられた人も、与えられた事で更に幸福感が増して、その周りの人に優しくする。そんな幸せの連鎖が人間には必要です。だから誰にもいじめをして欲しくない。人は誰でも幸せになりたいのに、絶望を胸に自殺を選択するしかなかった人がいるのは辛すぎます。だからこそ、相手を思いやる心の連鎖で全員が関わり合って欲しいです。

そして、しっかりと決まりを守って、みんなで楽しく過ごしたいです。学校であれば、廊下を走らない事や、時間を守ることなどを徹底してみんなに迷惑をかけずに生活したいです。その為には廊下は右側を歩き、休み時間は時計をこまめに見ながら楽しく安全に過ごす事を心がけます。

そして、福島市で生活する全ての人が安全に過ごせる町にしたいです。それには、まず自分の命をしっかり守らなければいけないと思います。車の中ではシートベルトをしたり、交差点では一度止まって左右を確認してから渡ったりする事などを習慣にしていけば、安全に生活できると思います。そのような基本的な事をあたり前に行う生活が他人の命を守る事にもつながっていくと思います。

最後に、勉強と運動を両立させて楽しい学校生活を送りながら、しっかりと委員会などの仕事もこなしていきたいです。その後、社会の中で少しでも役に立てるような人間になりたいです。自分に与えられた試練を一つずつ乗り越えていって、将来は子どもが憧れるような存在になれるように頑張ります。

これからも、福島市で楽しく安全に快適に生活できるように、しっかりと決まりを守って、環境も大切にしながら過ごしたいです。

「私が気づいた大切なこと」

福島市立野田中学校
玉　根　雛　菜

私は、この「福島市民憲章」の中の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」について、詳しく考えました。

まず一つ目です。私は、最近虐待のニュースを見ることも多いな、と感じています。みなさんは前、千葉県のニュースで、当時小学四年生の女の子が父親から虐待を受けて、お亡くなりになられたニュースをご存じでしょう。「虐待」というニュースが耳に入るようになってきたのは、そのニュースの後に増えてきたように思います。福島県では、そのようなニュースはあまりないとは思いますが、これから、このような出来事を増やさないためにも、この「愛情あふれる」という言葉があって良かったなと思いました。

次に二つ目です。みなさんが最近耳にしやすい「高齢者ドライバー」による事故です。これは、みんなで気をつけなければいけないことだと思います。六十五～七十歳の間に、免許返納をする、車は運転しないようにするなど「高齢者ドライバー」の事故を増やさないためにも、いろいろ対策ができると思います。そして、その対策を一緒に考えてあげたり、対策をやりやすくしてあげたりする環境を整えてあげたりすることも、「親切」だと思いました。この「親切」は、他の身近なことにも通用します。電車、バスなどの公共機関で、高齢者、障害者、にん婦さん、赤ちゃんを連れている方などに「親切」にしてあげるのは、だれでもできることです。自分で、実際に親切にしてもらう立場になった時のことを考え、これから行動をしたいです。なので「親切」という言葉もすごく大切な言葉だし、この言葉が入っていて良かったなと思いました。

他にも、「親切」は、困っている人がいた時、助けてあげたり、自分からボランティアを進んでやることも、「親切」なのかなと考えたり、「愛情あふれるまち」だと、大人から子供が毎日笑顔でいられるのも、「愛情あふれるまち」なのかなと考えたりしました。

やっぱり、この「福島市民憲章」があるからこそ、「親切で愛情あふれるまち」ができていると思うし、自分たちで、身近な人助けなど、やった方が良いかなと思うことは、みんなで実行していくと良いと思いました。

私は、この文章を書いて、考えて、私たちができることは、身近に、そして、たくさんあるのだなというように感じました。なので私は、福島市でも、県外に行ったりしても、「福島市民憲章」のことを思い出し、特に、この作文で考えた、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」を心にとどめて、生きていきたいな、というように感じました。なので、みなさんも、私たちのふるさとをよくしていくために、「福島市民憲章」を大切にして心にとどめ、生きていってほしいです。

「福島市民の笑顔に向かって」

福島市立野田中学校
森　口　実　歩

私は、このコンクールがあるまで「福島市民憲章」なんて知りませんでした。聞いたときはとても難しいことなのではないかと思っていましたが、いざ内容を見てみると今から自分たちでもできることがたくさんありました。その中で私が一番心がけなければいけないと思う憲章は三つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。通学路を歩いているとたばこの吸い殻やまるめられたティッシュなどが落ちていることがあります。また学校の教室でもマスクや紙などが落ちていて汚くなっているときがあります。ですが、そのゴミはよけるだけでだれも拾わないのでほこりがたまり、そうじのときにたくさん出てきています。このままだと、空気が汚れ、環境にも、人の体にも悪くなってしまいます。なのでこれからポイすてはしないのと、教室にゴミが落ちていたら自分の落としたゴミでなくても捨てるのを心がけたいです。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。特に「親切」です。最近はいじめが多発していて、不登校や自殺した人がいるというニュースが多く報道されています。いじめている人、いじめられている人をどう思っているのかなぁとよく考えてしまいます。ダメな所についてはっきり言うのとかげでコソコソ悪口を言うのは言うは言うでも全くちがうと思います。コソコソ言っているのもいじめの一つにつながります。それをまた見て見ぬふりする人もいじめになります。なので、注意する、言いたいことをはっきり言えるようにしたいです。

そして、バスや電車などに乗ったときには、お年よりの方や、にんぷさんなどに「どうぞ。」と声をかけて席をゆずるなど思いやりの心も忘れないようにしたいです。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。最近、お年よりドライバーの事故のニュースをよく聞きます。私の家の近くの道路でも子どもがまきこまれる事故が起こってしまいました。その人たちのためにも、大人になっても安全確認して通行したいです。そして、生きたいのにがんなどの病気で亡くなってしまった人のためにも手あらい、うがいなど健康対策をしたいです。

この憲章は福島市に住んでいる人のためにつくられたものです。この作文を書いた人たちから心がけて最後は福島市民全員に広まりみんなが幸せで笑顔になってほしいです。

「福島市のいいところ」

福島市立吾妻中学校　加藤　陽菜

わたしが住んでいる福島市は、緑豊かで水もきれいで、愛情があふれています。

果物や、野菜もたくさん作られていて、果物の中でも、桃、梨、林檎、葡萄、さくらんぼが有名です。

家では、おじいちゃんとおばあちゃんが梨を作っています。とてもみずみずしくておいしいです。

消毒、草刈、剪定、棚ゆい、花とり、花粉交配、摘果、玉すぐりは二〜三回など、手間暇かけて作られていて、家で作った梨は、他で作られた梨よりも、とても甘くて、おいしいです。

そして、動物が出てきてしまうので、電柵や電ぼくがあります。

動物がいるということは、山に緑があるということだと思いました。

福島の水は、とてもきれいです。

水道水は、モンドセレクションで三年連続で『最高金賞』を受賞しています。

それに、ｉＴＱｉで水道水として初となる『優秀味覚賞』を受賞しているほど、おいしい水です。

ｉＴＱｉは、ベルギーを本部に置く、世界中の飲料品の『味』を審査し、優れた製品を表彰する機関。

その、世界中の飲料品で賞をとることはすばらしいことだと思います。

そして、福島は、愛情があふれていると思います。

なぜかというと、見守り隊が、朝早くから道路に立って見守ってくれていました。

そして、春から冬まで、天気関係なくいてくれました。休んだりすると、

「元気だった。」

など聞いてくれます。

よく一人一人の顔を覚えててくれて、いつもより、元気がないときも、明るく

「おはよう。さようなら。」

とあいさつをしてくれるので、元気がなくても、元気になったりします。

なので、小学生のときにみんな事故にあうこともなく、とう校することができたのだと今、振り返れば思いました。

そして、とてもありがたいことだと感じました。

福島には、いいところがたくさんあって、地域の人たちが優しく、緑がとても豊かなことです。

そして、水道水がとてもきれいなことで、福島のいいところを、大人になってからもあるような町になってほしいし、福島のいいところをもっと増やしたいと思いました。

なので、自分ができることは、環境が悪くならないように、ゴミは、ゴミ箱に分別して捨てることなど、自分でできることは、したいです。

「きれいな町づくり」

福島市立吾妻中学校
伊藤　美輝

　私は、福島市民憲章を全然知らなくて今回のコンクールで初めて知りました。私以外にも市民憲章を知らない人がいると思います。実際、私の家族は誰一人知りませんでした。みんなが知っていれば、福島市はもっと良くなっていくのではないかと思います。

　私が一番印象に残ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という言葉です。私の家の近くに花だんがきれいな交差点があります。そこは私の通学路で、道路をはさんできれいな花が咲いています。春に母もその花だんを見て

「チューリップきれいだね。いろんな色あってすごいね。」

と言っていたのを覚えています。花だんは、その後ろの家の人のもので、そこの人が手入れをしてきれいに咲かせているのだと私は勝手に思っていました。母と出かけたある日、十人近くのおじさんおばさんが、花だんで作業をしているのが車の中から見えました。かれてしまったチューリップがすっかりなくなって違うものを植えているところでした。地域の人達が協力してきれいな花だんをつくっていると、その時知りました。このような人達の「花いっぱい運動」のおかげで、その道を通る人の心があたたかくなっているのだと思っています。とても素敵ですばらしいことです。今は、マリーゴールドとサルビアがきれいに咲いています。

　今の私には「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるために、何ができるのでしょうか。空気や川を汚さないようにすることは、小学校の総合の授業で学びました。私たちの家庭で省エネをすることが、大気汚染物質を減らすことができ、結果的に地球温暖化を防ぐことにもなること。しかし、夏の省エネは、とても難しいと思います。毎日三十五度を超えるようなとても暑い日は、エアコンの設定温度を二十五度以上にするのはなかなか厳しいものがあります。水もバンバン使うので冷蔵庫もフルで働いています。省エネにはほど遠い結果になると思います。しかし川を汚さないようにすることは夏でもできそうです。まず一つ目は、フライパンや食品の汚れはペーパーなどでふいてから洗います。それによって洗剤を使いすぎないことです。二つ目は水切りネットなどを使って食べ残しや調理くずを排水溝に流さないことです。私にできることは今のところこのくらいです。

　自分は今まで知らなかった福島市民憲章ですが「初心者」としてできることを続けていきたいと思います。一人一人ができることを始めること、一人一人が福島を良くしようと思うこと、それがとても大切なのです。一人の力はとても小さなものですが、その数がどんどん増えていけば大きなものとなって福島市のためにきっと役立つと思います。そして私たちの心がけしだいできれいな町づくりはできるのだと思います。

「市民憲章と今の福島市」

福島市立吾妻中学校　紺野　功晴

ぼくは、市民憲章と今の福島市を比べてみて、思ったことが三つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまち」が作れていないことです。特に、二つ目の「家のまわりや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にしましょう」というところです。ぼくは前、阿武隈川に架かっている橋の下に大量のごみが捨ててあるのを見つけました。さらに、街中を歩いていたら、植え込みにタバコの吸い殻やペットボトルが捨てられているのを見つけました。今は、駅のところにごみ箱があったり、喫煙所が設置してあったり、自販機のとなりにペットボトルを捨てる所があったりと、ポイ捨てを無くそうと活動している所が多いので、ごみを捨てるときはちゃんと、ごみ箱に捨てて、ごみの落ちていない福島市を作ってほしいと思います。

二つ目は良いことです。それは「親切で愛情あふれるまち」を作ろうとしている人が多いことです。ぼくが前、福島駅東口を歩いていたときのことです。自販機の近くでスマートフォンを見たり、周りを見たり、迷っている人がいました。するとそこに若い女性が近寄っていき、スマートフォンを操作したり、バス停を指差したりしていました。ぼくはその若い女性が道を教えているのだと分かりました。おかげで迷っていた人は、ニコニコしながらお礼を言い、バス停へと向かって行きました。その人は無事、バスに乗ることができました。そしてぼくは、その親切な若い女性は、「親切で愛情あふれるまち」作りに努めていると思いました。まだ、そのように他人に親切にできる人は少ないのかもしれませんが、親切にできる人が増えていけば福島市の評判は良くなり、良い街に近づいていくと思います。

三つ目は、隣近所なかよく、たがいに助けあえていることです。ぼくの家の隣に住んでいるＡさんは、ぼくを見かけると必ずあいさつをしてくれます。さらに、どこかに旅行に行くとお土産を買ってきてくれることもあります。なのでぼく達も旅行に行くとお土産を買って帰ることもあります。あとは、冬になると吾妻地区はたくさん雪が降ります。その時に一緒に、家の前の道を車が通れるように雪かきをします。Ａさん以外の近所の人とも仲良くできています。

このように、今の福島市は福島市民憲章に書いてあることを守れていたり、守れていなかったりしています。もしも、福島市民が福島市民憲章のことを心がけながら生活すれば、きっと市民は住みやすく、観光客は観光しやすくまた来たいと思える市になると思います。そのためには、日頃からごみはごみ箱へ捨てるや、タバコは喫煙所で吸うなど、小さなことからでも心がければいい市になると思います。

「よりよいまちを作るために」

福島市立吾妻中学校
佐々木　颯大

僕が、市民憲章を読んで、良いと思った所は七つある。

一つ目は、家のまわりや道路、公園、河川などをごみのない環境にしようと呼びかけている所。前に、友達と学校から自転車で帰ろうとした時、道路にペットボトルが転がっていた。最近、ごみをごみ箱に捨てずに誰かがいずれ捨ててくれるだろうと面倒くさがり、ポイ捨てする人が増えている。この呼びかけで少しでもポイ捨てが減ってくれるとうれしい。

二つ目は、交通ルールを守り、安全歩行、安全運転をしようと呼びかけている所。たまに、信号無視をする人がいるので、事故につながる前にやめてほしい。僕も、たまに道路の左側ではないところを通行してしまう時があるので、気をつけるようにしたい。

三つ目は、だれにでもできる親切を自分から進んで実行しようと呼びかけている所。小学生の頃に家族で出かけた時、並んで待っていた人が物を落として、その人は落としたことに気づいていなかった。その時、誰よりも先に教えたのはお父さんだった。この呼びかけで少しでも多くお父さんのような親切な人が増えてほしいし、自分もお父さんのようにまわりに親切にできるようにしたい。

四つ目は、文化財に理解をもち、大切にしようと呼びかけている所。いままで、あまり文化財について理解しようとしなかったので、興味を持ち、大切にするようにしたい。

五つ目は、広く自然を愛し、たいせつにしようと呼びかけている所。自然は、人間だけでなく他の動物も必要不可欠なので、自然が枯れたりしないように、大切にしたい。そして、この呼びかけで、市民全員が自然を大切にしようとする気持ちを持つようにしてほしい。

六つ目は、乗り物や公共施設などの、利用のルールを守り、人に迷惑をかけないようにしようと呼びかけている所。小学生の頃、友達と図書館へ行ったとき、少し大きな声で話していて、周りに少し迷惑がかかっていたので、この呼びかけを見て、直すようにしてほしいと思う。

七つ目は、人には明るく、やさしい態度で接しましょうと呼びかけている所。あいさつなどでも、明るく言うと、相手も良い気分になるので明るく接することを心がけたい。

この市民憲章を読んで、みんなが理解し、少しでも福島をよりよい町にしようとする考えを持って生活すれば、とても良い町になると思うので、考えを持つようにしてほしい。そして、僕も、日常生活の中で、市民憲章を頭の中に入れて、周りに気配りをしながら、自然も大切にして元気に生活をするように心がけて、日常を過ごし、よりよい福島を作るようにしたい。

「だれにでも親切で愛情あふれるまち」

福島市立吾妻中学校
三　浦　心　菜

　私が住んでいる福島市は、事故などはあるかもしれないけど、みんなとても心温かくだれにでも優しく愛情があると思う。

　私が小学六年生の時、バスでこむこむ館見学に行ったのを覚えている。バスに乗る前、先生に、

「席はお年寄りが優先なので、もし入って来たらゆずってあげましょう。」

と言った。私にとっては当たり前だと思っていた。そして、バスに乗った時、突然お年寄りのおばあさんがバス停で入って来た。私は、もちろん席をゆずってあげようと思った。でも、いざとなると言葉が出なくなり、自信がなくなった。ゆずってあげたいけど、悩んでしまう。それで、何か言われたらどうしよう、と考えてしまった。その時には、もうそのおばあさんは、手すりにつかまって出発してしまった。次のバス停の時だった。同級生の友達が、何も緊張している感じもなく、優しく声をかけ、席をゆずってあげたのだ。おばあさんは、とても喜んで、

「いいの？ありがとうね。」

と言っていた。それに応える優しい友達の笑顔に、私はすごいと思ったし、うらやましいとも思ってしまった。私の友達には、優しく愛情がある人がたくさんいると思った。

　また、家族で服を買いにお買い物に行った時だ。私達は、服を買い終えて帰る時だった。その時、二歳くらいの男の子が一人でエスカレーターを無意識に降りようとしていた。危ないと思った瞬間、お母さんが、その子をすばやく引き止めたのだ。そしたら、奥からその子のお父さんが走ってきて、お母さんに、

「本当にありがとうございました。」

と言って、その子をだきしめて行った。私は、お母さんのその勇気と助けた優しい心にすごいなと感心しました。知らない人でも、積極的に人を助けるという事は、すごい事で大切な事なんだと思った。そんなお母さんを尊敬した。

　ニュースでも、踏切にお年寄りが入り込んでしまって、轢かれそうになったというニュースがあった。もうすでに、遮断機は下りていた。だが、おじいさんが走ってきて、おばあさんを持ち上げて、助けたというニュースに私は、驚きと感激しかなかった。

　この世の中、まちには、優しい心を持つ人が多い事が分かる。

　このような事から、私はもっと積極的に他人、お年寄り、子供に役立てるような事をしたいと思った。このまちには、優しく愛情がある人がたくさんいると思う。だから私も今までより勇気や自信を持ち、地域の方々にあの子は、だれにでも優しくてすごいなと言ってもらえるように、他人、家族を気づかってあげたいと思った。人々の安全のためにも、私達ができる事をしようと改めて思った。

「美しい環境で事故のない
健康なまち」

福島市立吾妻中学校
吉　田　大　翔

美しい環境で事故のない健康なまちにするためにはどのようなことをすればいいのか。

最初に私たちが住んでいるまちをごみのないきれいな環境にするためにはごみを公園などに捨てていかないことだ。公園を通ると食べ物の包装やカン、ペットボトルが普通に落ちているときがある。これから言えるのは公園で遊ぶ人が食べ物などを持ち込み、食べたり飲んだりして出たごみをそのまま公園に捨てるということだ。出たごみが公園にあると周りの人に迷惑になるのでごみは責任を持ってごみ箱に捨てたほうがいいと思う。

次に子どもやお年寄りに親切にすることだ。子どもが少なくなり、高齢化が進んでいるせいか、よくお年寄りを見かけるがそのときに自分は元気にあいさつをする。そうすれば元気にあいさつを返してくれるのですっきりとした気分になるし、誰にでもできる親切なので進んでやったほうがいいと思う。

また、乗り物などの利用のルールを守ることだ。自転車のルールを守らないで、事故を起こしたり、周りの人に迷惑をかけたりすることをやりそうになっている人がいたりするので周りの人のことを考えたらいいと思う。自分もそうならないように自転車のルールを確認して守りたいと思う。

それから、最近のニュースで取り上げられた高齢者が運転する車が事故を起こすことだ。このことについて多くの問題をかかえている。まず、高齢者が運転する車にひかれ、まだ幼い子どもから大人まで命を奪われてしまった事故がある。しかも運転する高齢者の年齢が八十代で車を運転していた。事故を起こした理由がアクセルとブレーキをふみ間違えてしまったというのが理由だった。また、ひかれて亡くなった人の親族は悲しそうに涙を流していた。こういうことで人の命を奪うというのは悲さんなことなのでこの事故を無くすには高齢者が車での運転をやめるということだ。そのように工夫すれば悲さんな事故も二度と起きないと思う。また、高齢者がどうしても運転したいのなら、自動で運転する車に乗って運転したらいいと思う。

しかし、逆に子どもやお年寄りがひかれる事故も多い。例えば、子どもなら十字路で急に飛び出してきてひかれたりすることもある。これもまた危ないので大人の人が必ず付きそってあげることも大切だと思う。そうすれば大人の人が教えてくれると思うからいいと思う。

最後に、日常生活にスポーツやレクリエーション活動を取り入れて体を動かし、健康にすることだ。体を動かさないと健康にならないので毎日体を動かして健康でいることは大切だと思う。

美しい環境で事故のない健康なまちだとしたら快適で住みよいまちづくりになると思う。

「福島の環境をより良くするために」

福島市立吾妻中学校　尾形知哉

僕の家の近くには、鍛治屋川という川があります。鍛治屋川は、きれいな川で魚もいます。ですが、時々発泡スチロールや段ボールなどのゴミが川辺に落ちています。その近くの道路にも、ビニール袋などのゴミが落ちていることがあります。

僕は、去年海に遊びに行ったのですが、ゴミがたくさん浮いていました。アザラシの口にプラスチックがはまって口が開かなくなっている写真を見たことがあります。川の水は海へと流れ出るため、川のゴミも海へ流れ出ています。なので、まずは川でのポイ捨てを減らさなければなりません。

しかし、世界一清潔な国と言われるシンガポールでは、ポイ捨てをすると日本円で約七万六千円の罰金を取られてしまいます。日本でもそのような決まりができると環境を守れると思います。他にもイギリスではタバコの吸い殻で投票ができるごみ箱があります。そのような工夫をしているのは外国だけではありません。日本でも、漬物屋さんで串でアンケートを取れる箱を設置したりゴミを捨てたくなる工夫をしている所がいくつかあります。そういう所がもっと増えれば楽しいし、ポイ捨てもかなり減ると思います。ごみ拾いなどの地域でやっている取り組みにも参加すれば、地域の人とも交流できるし、住んでいる地域もきれいにでき、一石二鳥だと思います。さらに、自分の家でも、ゴミの分別や物の節約をすれば、もっと効果的だと思います。僕の家では、ゴミの分別をしているので続けていきたいです。

川での環境問題は、ポイ捨てだけではありません。それは、川の汚れです。大さじ一杯の油汚れを洗い流すには浴槽十六杯以上の水が必要だとテレビでやっていました。汚れた水は、川から海に流れていくので、汚れた水も海へ流れてしまいます。だから、福島をきれいにすれば、その川が流れていく先の川や海はきれいになるということなので、一人一人が意識して生活していけば、自然が汚されずに、いつまでもきれいな自然を保てるようになると思います。

僕達福島市民にとって、福島市民憲章は目標であるので、福島市民みんなが意識して生活していけば福島の環境をより良いものにできると思います。

そして、罰金やゴミを捨てたくなる工夫がなくてもポイ捨てをせず、ゴミをきちんと捨て環境を守っていけるようになると一番良いと思うので、一人一人が心がけて生活してほしいです。

「思いやり」

福島市立吾妻中学校
小　川　舞　瞳

　私が六年間いた庭坂小学校では、「見守り隊」と言うおじさん達が交通安全のために毎朝通学時間にいます。「おはようございます」と言うと「おはよう」と言ってくれます。また、雨の日も雪の日も毎日休まずに見守ってくださっています。
　冬では、寒いのに一時間以上外にいてくれます。また、私達のために歩きやすいように雪かきまでしてくれました。
　中学生になってもあいさつをしてくれ、とてもうれしいです。
　私は家から中学校まで遠いので、自転車通学です。
　私がまだ、中学生になったばかりのころ、自転車が大きく、まだ、慣れていませんでした。
　ある日、私が友達を待っているとき。バランスが崩れてしまい、自転車が倒れてしまいました。
　そして、自転車をもどそうと思ったら自転車に引っかかり転んでしまいました。
　そしたら、なしの消毒する車に乗った人が「大丈夫?」と言われて、すごくうれしかったし、優しいなと思いました。私も、このおじさんのように、何か困っていた人がいたら助けられるような人になりたいなと思いました。
　先日、私がミニストップに行き友達とアイスを食べていたら、となりにおばあさん達が来ました。
　そして、一人のおばあさんがしゃべりかけてきました。「おばあさん達も英語しゃべれるんだ」と言って、「ＯＫ」など色々英語をしゃべってきました。おもしろくてみんなお腹がいたくなるほど笑いました。お年よりの方と仲良くなれたので良かったです。次は、お年よりの方に自分からしゃべりかけていきたいなと思いました。
　私の祖母は、今年の五月に九十五歳で亡くなりました。
　祖母はいつもおふろからあがると背中に、「シップはって」と私に言ってきます。めんどくさくて、いやな顔をしてはってあげていました。でも、祖母が亡くなって今、思うと私は祖母に「優しくしてあげていたかな」と思うようになりました。もう少し祖母に優しくしてあげれば良かったなと思いました。
　福島市は、緑豊かで果物がたくさんある所です。木々や草、花などたくさんの植物が咲いており、緑もたくさんあります。
　この作文を書くまでは、福島市民憲章のことが分かりませんでした。
　福島市民憲章は、福島市をもっと美しく、住みやすい町にするために作られた憲章なのかなと思いました。
　そして、この憲章を読んで一人一人が住みやすい町になると良いのかなと思いました。

「協力し安全なまちをつくりましょう」

福島市立吾妻中学校
佐々木　葵

私が住んでいる福島には、優しい人々がいっぱいいます。この福島は人々がみんな笑顔で優しい人々がたくさんいます。私が小学生だった時、朝登校をしていたら人がいました。その人とすれちがった時、その人はあいさつをしてくれました。私は、その時「福島の人々はあいさつ声も大きくてすばらしいな。」と思いました。私が十二年間、福島にすんでいてこの十二年間で庭坂のいろんな事を知ることが出来ました。

まず一つ目は、自然豊かなことです。福島は緑が多くてとても景色も良く眺めも良いということを知りました。空気も良く住み心地も良いということも知れました。

そして二つ目は、人々がみんな優しいということです。お年寄りの方とのコミュニケーションなどもふえていってほしいです。

次に三つ目は、福島の人々が協力しあっているということです。人々がみんなですばらしい町作りをしていることが協力しあっていて、すごいと思いました。ニュースなどでも福島の人々が協力しているニュースなどを見ると福島の良さが分かります。福島の人々は協力していて本当にすばらしいと思います。八年前にあった大震災。大震災の時は、何人もの人々が苦しんでいましたが、八年たった福島は人々が笑顔になり町全体が一つになりました。このように人々が笑顔になれたのも協力しあえたからだと思います。このように町全体が一つになるようこれからも人々で協力しあって、とてもすばらしい福島にしていきましょう。福島は、自然豊かで果物もとてもおいしいです。福島は緑が多く、空気もとてもきれいです。果物では、桃なども有名です。果物は、体にも良いし小さい子も食べれるので良いです。福島は、山などの眺めもすごいきれいです。このように福島は、自然豊かだし果物もおいしいのでもっと福島の魅力をいろんな人々に知ってもらえられるようにしましょう。

四つ目は、きまりを守り楽しく働こうということです。ニュースでも犯罪などのニュースを見ることがありますがそのような事件がなくなるように平和で楽しい世の中にしたいです。毎日人々が楽しく生活できるように力をあわせてより良い町にしましょう。私は福島を今よりもより良い町にするためには、四つ直すことがありました。今の福島の人々は力をあわせ、協力し、みんな親切です。もっと福島を良くするためには、きれいな緑の町をつくり、力をあわせ、子どもからお年寄りまで安全な町をつくりましょう。

「人と自然が関わるきれいな町」

福島市立吾妻中学校
小　関　遙　音

ぼくは福島市は人と自然が関わりあうきれいな町であってほしいと思います。

福島市の人はみんな温かくていい市だと思いますが、人だけの力では平和にはならないと思います。福島には数々の自然の恵みがあります。信夫山に吾妻山、阿武隈川に荒川、桃などの果物や野菜などと、福島市にはたくさんの自然の恵みがあります。福島市は数々の自然のおかげで笑顔になれるとぼくは考えます。

だからといって自然がすべてでもありません。もし人がいなかったら福島市のきれいな自然の風景は汚れてもだれもきれいにせず、きれいな風景は見れなくなってしまいます。

おいしい果物や野菜もとれなくなってしまいます。

人と自然が助けあうことによって平和なくらしが訪れるのだと思います。

このことは福島市に限られず福島県に、日本、世界でもいっしょです。人と自然が助けあってこそ人々は平和に楽しく過ごせることができます。

世界にもきれいな自然の景色はたくさんあります。福島市の自然は世界で考えると数億分の一かもしれませんがその一つが自然と助けあうことで人のなにかになるかもしれません。

それに福島市にしかない良さもたくさんあります。福島はフルーツ王国です。福島市にあるフルーツラインは、なしにぶどう、桃にさくらんぼ、りんごなど数多くの人々に親しまれている果物がたくさん、栽培されています。

そのおかげで全国、世界にと、福島市のフルーツが食べられ幸せになる人がたくさんいるかもしれません。

祭りでも、信夫山で祭りをするなど自然のおかげで世界のどこかでだれかを幸せにしているかもしれません。

福島市は世界とくらべるとちっぽけな市かもしれませんが、その福島市の中にはこれから人を助けたり人を幸せにしたりとだれかのためになることをする人がいるかもしれません。福島市の中は可能性のかたまりだと思います。

なのでぼくは福島市には積極的にいろんな文化と交流してもらい少しでも福島市のレベルを上げてほしいです。

二〇二〇年には福島市でオリンピック競技である野球とソフトボールが行われます。これから外国人もたくさんくるかもしれませんが福島市を少しでも知ってもらいいい所だと思って行って欲しいと思います。

人と人の関係は大事ですがそれには自然が関係しているということを知ってもらい、全国、世界と少しずつでも知名度を上げ、世界から称賛される福島市であってほしいです。

「親切で愛情あふれる町にするには」

福島市立飯野中学校
高　野　愛　琶

ＵＦＯの里や千がん森があって、中学校の先輩や同級生や先生方は、優しくて、明るい人が多くて私は、飯野中学校や飯野町がいい所だと思います。

私は、授業を通して、福島市に市民憲章があるという事を初めて知りました。

私が考えたいと思っている条文は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というものです。

理由は、私は知っている人だと、困っていたら助けてあげられるのに、知らない人や、あまり話した事がない人には、助けてあげる事ができないからです。

最近、テレビでは虐たいで死んでしまう人や、いじめられて死んでしまう人などがたくさんいるというニュースが多いです。

虐たいは、家の中だけだと思っていたけれど、テレビでは、幼稚園や保育園などでも、起こっているのを知って、びっくりしました。

私は、このニュースを聞いて、いじめられて自殺してしまう人や、虐たいで死んでしまう人が、かわいそうだと思いました。そして私たちの身近で起こらないといいなと思いました。

私が、福島のためにできそうな事は、そういう人を、一人でも少なくするために、いじめられている人や、不登校の人、困っている人に、親切に、明るく、笑顔で接することを心がける事だと思いました。私は、困っている人がいても、見て見ぬふりをしないで、積極的に助けてあげたいです。そして、いつも困っていない人でも、親切にしてあげたいです。

私は、総合的な学習の時間に、福祉について学習しました。

その時に、耳の聞こえない人には、手話で話してあげたり、高齢者の方の手伝いをしたり、足などが不自由な人には、車イスを押してあげたりしました。その経験から、どんな人にも、思いやりを持って、接したいと思いました。障がい者の方だけでなく、困っている人や、やり方が分からなそうな人がいたら、思いやりを持って接してあげたいとも思いました。親切で愛情あふれる町にするためには、人を傷つけないようにするのと、親切で思いやりを持って接することが大切なのだと思います。そうすれば、自殺や死んでしまう人を減らせると思います。私も、人には親切で、思いやりを持って接すること、そして困っている人がいたら、積極的に助けてあげることで、市民憲章をしっかりと守っていきたいです。

「大切な自然を残すために」

福島市立飯野中学校
金　谷　真　緒

豊かな自然にあふれた町。私が福島市はどんな町か聞かれたら、このように答えます。なぜなら福島市には、花見山があります。春には様々な花が咲きほこり、たくさんの観光客でにぎわいます。私も花見山に初めて登ったときには、色とりどりの花に魅了され、こんなにいい所があるんだなと驚きました。

私はこの作文を書くにあたり、市民憲章がどんなものか初めて知りました。市内で見かけたり、名前を聞いたことはあったけれど、どんな内容かは、知りませんでした。例えば、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年の四月という思っていたよりもかなり昔に制定されていたことにとても驚きました。五つある条文の中で私が最もいいなと思ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という条文です。いいなと思った理由は、四季折々の豊かな自然のある福島市にぴったりだと思ったからです。また、福島市には、阿武隈川や荒川などの川もあり、水も豊富にあります。きれいな川は、福島市の自慢でもあると思います。

ですが、一見きれいに見える川や山、公共の施設でも、ゴミのポイ捨てなどをよく見かけます。前に夏祭りに行ったときに、道路にお菓子の袋、空き缶、たばこの吸いがらが落ちていて、とても悲しい気持ちになりました。それに、最近、大雨の被害にあい、電気や水がなくて困っている人がたくさんいるというニュースを聞いて、ゴミで川が汚れたり、電気のむだ使いをしたりするといざというときに困ってしまいます。それに豊かな自然を維持していくことが難しくなってしまいます。なので条文のようにみどりのまち、きれいな自然にあふれた町にするためには川をきれいにし、草木を管理していくことが必要だと思います。

そこで、私はこれから、ゴミのポイ捨ての禁止の呼びかけや、している人がいたら、決まった場所に捨てたり、持ち帰るように注意をしたいです。他にも川を汚さないために、洗剤を使いすぎない、節水、節電を心がけていきたいと思います。最後に、現在の様子を多くの人に知ってもらい、活動の大切さをみんなに広めたいです。そして、素晴らしい自然を未来へ残していくためにできることを探して、行動していけるようにしたいです。

「福島の自然を守っていくために」

福島市立飯野中学校　高　荒　大　和

一面に広がる田園風景や美しい紅葉。福島のいいところだと思います。水質がよいことで知られるすり上川ダムがあるのも美しい自然があるからこそです。他にも美味しい果物や野菜があり、そうしたところが福島のいいところだと思います。

僕は授業で市民憲章を知って、福島のいいところである自然豊かなところを肯定していた。「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」が僕が一番大切にしたい市民憲章です。この市民憲章をいいと思った理由は自分のまわりにある自然を大切にしたいと思っているからです。森は木を生み出し、空気や水をきれいにします。人の生活の中で必要不可欠な水をきれいにするのも森ですし、生きていく上で絶対に必要になるものをつくり出す森を守ろうという呼びかけは素晴らしいと思います。僕の住んでいる飯野町では昔養蚕業がさかんだった頃の名残でたくさんのくわの木が残っています。そこに実ったくわの実を食べたりと自然に触れられる機会がたくさんあります。そうした身近な自然に触れる機会を多く作ることが一人一人が市民憲章を守り、大切にしていく上で必要なことではないのか、と思いました。

自分に、できることとしてリサイクルや、節電、節水に取り組むことがあると思いました。福島は自然に溢れていて動植物も豊かです。農作物や果物もとてもおいしいです。それを支えているのが森であり、それをこの状態のまま残していけるよう、自分から努力していきたいと思います。

僕は福島県の自然を観光にも利用できるのではないか。と思いました。例えば、猪苗代湖は、水質もきれいで、県内でも観光をする人がたくさんいます。しかし、県外でのインパクトはあまり強くなく福島の桃ほど有名ではありません。そこで県を挙げて猪苗代湖を有名にしつつ、環境を守っていこうという呼びかけをしていけば環境を守りつつ、福島を活発にできるのではないか、と思いました。

これから僕は、身近な自然を大切にできる様、普段の生活の中で節電、節水を心がけてリサイクルに取り組み身近な自然環境を守っていきたいと思います。また、ゴミを見つけたら拾うなどの自然を大切にする行動も積極的に行い、福島市民憲章をそん重できるようにしたいと思います。

「私の好きなまちをつくるために」

福島市立飯野中学校
髙　橋　那　奈

私が思う福島のいいところは、たくさんある中でも一番は、自然が豊かなところだと思います。みわたす限りに自然があり、緑で囲まれていて、空気もとてもきれいなところです。

私は、この授業を受けて初めて市民憲章というのがあると知りました。市民憲章は、市民全ての幸せと郷土の限りない発展を願って昭和四十八年につくられたと初めて知りました。昭和四十八年というずいぶん前からあることを知り、とてもおどろきました。この市民憲章の中で私が一番これがいいなと思ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という条文です。なぜ、いいなと思ったかというと「親切で愛情あふれるまち」の「あふれる」という言葉からあふれないと市民全ての幸せが願えないから「あふれる」という言葉を使ったのかなと思いました。そこがいいなと思ったからです。あと私は、市民憲章は全部「まち」という言葉がはいっていて、それもひらがなっていうのにも意味があるのかなと思いました。「まち」を漢字で「町」とかくとその町だけで限られている感じがするので「まち」とかいて一つに限られてない感じにしたのかなと思いました。親切なまち、愛情あふれるまちというのは、例えば困っている人がいたら助けるなどしてそのようなまちをつくるといいと思いました。

私は、よりよい福島にするには人と人とのつながりをもっとしてコミュニケーションをとるといいと思いました。例えば、まちで高れい者の方や車いすの方などが荷物を持つのが大変そうだったり、困ってたりしたら見て見ぬふり、私は関係ないと思うのでなく積極的にお手伝いをします。そして、すれちがった人や会った人に先に元気にあいさつをすると「親切で愛情あふれるまち」に少しでも、近づけるのではないかと思いました。

私がこれからできることは、普段の生活の中でもよく人を見て困っている人がいたら助けてます。あとは、すれちがった人や会った人に元気で笑顔であいさつをします。そういうことの積み重ねをすれば「親切で愛情あふれるまち」をつくれるし、他の市民憲章も同じで普段なにげなくやっていることが市民憲章のようなまちをつくっていて、少しずつの積み重ねをしていけば、いつかきっと世界中の人から「福島はすごいところだよ」とか「親切で愛情あふれるところだよ」などの声がたくさん聞けると思います。私は、自分ができることを一生懸命がんばります。

「きまりを守る町をつくるため」

福島市立飯野中学校
根本　靖珠

私は、自然ゆたかでもものおいしいところが福島市のいいところだと思いました。理由は、ももが大好きで福島市のももがとてもおいしく私は、あまりのおいしさにびっくりしました。なんでこんなにもももがおいしいのだろうと私は思いました。外に出てあたりをみると自然ゆたかなことがわかりました。だから、ももがおいしいのだと思いました。

　このすばらしい福島市に市民憲章があることを私は、はじめてしりました。みかけてもよんだりしませんでした。市民憲章をよんでみると、とてもすばらしいことがかかれていました。私は、その中でいいなと思った文は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」です。理由は、先生に、なぜきまりがるのかときいてみると、きまりがないとたのしくないといわれました。なぜたのしくないのかと考えると、一人でも守らなかったらほかの人になぜ守らないの、なんでかんたんなきまりも守れないのと思われて守らなかった人も守っている人もたのしくなくなると思いました。私は、アパートにすんでいるので大声でなにかしゃべってしまうとめいわくになってしまいます。だから、しっかりすんでいる人たちは、自分のことだけではなく他の人たちのこともかんがえてくらしています。そして、ニュースでみておどろいたことがありました。障がい者の人たちがはたらいているおみせがあることです。おみせで、はたらいている人たちがえ顔ではたらいていたりそのおみせにきた人たちもえ顔でとてもすばらしいなと思いました。

　そんな福島市におねがいがあります。いまの日本では、子どもが少なくこまっています。福島市も同じく困っています。そこでちいさいおこさんやにんぷさんもはたらけるところを多くしてほしいです。そうすれば、子どもたちが多くなると思います。そして、子どもたちの小学校や中学校のまわりであぶないところはないか、てんけんしてほしいです。さいきんは、雨がふることが多いのでどしゃくずれなどがおきることが多くなると思います。このことをすれば、とてもいい福島市になると思います。

　これから、私は、ごみを道にすてたりしないし、きまりを守り、あんぜんにすごしやすい町づくりを自分からすすんでやりたいと思います。

「明るい未来へ」

福島市立飯野中学校

渡邉　陽南乃

自然が豊かで果物がおいしく、昔からの伝統文化が今でも伝わっている、これが私の考える福島のいいところです。

私は、授業で初めて福島市民憲章というものがあると知りました。市民憲章は五条からできていて、その中で私がいちばんいいなと思ったのは、「空も水もきれいなみどりのまち」です。理由は、今は森林減少や、環境、水質汚染などの問題も出ているため、減ってきている森林をあまり少なくしないようにしたほうがいいと思ったからです。それに水や空気がきたなくなってしまうと、生活が難しくなるなど、人間にも害があります。そのため、「空も水もきれいなみどりのまち」は守っていったほうがいいのではないかと思いました。

そこで、空も水もきれいなまま保つために自分になにができるのかを考えてみました。「福島市民憲章」と聞いて私は最初、「子どもである私達にできることはないのではないか。」というあきらめたような気持ちでした。でも、自分になにかできるなら、協力したいという気持ちもあって考えたことは二つです。一つ目は、まず、きれいな水についてです。水をきれいに保つためにするべきことは、洗ざいを使いすぎない、ゴミをポイ捨てしないなどだと思います。

二つ目はきれいな空についてです。きれいな空というのは空気のことなのではないかと考えたので、きれいな空気を保つためにするべきことは、木を切りすぎないこと、植物や緑を大切にすることだと思います。福島には緑がたくさんあります。だから、空気もきれいなのではないかと考えました。木を切りすぎなければ、緑が守られるので空気もきれいなままなのではないかと思いました。

これから私は、福島市民憲章を守っていくために、植物を大切にしたり、ゴミをポイ捨てしないようにしたりするなど、小さなことからでも始めていきたいと思いました。思いやりのある行動で、福島の未来へ力を発信していき、日常生活の中で心がけ、努力したいです。私が描く、希望にあふれた明るいまちにするために、福島市民憲章はかかせない存在です。そして、福島市民憲章はよりよい福島にするために、かかせないものだと思います。今回は市民憲章の一つをとりあげましたが、他の憲章もずっと守っていきたい、守っていくべきものばかりです。これからも福島市を「故郷」と胸を張って言えるように、自然や水、福島で育まれたたくさんの物を大切にしていきたいです。

「福島に輝く希望を」

福島市立飯野中学校　寺岡佳音

ももがおいしく、緑がいっぱい福島のいいところは、この二つ以外にもたくさんあって、出しても、出しても、出しきれません。私はそんな福島が大好きです。

私は授業で初めて、福島市民憲章を知りました。初めは、なんだろうと思って聞いていると、福島をもっとよりよくするために必要なんだと思いました。

中でも私がいいと思った条文は「教育と文化を尊び希望に輝くまち」です。理由は、いじめや少子化で勉強がしたくてもできなかったり、伝統的なお祭りがやりにくかったりしてそういうものにふれることができにくくなってきていると思うからです。

そこで、さらによい福島にするために私は考えました。地域内でできることを積極的に実行したり、伝統的な部分を残しつつも新しいことをやってみたりするのがいいと思いました。例えば、いじめで学校に行けない子供には、学校の先生が個別で付きあってあげたり、地域内の公民館やそういう施設で勉強会を開いてあげたりして、いじめられている子でも、学校の勉強についてこられるようにしてあげるのがいいと思いました。その結果、地域で心を開き、地域内のお祭に行ったりすれば、地域の人とたくさんつながれて、前向きになれて、学校に行きたい気持ちになったり、もっと行く日をがんばって増やそうかなという気持ちになり新しい発見ができると思いました。そしてお祭りを開催する方も、いじめられていた子に友達ができて、子供がもっときて子どもが笑顔になって、伝統的なお祭りを続けることができると思いました。

福島は一度、東日本大震災にあい、絶望に落とされました。しかしそんな中でも前向きに歩み続け、今までとほぼ同じ状態にもどりつつあります。しかし、今はまだまだ発展と中だと思います。だからこそもっと、福島市民憲章を守っていきたいと思いました。そうすれば、みんなが意識して、もっとよりよい福島になっていくと思いました。そして、私がこの作文に書いた「教育と文化を尊び希望に輝くまち」の教育が地域と一体となって実現できると思います。文化は、自分の住んでいるまちの歴史、重要な資料にたくさんふれることそして、その地域の人に出会うことがとても大切だと思います。そして、希望にあふれもっと輝けるまちになっていけるように、自分のまわりの小さなところからでも見つけられるように、自分で、考えて、自分ができるだけのことをやりたいです。

「新しい未来をつくるために」

福島市立飯野中学校
三浦凜奈

緑豊かな町。笑い声、笑顔。昔からの伝統文化。そして、人と人との絆。私たちのふるさと福島には、数えきれないほどの美しい物が溢れている。

私は、この福島に市民憲章が定められたことは知っていましたが内容はよく分かりませんでした。授業の中で市民憲章についてみんなと、自分たちに出来ることや福島をよりよい町にするにはどうしたらよいかなどを話し合いました。市民憲章の中でも特に私が守りたいと思ったのは第五条「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。なぜこれが私の一番守りたい市民憲章だったのでしょうか。私は、小さい子どもから大人までいつまでたっても健康で明るく幸せなくらしが出来るようにと思ったからです。また、事故の少ない町を目指して協力しあえればいいなと思ったからです。

私が第五条の市民憲章を守るためにこんなことが出来そうだなと思ったことがあります。それは、高齢者の運転事故が多い問題です。高齢者に免許を返納してくださいと呼びかけているニュースをよく見ます。たしかに免許を返納することで、高齢者による運転の交通事故は減少するかもしれません。ですが、高齢者の立場になるとたくさんの問題があることもわかります。例えば年金で生活している人が免許を返納したとすると交通手段が少なくなり、生活がしづらくなってしまいます。もしも免許を返納するのならば、高齢者用のバスをつくったり、タクシーを時間どおりに走らせて、むかえなどをしてあげたりすることが必要だと思います。交通手段がないと、買い物など困ってしまうことが起きると思います。高齢者は、筋力が少しずつ低下していきます。年齢とともに運転も歩行も難しくなってしまうこともあります。だからこそ、専用バスやタクシーなどを使って時間も設定して運行できれば、みんなが困ることなく、交通事故も少なくなると私は考えました。私たち中学生ができることもあります。これから、私たちが考えていく必要があるのは次の二つだと思います。

一つ目は、高齢者や子どもが困っていたら自分から声をかけて、助け合うことです。理由は、街中で荷物を持ってあげる人、席をゆずる人などを見かけて、これからも続けていきたいと思ったからです。

二つ目は、みんなが安全に過ごせるように、体をみんなで一緒に動かしていき、明るい未来をつくっていくことだと思います。理由は、みんなが体を動かし長生きができるように協力して生活してほしいからです。私は、自分で考えたこれらのことを守りながら助け合って生活していき、さらによい未来を築いていきたいと思いました。また、このことをみんなに守ってほしいので呼びかけをしたいです。

「これからの福島の未来」

福島市立飯野中学校
鳴　原　大　翔

福島市はとても素晴らしい場所だ。とても自然豊かで、空気も水も澄んでいる。福島市で作られるももやなしなどの果物は、とてもおいしい。市内の人達はとてもあたたかく、気軽に声をかけてくれる。まるで家族のようだ。

今回、そんな笑顔にあふれた福島市に福島市民憲章があることを僕は授業で初めて知った。福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限りない発展を願いながら、市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして約五十年前に制定されたそうだ。そんな市民憲章の五つの条文の中で、僕は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という条文がいいなと思った。理由は、空も水もきれいということは、福島市の人々がごみや二酸化炭素を出さないように意しきして生活しようという考えがいいと思ったからだ。福島はごみのはい出量がとても多い。そのごみを福島市民一人ひとりが出さないようにして、自然を壊さないようにしようという目標が、とてもいいと思ったからだ。また、自然を大切にするだけでなく、増やしていこうという考えも僕の考えととてもあっていていいなと思った。まちの職場や家庭を木や花でいっぱいにしようという考えがとてもいいと思えた。

それらをふまえて僕は、この素晴らしい福島をもっと素晴らしいものにするために、二つのてい案を考えた。一つ目は、福島市の人々に対して、福島市がごみを出さないようにすることや、自然をもっと大切に、そしてもっと自然を増やすことを呼びかけることだ。福島市の人々に自然をもっと大切にすることや、自然を増やすことを呼びかければきっと福島市の人々にわかってもらえると思った。二つ目は、自然をむやみに壊さないことを市民全体が意識して注意することだ。むやみに花や木を壊している人がいたら、みんなで注意をして、自然を守っていくことが、福島の美しい自然を守り、より良いものにしていくことだと思った。

最後に、僕はいままで自然をあまり大切にしていなかったが、この市民憲章をよんで、自然をもっと大切にし、そして、自然を増やしていくことこそが、これからの福島市がいままでよりも良くなる方法だと思った。だから、これからはまず自分の身近なところから守っていきたいと思う。

「福島市の未来」

福島市立飯野中学校
三　浦　　伶

ももがおいしい、水もおいしい、自然がきれいな所といったら福島市です。福島市は、木がたくさんあり、どこに行っても大きな音や車の音は吸収され、とても静かです。空気も済んでいて僕は、この市がとても大好きです。

僕は、福島に市民憲章があることを授業を通して初めて知りました。憲章を上手に活用して福島市がよくなるといいなあと思い書くと聞いた時から、とてもワクワクしていました。「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」この条文を見て、これがいいなと思いました。福島市は、空気もきれいだから空もきれいだし水もきれいだと思います。しかし、「きれいなみどりのまち」とあるのに、ゴミの量が多くまだ、きれいなとは、いえないのではないでしょうか。前にゴミの量のかいてあるグラフを見たことがあります。福島市は、ゴミの量が比較的多くそこが問題なのかなあと思いました。僕も朝、中学校に行くと中、何個かのゴミ置き場を通ります。それがどこも三分の一以上あり、ゴミの多さを実感します。

さらにゴミの少ないきれいな町の実現のために、ゴミの量を減らすと自分の利益をえられるようにすればいいと思いました。たとえばプラスチックゴミを一ヶ月間で○キロ以下にした場合福島市にあるお店の一食を食べられる券を発行すればいいと思いました。また、そうすることで市内も、にぎわうかなと思いました。ほかにはコストがかからないパッケージの商品を買ったり業務用を買ったりするとポイントが多くたまるようにしたり、ゴミ拾いに参加したらお茶を配布したりすれば、ゴミを少なくしようとする人が増えると思いました。

これから、僕のするべき事は、二つあると思います。一つ目は、積極的によびかけることです。どんなこともよびかけをし、自分達の思いを広めていくことから始まると思います。思いが広まれば、自分から取り組む人も出てくると思うので効果はバツグンだと思います。二つ目は、家でゴミを減らせたら肩たたきをし合うなど、お互いをいたわり合うことをすれば、「またやろうかな」「やってみようかな」という気持ちがわいてくると思います。そうして小さなやる気の輪が広まれば福島市は、もう「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」の条文は、完璧だと思います。僕は、そんな福島になることを信じたいです。

「未来へつなげる福島市」

桜の聖母学院中学校
清　水　桜　花

私は、この作文を書くことをきっかけに初めて市民憲章を知りました。私はこの作文をきっかけに「福島市をより良い福島市にできればいいな。」と思いこの作文を書くことにしました。

そこで私が最初に目に飛びこんできたのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。私の家の前には川が流れています。毎日カーテンを開け、外を見るとゆらゆらと光り輝く川と雲一つない快晴の空が見えます。そしてその背景にはみどり鮮やかな山や木が見えます。自然の景色なので時には川があふれたり、木がかれたりします。しかし、私はそんな景色が好きです。川があふれるのも自然との付き合いだし、木がかれてしまうのも福島の自然豊かな気候の一つとしてみりょくになるからです。

でも、他の人もみんな私と同じような気持ちではありません。きれいな川にポイ捨てをする人がいます。ペットボトルやあきカン、ナイロンぶくろなど川によく捨てられています。私は許せません。大切な福島市の、自然の川を傷つけるつもりでしょうか。また、私にはどんな気持ちでポイ捨てしているのかも分かりません。「まぁいいか。」という気持ちでしょうか。私にはそれだけが思いつきます。なぜなら、そんな経験があるからです。

最初は私も福島の自然に思いなど全くありませんでした。まだ小学校に入ったばかりの頃に母と、自然を楽しむことができる公園に行きました。その時に緑が豊かな場所でおかしを開け「まぁいいか。」と思い、おかしのふくろをポイ捨てしてしまっていました。このまま通りすぎていたら何も思わずに終わっていました。しかし、母がゴミを拾いました。不思議そうに見つめる私の視線の先には、少し前に私がポイ捨てしたゴミを持った母がいました。母はそのまま言いました。

「あのね、自然に手を加えてはだめなの。福島市の大切な自然はゴミを捨てたり、何かの手を加えたりするからどんどん崩れていってしまうんだよ。」

今の私はこの言葉があったからこそ、「自然を大切にしたい。福島市をより良く、美しくしたい。」と思うことができます。だから、母にも感謝しているし、この福島市民憲章を大切にし、守っていきたいと思います。自らポイ捨ては絶対にしない、捨ててあったら拾うことを誓います。川も空もみどりも美しくきれいな福島をつくっていきます。これからの未来は私達がつくります。いつかは「福島の自然は美しい。」ともっとたくさんの人に思われるように、自然を守り未来へつなげていきます。

「少しの勇気と思いやり」

福島成蹊中学校　藤原　寧々

去年の冬、信夫山のふもとにある祖父母の家の木にたくさんの柚子の実がなりました。祖父は、その柚子を越してきたばかりのお隣さんに持っていきました。お隣さんは、震災の被災地から越してきた高齢者夫婦です。

翌日、お隣さんは、「めずらしいものをいただいてとてもうれしかった」といって、柚子の数よりも多い位のお菓子を持ってきてくださいました。

その他にも、近くに住むおじさんからいただいた食べきれないほどの野菜を、近所の方におすそ分けと言って配ったりしてはお礼にと言って、旅行のお土産をいただいたりしています。このように、祖父母の家では、地域の方々と密接な関係を築いています。私は、このような地域の人たちとの関係は、本当に重要なことだと思います。

近年、核家族化が進み、高齢者世帯が増加していると言われています。実際、私の祖父母はどちらも七十五才を超えていますが二人で生活しており、「怪しい訪問販売や勧誘が来た」と話すのを聞くと、大丈夫だろうかと心配になります。

また、高齢になると、身体の衰え、体力の低下。判断力の低下による特殊詐欺被害など、様々な不安がありますが、近所の方との関係が密になっていれば、未然に防いだり、最悪な事態にならずに済むかもしれません。いざという時には、近所の方の助けがより重要になると思います。

現在日本では、六十五才から前期高齢者、七十五才から後期高齢者と定義されていますが、現在の六十五才超の方の多くは、とても元気に活動されています。先日、家族で出かけた山登りの際も、高齢者と呼ばれている方たちがすいすいと登っていました。

私の通っていた小学校では、朝と帰りの通学時には、高齢の方が歩道で見守りを行ってくれていました。おかげで、私は、六年間無事に学校へ通うことができました。

私は、このような元気な高齢者が地域社会で果たす役割も重要となっていると思います。私たち一人一人が出来ることは、小さい事かもしれません。しかし、少しだけ勇気をもって、近所の方に声を掛けたり、地域活動に参加することによって、お互いの事を知り、密な関係を築く事によって子どもからお年寄りまで世代を超えて安全で健康なまちをつくっていけるのではないかと思います。そして、一人一人が、常に思いやりをもって過ごしていくことで、福島がいごこちのよい場所になっていくと思います。

「一人一人ができること」

福島成蹊中学校
熊　田　　空

私は、郡山市から電車で福島成蹊中学校に通っています。その為、福島市に市民憲章が定められている事を、この作文をきっかけに知る事ができました。緑豊かで人情にあふれている福島市に毎日通学している生徒として、快適で明るいまちづくりに協力していきたいと思います。

今、私にできる事とは一体何なのか。そう考えた時に身近に感じたテーマが「親切で愛情あふれるまちづくり」でした。福島駅から中学校までは自転車で通学していま す。その間には、小さな子どもから年配の方まで、たくさんの人と会います。その際、道を譲るよう心がけたり、信号待ちをしているときは、挨拶をするようにしたり、お互いが気持ち良く過ごせるようにしたいと思います。たとえ一瞬の出会いでも、一人一人がそのように心がけていくことが、明るいまちづくりに繋がっていくのだと思います。

電車の中でも、年配の方や子どもたちと出会うことがあります。大概優先席に座られているので席を譲る機会はあまりないのですが、もし立っている方がいたら、きちんと声をかけられるか不安です。というのも、親切で声をかけたつもりが「年寄り扱いするな」と怒られた、という話も聞いたことがあり、難しい問題だと感じたからです。相手の立場に立って物事を考えるということを常に頭におくことはできても、それを行動に移すということは、とても勇気のいることです。相手のためを思い声をかけ、結果的には怒られてしまった人もとても勇気のある人だと思います。お互い不快な思いをしないように、声をかける際の言葉も慎重に考えなければいけないと考えさせられました。そして、そのような状況になったときには、勇気を出して席を譲りたいと思います。

学校生活では、先生方もクラスメートも皆親切にしてくれます。分からない問題があったら教えてくれたり、顔色が悪いときは体調を心配してくれたり、常に声をかけてくれます。成蹊中学校の素晴らしいところは、縦の繋がりが非常に強いというところです。先輩方と部活や行事で共に過ごす時間も多い中、本当に優しく接していただいています。私も周りの人に同じように接していきたいと思っています。自分がされて嬉しかったことを忘れず、感謝の気持ちを持って日々生活していきたいと思います。

親切で愛情あふれるまちは、私一人でつくることはできません。一人一人が意識をし、生活していくことで、大きな力に変わっていくものだと思っています。たとえ小さなことでも自分にできる努力を惜しまず、福島市が希望に満ちたまちになるよう行動し、生活していきたいと思います。

「福島市民憲章について」

福島成蹊中学校
菅野　はるか

　私は、この作文の課題を出されて初めて福島市民憲章を知りました。私は、小学校三年生のときに福島にきました。三年ほど福島に住んでいるのですが、私は福島市民憲章のことは、知りませんでした。母や姉もです。聞いたことがなかったと思います。たぶん、あまり知られていないのでしょう。だから、このような作文で知ってもらえるといいです。そしたら、作文を読んでいる人はもちろん、書いている人もくわしく知れると思うのです。

　福島市民憲章の内容を読んで、私がかよっていた小学校の生活に関係していると思いました。ここからは、それについて書きます。私がかよっていた小学校では、毎週火曜日の朝に、奉仕活動というものがありました。校内の掃除をしたりしました。その奉仕活動の中で福島市民憲章に関連がありそうなものが二つありました。

　一つは、あいさつ運動です。あいさつ運動とは、通学路などにならんで、会社に行く人たちにあいさつをすることです。私は、この運動は、市民憲章の一つの親切で愛情あふれるまちをつくりましょう、に関係していると思いました。なぜそう思ったかというと、あいさつは、人をつなぐ言葉だと思っているからです。あいさつをされると少しだけど明るくなれる気がします。また、それが朝だと一日元気に過ごせると思います。

　二つ目は、学校の近くにある公園のゴミ拾いです。私は、その活動をして、初めて公園の掃除や落ち葉はきなどは自分たちですると知りました。そしてその活動は、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう、に関係していると思いました。その公園は、あまり人がこないのですが、タバコなどは、よく落ちています。夏休みあけに、その活動をしたら、かなりゴミなどが落ちていました。そこで私は、公園掃除などは、誰かがやってくれると思うのは間違いと知りました。

　そしてそのような活動をとおして福島市民憲章に関連していると思いました。このようにふだんなにげなくしていることでも関係していることがあります。福島市民憲章を知ってもらうだけでなく、自分でできることはしてみる。そう思いました。私は、福島市民憲章を読んで改めて福島市のことや、小学校での生活をふりかえることができました。

「福島にしかない自然」

福島成蹊中学校　加藤　ひな乃

福島市は山々に囲まれ、空は澄み、とても美味しい水がある。さらに、田畑が多くとても居心地が良い。

私はこの、素晴らしい町で生まれ、今を生きている。今回、この作文を書くにあたって「空も水もきれいなみどりのまち」というテーマに決めたのには理由がある。それは、私は福島の自然が大好きだからだ。だからこそ、この作文を通じてより多くの方々に福島の自然に感心を持ってもらいたいのだ。

さて、今世界は多くの環境問題を抱えている。代表的なのは、水不足と温暖化といったところだろうか。だが日本はそういった危機に直面しているという認識が低いと思う。

日本は、水が豊富にあり、はっきりとした四季がある。だからこそ、感じにくいところがあるのかもしれない。

だが、よく考えてほしい。近年、自然で変わった事はないだろうか。私は二、三年での変化を身をもって感じている。

何より気温だ。調べた結果、一昨年の八月の平均は約二十八度だった。昨年は一気に上昇し、三十六度だった。このままでは危ない。先人たちが築き上げた自然ガス類によって引き起こされた環境問題のせいで壊されてしまう。もし、壊されてしまったら、みどりで溢れている福島の姿はどうなってしまうのだろう。

では、一体、私達にできることは何だろうか。節電・節水する事だろうか？そのような事も勿論大切だ。

だが、もっともっと大切な事が私達には、あるはずだ。それは、「自然の大切さを深く理解し、福島を、福島の自然を愛する事」だと私は考える。

自然が私達人類にとってかけがえのないものという事を深く理解すれば、自然と節電や節水などの行動をするようになるだろう。そして、自然とふれあう機会が増え、今以上に福島の町は美しくなり、人々の笑顔も、溢れかえるはずだ。一人一人が普段とは違う視点で自然を見渡し、捉え方や意識を変えるだけで、町はどんどん美しくなっていくのだ。

福島を想う気持ちがあれば、福島はいくらでも美しくなる。

是非、以上のような心がけをし、福島を、「空も水もきれいなみどりのまち」にしていってほしい。福島の自然は私達、市民にかかっている。

福島市民一丸となって、より良い、最高の福島にしていこうではないか。

「福島の沢山の自然」

福島成蹊中学校
遠藤綺女

私は、福島が自然が沢山あってきれいなまちだといいなと思っています。自然が沢山あるとストレスが緩和されるし、きれいだと気持ちがよくなります。

福島は夏はとても暑くて、逆に冬はすごく寒くて雪もたくさん降ってきたりで大変だけれど、季節によって変わる自然を見ていると不思議といやなことを忘れることができるくらい、きれいです。春は桜が咲いていたり一番自然が多くて私のお気に入りの季節です。夏は朝顔やヒマワリと緑の山、秋はコスモスやとんぼや紅葉した山、冬は椿や雪ぼうしをかぶった山など、一年を通して四季折々にとても美しい自然が福島にはたくさんあると思います。

でも、知らない間に少しずつ自然はなくなってきています。今までは畑だった土地も、そんな畑は最初からなかったかのように、駐車場やアパート、家が建っています。こんなふうに身近な場所でもどんどん自然は少なくなってきています。自然はこれから先もずっと守っていかなければいけないものです。そして、それを守っていくのはこれから大人になる私達だと思います。

福島を自然が沢山あって、きれいなまちにするために、がんばりたいことが二つあります。一つ目は、ポイ捨てをしないことです。当たり前のように思うかもしれませんが、それをしている人がいます。そこで、ポイ捨てをなくせば道はきれいになるし、自然も汚されずに済みます。それに、きれいな場所にはごみを捨てたりすることはできないと思うので、ポイ捨てはしないようにしたいです。二つ目は、自然を大切にすることです。たくさんあるんだしちょっとぐらい、と思ってはダメです。たくさんあるからこそ、大切にしていけばもっと緑が増えていくと思います。

これらの他にも、私達ができることはたくさんあると思います。みんなで実行していけば、自然が沢山あり、きれいな福島になるのだと思います。私も、少しずつ実行していって、いつか自然がいっぱいの福島を他県の友達にじまんしたいです。